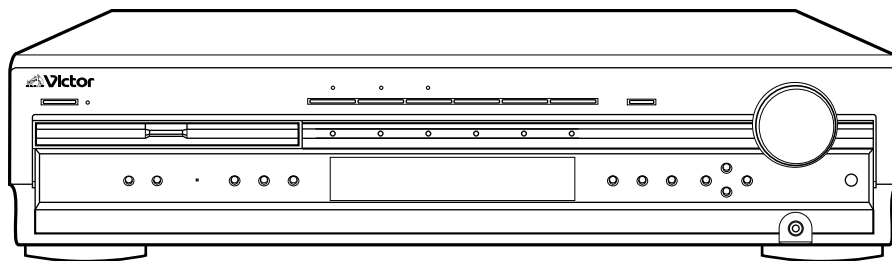
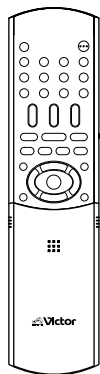
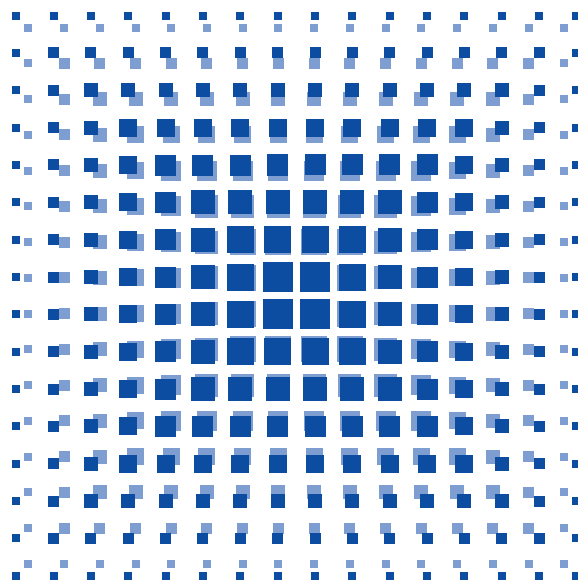
取扱説明書

プログレッシブ DVD 内蔵 AV レシーバー

型名 RX-DV31

Audio/Video DVD Receiver RX-DV31

AV COMPU LINK

Digital Direct Progressive

お買い上げいただき、ありがとうございます。

⚠ ご使用の前に

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
特に 4 ～ 7 ページの「安全上のご注意」は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。
お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

LVT1001-015A

目　次

お使いになる前に　ページ

とりあえず簡単操作　ページ

その他の基本操作　ページ

■ ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。
特に、夜は小さな音でも周囲によく通るものです。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

DVDを使いこなす　ページ

いろいろな設定をする　ページ

知っておいてほしいこと　ページ

安全上のご注意　ーはじめにお読みくださいー

絵表示について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵表示が記載されています。
これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

● この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示しています。

⚠注意

● この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「傷害を負ったり物的損害が想定される」内容を示しています。

●絵表示の説明

注意をうながす記号

一般的注意

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

水ぬれ禁止

行為を指示する記号

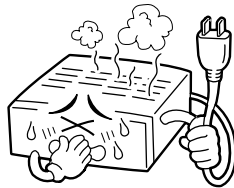
一般的指示

電源プラグを抜く

⚠警告

万一、次のような異常が発生したときはすぐ使用をやめる。

• 煙が出ている、へんなにおいがするとき

電源プラグを抜く

• 内部に水や異物が入ってしまったとき
• 落としたり、破損したとき
• 電源コードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）

電源プラグを抜く

すぐに電源を「切」にし、必ず電源プラグをコンセントから抜く。異常が発生したまま使用していると、火災や感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理を依頼してください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

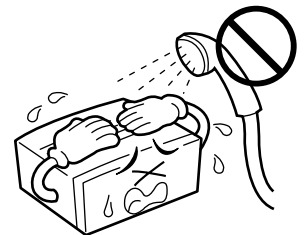
分解や改造をしない。カバーを外さない。

火災や感電の原因となります。
内部の点検や修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

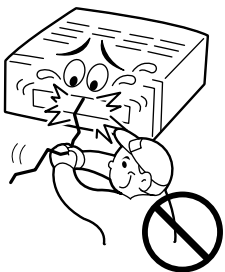
分解禁止

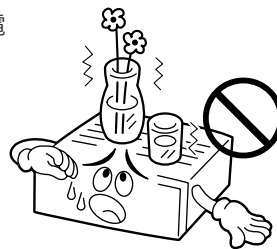
風呂場やシャワー室では使用しない。

本機の中に水が入ると、火災や感電の原因となります。

水場での使用禁止

⚠警告

本機の中に物を入れない。

通風孔などから、金属物や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。特に小さいお子様のいるご家庭では注意してください。

本機の上に水などの入った容器を置かない。

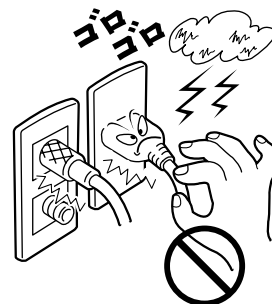
花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など水の入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に水が入った場合は、火災や感電の原因となります。

電源コードを傷つけない。

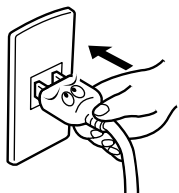
電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。
特に、次のことに注意してください。

- 電源コードを加工しない
- 電源コードを無理に曲げない
- 電源コードをねじらない
- 電源コードを引っ張らない
- 電源コードを熱器具に近づけない
- 電源コードの上に家具などの重い物をのせない

雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグに触れない。

感電の原因となります。

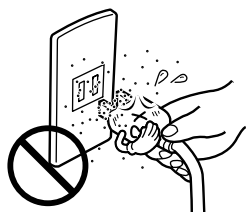
接触禁止

電源プラグは根元まで確実に差し込む。

差し込みが不完全ですと、発熱したりほこりが付着して火災や感電の原因となります。また、たこ足配線も、コードが熱を持ち危険ですのでしないでください。

表示された電源電圧（交流100ボルト）で使用する。

表示された電源電圧以外では、火災·感電の原因となります。本機を使用できるのは日本国内のみです。

This set is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

電源プラグは定期的に清掃する。

電源プラグとコンセントの間に、ゴミやほこりがたまって湿気を吸うと、絶縁低下を起こして、火災の原因となります。定期的に電源プラグをコンセントから抜き、ゴミやほこりを乾いた布で取り除いてください。

本機の包装に使用しているポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かない。

頭からかぶると窒息の原因となります。

⚠注意

電源プラグは、コードの部分を持って抜かない。

電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。
電源プラグを持って抜いてください。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

通風孔をふさいだり、風通しの悪い場所で使用しない。

本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。特に次のことに注意してください。

- あお向けや横倒し、逆さまにしない
- 本箱、押し入れなど風通しの悪い狭い所に押し込まない
- テーブルクロスを掛けない
- 本や雑誌などをのせない
- じゅうたんや布団の上に置かない
- 設置する場合は、壁から10cm以上離してください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から10cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。

設置場所に注意する。

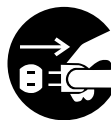
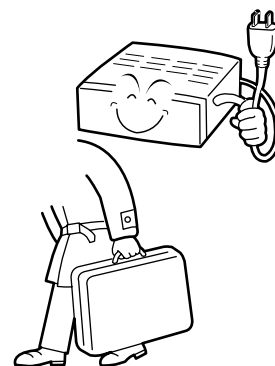
次のような所に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。

- 湿気やほこりの多い所
- 直射日光の当たる所や、熱器具の近くなど高温になる所
- 窓ぎわなど水滴の発生しやすい所

本機の上に重い物を置かない。

テレビなどの重い物や本機からはみ出るような大きな物を置くと、バランスがくずれて倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

長期間使用しないときは、電源プラグを抜く。

電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。安全および節電のため、電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源プラグを抜く

⚠注意

お手入れをするときは、電源プラグを抜く。

電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。電源プラグがコンセントに接続されていると、感電の原因となることがあります。

移動するときは、接続コード類や電源プラグを抜く。

接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

はじめから音量を上げすぎない。

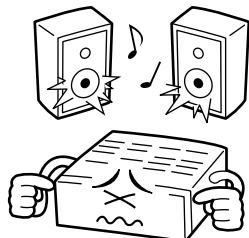
突然大きな音が出て、スピーカーを破損したり、聴力障害の原因となることがあります。
電源を切る前に音量（ボリューム）を下げておき、電源が入ってから徐々に上げてください。

3年に一度は内部の清掃を販売店に依頼する。

内部にほこりがたまったまま使用すると、火災の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行なうと、より効果的です。

電池の取り扱いに注意する。

電池の取り扱いを誤ると、電池が破裂したり、液もれして、火災·けがや周囲を汚す原因となることがあります。
次のことに注意してください。

- 指定以外の電池を使用しない
- 電池のプラス（＋）とマイナス（－）を間違えない

- 電池のプラス（＋）とマイナス（－）をショートさせない
- 電池を加熱しない
- 分解しない
- 火や水の中に入れない
- 新しい電池と一度使用した電池を混ぜて使用しない
- 種類の違う電池と混ぜて使用しない
- 乾電池は充電しない
- 長期間使わないときは、電池を取り出しておく

もし、電池が液もれをしてしまったときは、電池ケースについた液をよく拭きとってください。万一、もれた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

設置についてのご注意

故障などを防止するため次の場所は避けてください。

- 不安定な所
- 振動の激しい所
- 湿気やほこりの多い所

寒い所から急に暖かい部屋へ移動したときは、約1～2時間待ってから電源を入れてください。

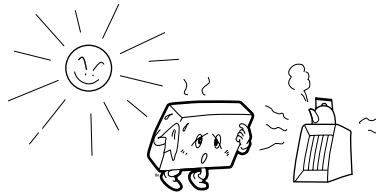
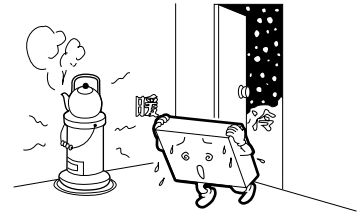
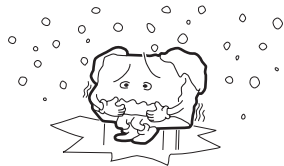
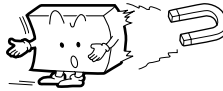
使用中の本体の温度上昇について

使用状態によっては、本体の温度が上昇することがありますが、これは故障ではありません。
特に、大音量で使い続けると本体キャビネットが熱くなります。このようなときは、火傷などの原因となりますので本体には触れないようにしてください。

ご使用になる前に

本機の置き場所について

本機は5℃から35℃までの温度で使用できるように設計されています。これを超える温度環境で使用すると、誤動作をしたり、故障の原因となります。また故障などを防止するため次の場所は避けてください。

・ 湿気やほこりの多い所

・ 直射日光が当たる所や暖房器のそば

・ 寒い所から急に暖かい部屋へ移動したあとしばらくの間

・ 極端に寒い所

・ 磁気を発生する所
・ 振動の激しい所
・ OA機器やけい光灯のすぐそば

露(水滴)がついたら

次のような場合、本機内部のレンズに露(水滴)が付いてDVDやCDなどが正しく再生できないことがあります。

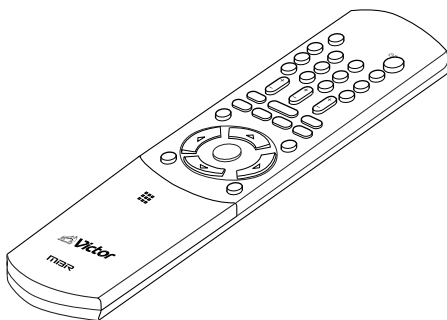
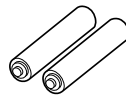
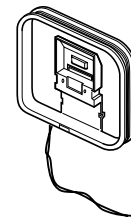
- 暖房を始めた直後
- 湯気や湿気の多いところに置いてあるとき
- 寒い所から急に暖かい部屋に移動したとき

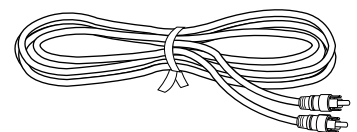
このようなときは、電源を入れたまま、1〜2時間待ってからお使いください。

■設置上のご注意

本機はハイパワーであるため、連続動作や大音量動作によっては、本体内部の温度が上昇します。十分な冷却効果を得るため本体周囲の通風孔をふさがないようご注意ください。

付属品

お使いになる前に付属品をお確かめください。
不足しているものがありましたら、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

リモコン(RM-SRXDV31)(1個)

単3形乾電池(2本)
(リモコン動作確認用)

AMループアンテナ(1個)

FM簡易型アンテナ(1本)

ビデオコード 長さ約3m(1本)

- このほかに、取扱説明書(本書)や保証書が添付されています。

ディスクの予備知識

本機で再生できるディスク

本機で再生できるディスクは以下のとおりです。

再生できるディスク	記録内容	ディスクの大きさ
DVDビデオ (DVD VIDEO)	音声＋映像	12センチ
		8センチ
DVDオーディオ (DVD AUDIO)	音声＋映像	12センチ
		8センチ
ビデオCD (COMPACT disc DIGITAL VIDEO / Video CD)	音声＋映像	12センチ
		8センチ

再生できるディスク	記録内容	ディスクの大きさ
スーパービデオCD (COMPACT disc SUPER VIDEO / VIDEO CD)	音声＋映像	12センチ
		8センチ
オーディオCD (COMPACT disc DIGITAL AUDIO)	音声	12センチ
		8センチ

DVDビデオフォーマットで記録したDVD-Rディスクは再生できます(ただし、ディスクの特性や記録状態によっては、再生できないこともあります)。

• CDフォーマットおよびMP3ファイルやJPEGファイルが記録されたCD-RおよびCD-RWディスクは再生できます。

再生できないディスク

·DVD-ROM　·DVD-RAM　·DVD-RW　·CD-ROM　·SACD　·フォトCD

これらのディスクを再生することはできません。誤って再生すると、ノイズが発生することがあります。また、発生したノイズによってスピーカーを破損することがあります。CDグラフィックス、CDエキストラ、CDテキストの場合、音声のみ再生できます。

お知らせ

• 本機では、CD規格(CD-DA)に準拠しないディスクについては、動作や音質を保証できません。
CDを再生するときは、「CDロゴマーク」の有無や、パッケージのご注意をお読みになり、CD規格に準拠するディスクであることをお確かめください。

CDロゴマーク

リージョンコード(再生可能地域番号)について

DVDビデオにはリージョン番号と呼ばれる、再生可能地域番号がついています。この番号がDVDプレーヤーのリージョン番号と合致しないと再生できません。**本機のリージョンコードは「2」ですので、DVDのディスク上に「2」という番号が含まれているディスクに限り再生することができます。**

テレビ方式について

本機は日本やアメリカなどのテレビ方式であるNTSC(エヌティーエスシー)方式に適合しています。NTSC方式以外のテレビ方式(PAL(パル)など)のディスクは、NTSC方式に変換して再生します。

お知らせ

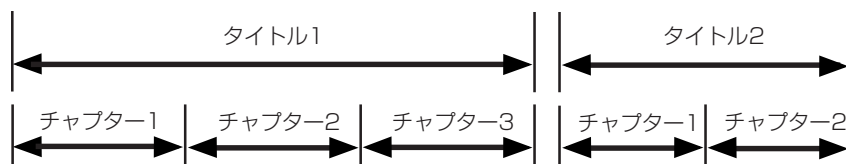
• DVDビデオ、DVDオーディオ、ビデオCDおよびスーパービデオCDは、ソフト製作者の意図により再生状態が決められていることがあります。
本機は、ソフト製作者が意図したディスク内容に従って再生をしますので、操作した通りに機能が働かないことがあります。
このようなときは、テレビ画面に「⊘」が表示されますが、表示されないときもありますのでご注意ください。

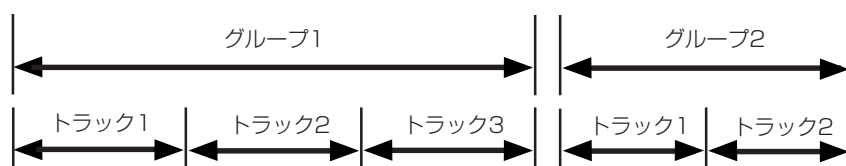
• DVDビデオの2層ディスクの場合、1層目から2層目に切り換わるとき、音声や映像が乱れることがありますが、これは故障ではありません。

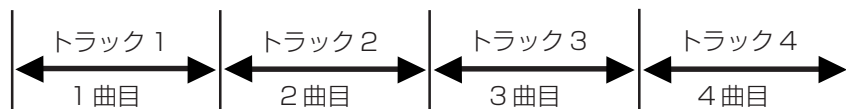
• NTSC方式以外のテレビ方式で収録されたディスクを再生するときは、プログレッシブスキャンモード(➡ 38 ページ)での映像はお楽しみいただけません。

再生できるディスクについて

■ DVDビデオ

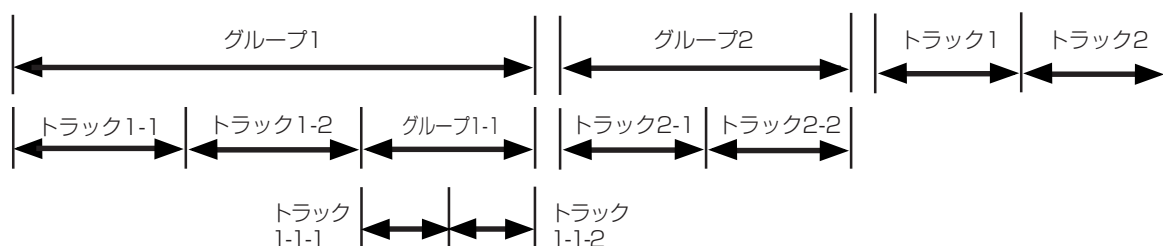
DVDビデオは、「**タイトル**」と呼ばれるいくつかの大きな項目から構成されています。タイトルはさらに「**チャプター**(章)」という小さな項目に分割されています。
タイトルとチャプターには番号(タイトル番号、チャプター番号)が付けられていますので、見たい項目だけを選んで再生することができます。ただし、ディスクによってはタイトルやチャプターに分割されていないものもあります。

■ DVDオーディオ

DVDオーディオは、「**グループ**」と呼ばれるいくつかの大きな項目から構成されています。グループはさらに「**トラック**」という小さな項目に分割されています。また、DVDオーディオには、「ボーナスグループ」と呼ばれるグループがあり、これは暗証番号を入力して再生することができます(「ボーナスグループを再生する」 ➡ 58 ページ)。
DVDオーディオは、CDの約7倍の容量を持っています。この大容量により、長時間記録や高音質化に対応しています。

■ ビデオCD/スーパービデオCD/オーディオCD

ビデオCD、スーパービデオCDおよびオーディオCDは、「**トラック**」という項目で構成されています。トラックには番号(トラック番号)が付けられています。たとえば2曲目は、「トラック2」となります。
ただし、ディスクによってはトラックに分割されていないものもあります。また、「インデックス」と呼ばれる頭出しマークが記録されているディスクもあります。(本機は「インデックス」には対応していません。)

■ MP3ディスク/JPEGディスク

本機はMP3ファイルやJPEGファイルを記録したCD-R/CD-RWディスクを再生することができます(本取扱説明書ではこれらのディスクを「MP3ディスク」「JPEGディスク」と呼びます)。

- 本機で再生できるMP3ディスク/JPEGディスクは、ISO9660フォーマット(レベル1またはレベル2)で記録されたCD-R/CD-RWディスクです。

MP3ディスク/JPEGディスクには、それぞれの曲が各「**トラック(ファイル)**」として記録されています。また複数のトラック(ファイル)をカテゴリー別、アーティスト別などの「**グループ(フォルダ)**」にまとめて分類できます。またグループの中に「サブ・グループ」を作って、グループを階層構造にできます。このグループ階層はパソコンにおけるフォルダの階層構造と同じです。

お知らせ

- MP3ディスクの音声信号は、本体背面の**デジタル出力端子**からは出力されません。
- ディスクの記録状態や特性により再生できないことがあります。
- 6つ以上のセッション記録を持つマルチセッション・ディスクでは、すべてのセッションを再生することはできません。
- パケットライト方式(CD-Rの書き込み方式のひとつ)で記録されたディスクは、再生できません。
- 本機はMP3の「ID3v1(ID3バージョン1)タグ」と「ID3v2(ID3バージョン2)タグ」の2バージョンに対応しています。
- ファイナライズ(再生対応機器で再生できるようにする操作)されていないディスクは、再生できません。

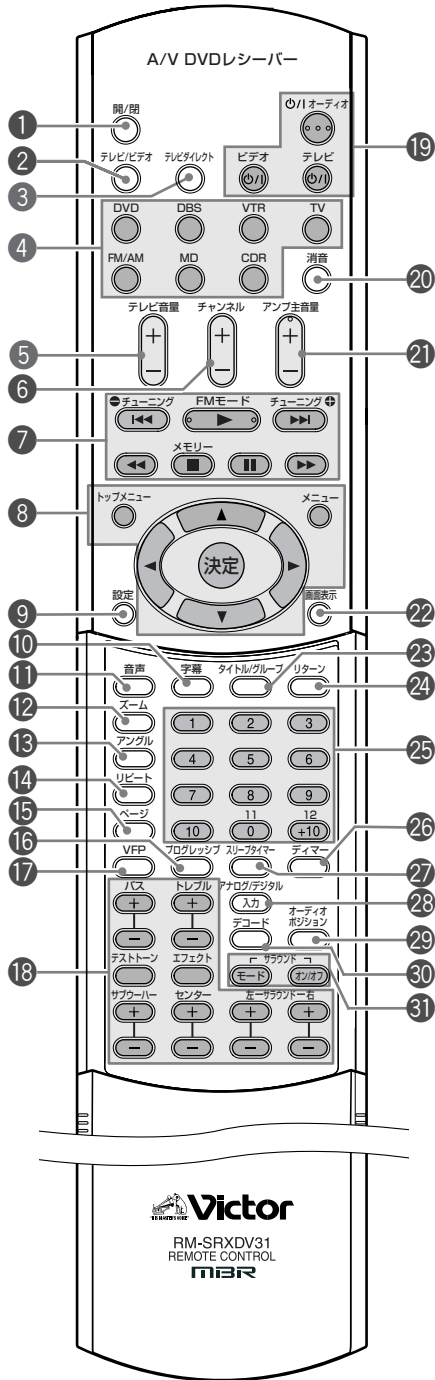
各部の名前　—□内の数字のページに説明があります。—

リモコン（RM-SRXDV31）

フタを開けたところ

＊ 上図の⑤〜⑨および⑳〜㉒の各ボタンは、暗いところでも発光します。

フタの開けかた

上図の⑩〜⑱および㉓〜㉛の各ボタンは、フタの中にあります。

① **開/閉ボタン** [26]
② **テレビ/ビデオボタン** [29] [97] [98]
③ **テレビダイレクトボタン** [35]
④ **ソース機器選択ボタン** [26] [28]〜[30]
- DVDボタン
- DBSボタン
- VTRボタン
- TVボタン
- FM/AMボタン
- MDボタン
- CDRボタン

⑤ **テレビ音量(＋/－)ボタン** [29] [97] [98]
⑥ **チャンネル(＋/－)ボタン** [29] [97] [98]
⑦ **操作ボタン**
- ▶▶Iボタンと I◀◀ボタン
  チューニング(⊕/⊖)ボタン [30]
- ▶（再生）ボタン
  FMモードボタン [33]
- ▶▶ボタンと◀◀ボタン
- ■（停止）ボタン
  メモリーボタン [96]
- II（一時停止）ボタン

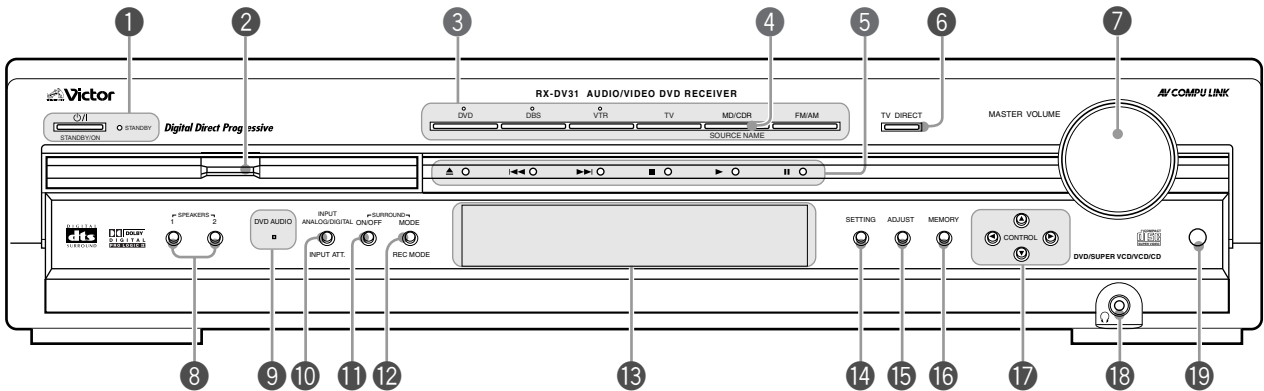
⑧ **メニュー操作ボタン**
- トップメニューボタン [62]
- メニューボタン [62]
- カーソルボタン（▲/▼/◀/▶）と決定ボタン

⑨ **設定ボタン** [85]
⑩ **字幕ボタン** [66]
⑪ **音声ボタン** [65]
⑫ **ズームボタン** [61]
⑬ **アングルボタン** [67]
⑭ **リピートボタン** [64] [81] [83]
⑮ **ページボタン** [61]
⑯ **プログレッシブボタン** [38]
⑰ **VFPボタン** [68]
⑱ **音量調節ボタン** [51] [55] [96]
- バス(＋/－)ボタン
- トレブル(＋/－)ボタン
- テストトーンボタン
- エフェクトボタン
- サブウーハー(＋/－)ボタン
- センター(＋/－)ボタン
- サラウンド･左(＋/－)ボタン
- サラウンド･右(＋/－)ボタン

⑲ **電源ボタン** [26]〜[31] [97] [98]
電源を「入」⟺「切」するときに使います。
- ⏻/Iオーディオボタン
- ⏻/Iビデオボタン
- ⏻/Iテレビボタン

⑳ **消音ボタン** [34]
㉑ **アンプ主音量(＋/－)ボタン** [27] [29] [31]
㉒ **画面表示ボタン** [69] [71]〜[79]
㉓ **タイトル/グループボタン** [58]
㉔ **リターンボタン** [63]
㉕ **数字ボタン** [29]
㉖ **ディマーボタン** [34]
㉗ **スリープタイマーボタン** [35]
㉘ **アナログ/デジタル入力ボタン** [36]
㉙ **オーディオポジションボタン** [51]
㉚ **デコードボタン** [37]
㉛ **サラウンドボタン** [27] [29] [31] [54]
- サラウンドモードボタン
- サラウンドオン/オフボタン

各部の名前（つづき） —□内の数字のページに説明があります。—

本体（RX-DV31）

❶ ⏻/I STANDBY/ONボタンとSTANDBYランプ [26]～[31]
電源を「入」⟷「切」するときに押します。
STANDBYランプは、電源「切」で赤く点灯し、電源「入」で消えます。

❷ ディスクトレイとイルミネーションランプ [26]

❸ ソース機器選択ボタン [26] [28] [30]
- DVDボタン、DBSボタン、VTRボタン、TVボタン、MD/CDRボタン、FM/AMボタン

ビデオ機器ランプ [35]
- DVD、DBS、VTR

❹ SOURCE NAMEボタン [36]

❺ DVDプレーヤー操作ボタン
- ⏏(開/閉)ボタン、►►|ボタン/|◄◄ボタン、■(停止)ボタン、►(再生)ボタン、❚❚(一時停止)ボタン

❻ TV DIRECTボタン [35]

❼ MASTER VOLUMEつまみ [27] [29] [31]

❽ SPEAKERS 1 ボタンとSPEAKERS 2 ボタン [34]

❾ DVD AUDIOランプ [27]

❿ INPUT ANALOG/DIGITALボタン [36] [37]
INPUT ATT.ボタン [38]

⓫ SURROUND ON/OFFボタン [27] [29] [31] [54]

⓬ SURROUND MODEボタン [27] [29] [31] [54]
REC MODEボタン [39]

⓭ 表示窓
下記をご覧ください。

⓮ SETTINGボタン [40]～[42] [44]～[48]

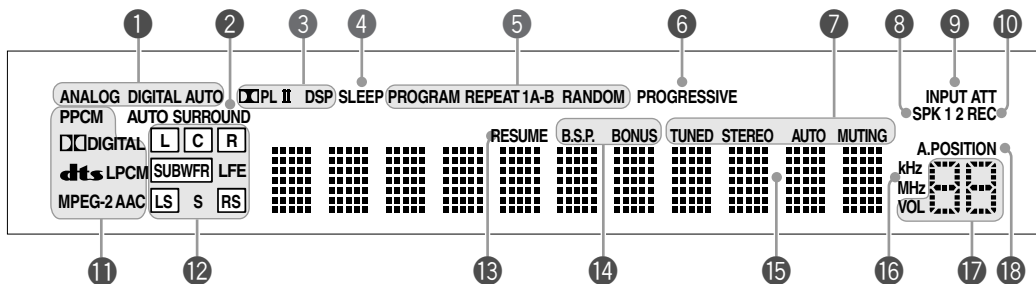
⓯ ADJUSTボタン [49]～[51]

⓰ MEMORYボタン [32] [42]

⓱ CONTROL(▲/▼/►/◄)ボタン

⓲ ヘッドホン(Ω)端子 [34]

⓳ リモコン受光部 [25]

表示窓

❶ アナログ/デジタル入力信号表示 [36]
ANALOG表示、DIGITAL AUTO表示が点灯します。

❷ AUTO SURROUND表示 [41]

❸ サラウンドモード表示 [52] [53]
DDPLII表示、DSP表示が点灯します。

❹ SLEEP表示 [35]

❺ 再生モード表示 [74]～[77] [81] [83]
PROGRAM表示、REPEAT 1、REPEAT A-B表示、RANDOM表示が点灯します。

❻ PROGRESSIVE表示 [38]

❼ ラジオ受信状態表示 [31] [33]
TUNED表示、STEREO表示、AUTO MUTING表示が点灯します。

❽ フロントスピーカー切り換え表示 [34]
SPK 1表示、SPK 2表示が点灯します。

❾ INPUT ATT表示 [38]

❿ REC表示 [39]

⓫ デジタル信号方式表示 [37] [52] [53]
PPCM表示、DDDIGITAL表示、dts表示、LPCM表示、MPEG-2 AAC表示が点灯します。

⓬ スピーカー表示/音声チャンネル表示
[13]ページの「スピーカー表示と音声チャンネル信号表示について」をご覧ください。

⓭ RESUME表示 [57]

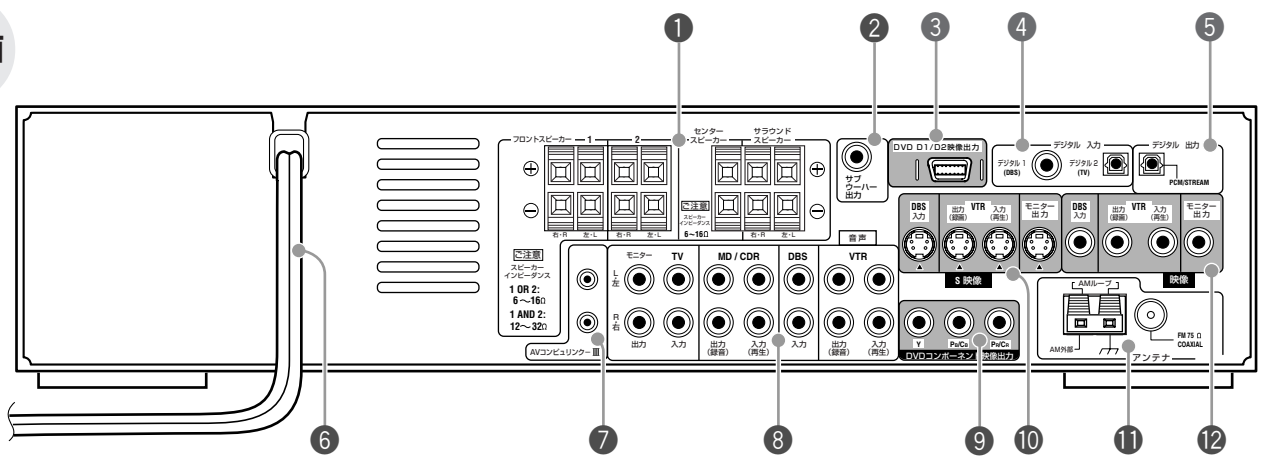
⓮ DVDオーディオ表示 [27]
B.S.P.表示、BONUS表示が点灯します。

⓯ 文字/時間表示部

⓰ ラジオ周波数単位表示

⓱ VOL表示

⓲ A(audio).POSITION表示 [51]

背　面

❶ **スピーカー端子** 16
フロントスピーカー1、フロントスピーカー2、センタースピーカーおよびサラウンドスピーカーを接続します。

❷ **サブウーハー出力端子** 17
アンプ内蔵のサブウーハーを接続します。

❸ **DVD D1/D2映像出力端子** 20 21
テレビ(モニター)にD端子やコンポーネント端子が付いているときに接続します。

❹ **デジタル入力端子** 19 24
外部機器のデジタル音声出力端子と接続します。同軸デジタル端子(デジタル 1)と光デジタル端子(デジタル 2)があります。

❺ **デジタル出力端子** 24
外部機器のデジタル音声入力端子と接続します。

❻ **電源コード** 25
家庭用のコンセント(交流100ボルト)に接続します。

❼ **AVコンピュリンク-Ⅲ端子** 95
ビクター製のAV機器のAVコンピュリンク端子と接続します。

❽ **音声入出力端子** 19 22
入力端子：TV入力、MD/CDR入力(再生)、DBS入力、VTR入力(再生)
出力端子：モニター出力、MD/CDR出力(録音)、VTR出力(録音)

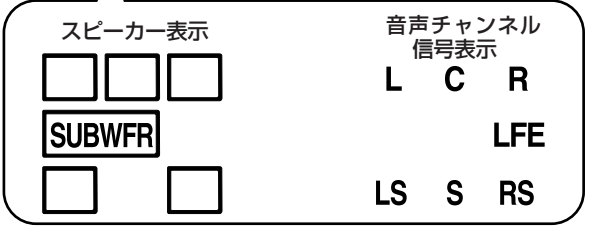
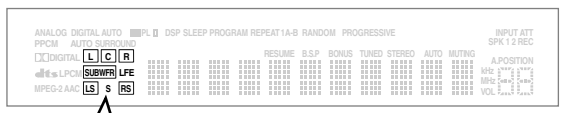
❾ **DVDコンポーネント映像出力端子** 20
テレビのコンポーネント映像入力端子と接続します。

❿ **S映像入出力端子** 21 23
入力端子：DBS入力、VTR入力(再生)
出力端子：VTR出力(録画)、モニター出力

⓫ **アンテナ端子** 14
FMおよびAMのアンテナを接続します。

⓬ **映像入出力端子** 21 23
入力端子：DBS入力、VTR入力(再生)
出力端子：VTR出力(録画)、モニター出力

スピーカー表示と音声チャンネル信号表示について

再生しているスピーカーと音声チャンネル信号を表示します。

スピーカー表示

- サブウーハーの設定を「YES」にしているときは、「SUBWFR(サブウーハー)」表示が点灯します。(➡ 44 ページ)
- サブウーハー以外のスピーカーは、選択中のサラウンドに有効なスピーカーのみが表示され点灯します。

音声チャンネル信号表示

再生されている音声チャンネル信号が表示されます。

- **L**　：左フロントチャンネル
- **R**　：右フロントチャンネル
- **C**　：センターチャンネル
- **LS**　：左サラウンドチャンネル
- **RS**　：右サラウンドチャンネル
- **S**　：モノラルサラウンドチャンネル
- **LFE**：LFEチャンネル

接　続 ―接続が終わるまで電源は入れないでください。―

接続上のご注意

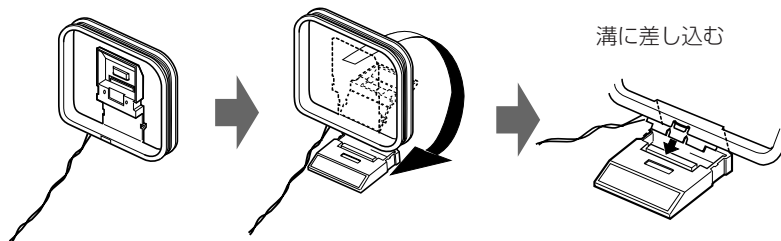
- すべての接続が終わってから、電源コードをコンセントに差し込んでください。
- コードやプラグは確実に接続してください。不完全な接続は、音が出なかったり、雑音を発生させる原因になります。

アンテナを接続する

AM放送用(AMループアンテナ)とFM放送用(FM簡易型アンテナ)の各アンテナを接続します。アンテナを接続しないとラジオを聞くことはできません。

AMループアンテナ(付属品)の接続

AMループアンテナ(付属品)を準備する

溝に差し込む

AMループアンテナ(付属品)を本体からできるだけ離し、左右に回して最も良く受信できる所に置きます。束ねてあった線は、よく伸ばして使ってください。
また、金属製の机の上などには置かないでください。

■付属のAMループアンテナではうまく受信できないとき

AMループアンテナを接続しているAM外部端子にケーブル(電線)を一緒に接続します。
窓際や屋外のなるべく高い位置に水平に張ると効果的です。

AMループアンテナ
ケーブル(電線)
ケーブル(電線):3～5m(市販)

AMループアンテナ(付属品)を接続する

1 レバーを押す

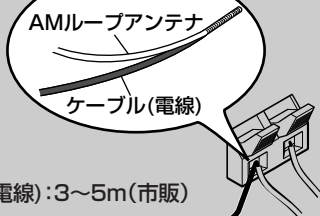
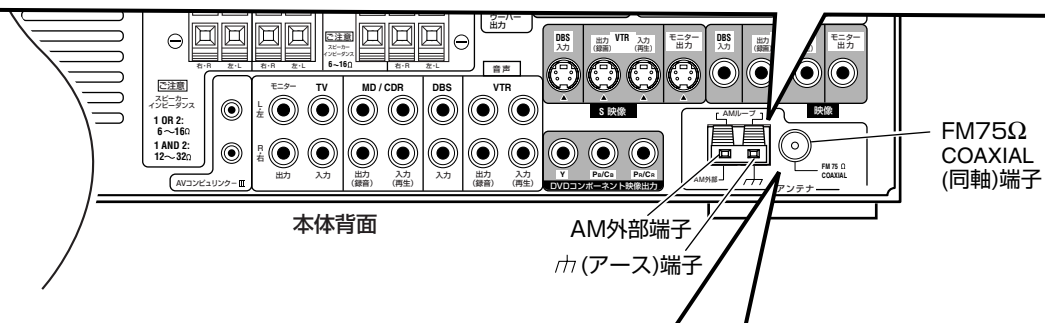
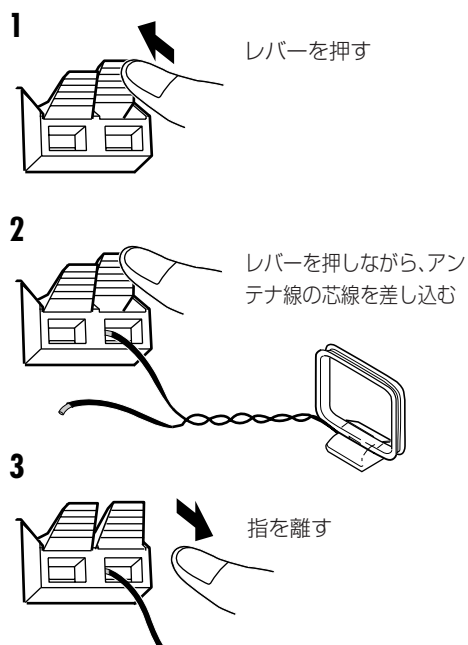
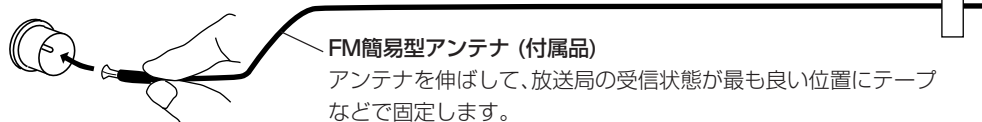
2 レバーを押しながら、アンテナ線の芯線を差し込む

3 指を離す

本体背面

FM75Ω COAXIAL (同軸)端子

AM外部端子

⏚(アース)端子

FM簡易型アンテナ(付属品)の接続

中央のピン部に差し込みます。

FM簡易型アンテナ (付属品)
アンテナを伸ばして、放送局の受信状態が最も良い位置にテープなどで固定します。

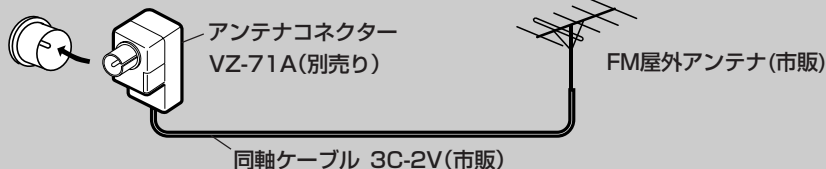
■付属のFM簡易型アンテナではうまく受信できないとき
■マンションなどの壁面の共聴アンテナ端子を使うとき

FM屋外アンテナや壁面の共聴アンテナ端子に接続します。

- 市販の同軸ケーブルとアンテナコネクターを準備してお使いください。詳しくは、販売店にお問い合わせください。

アンテナコネクター VZ-71A(別売り)

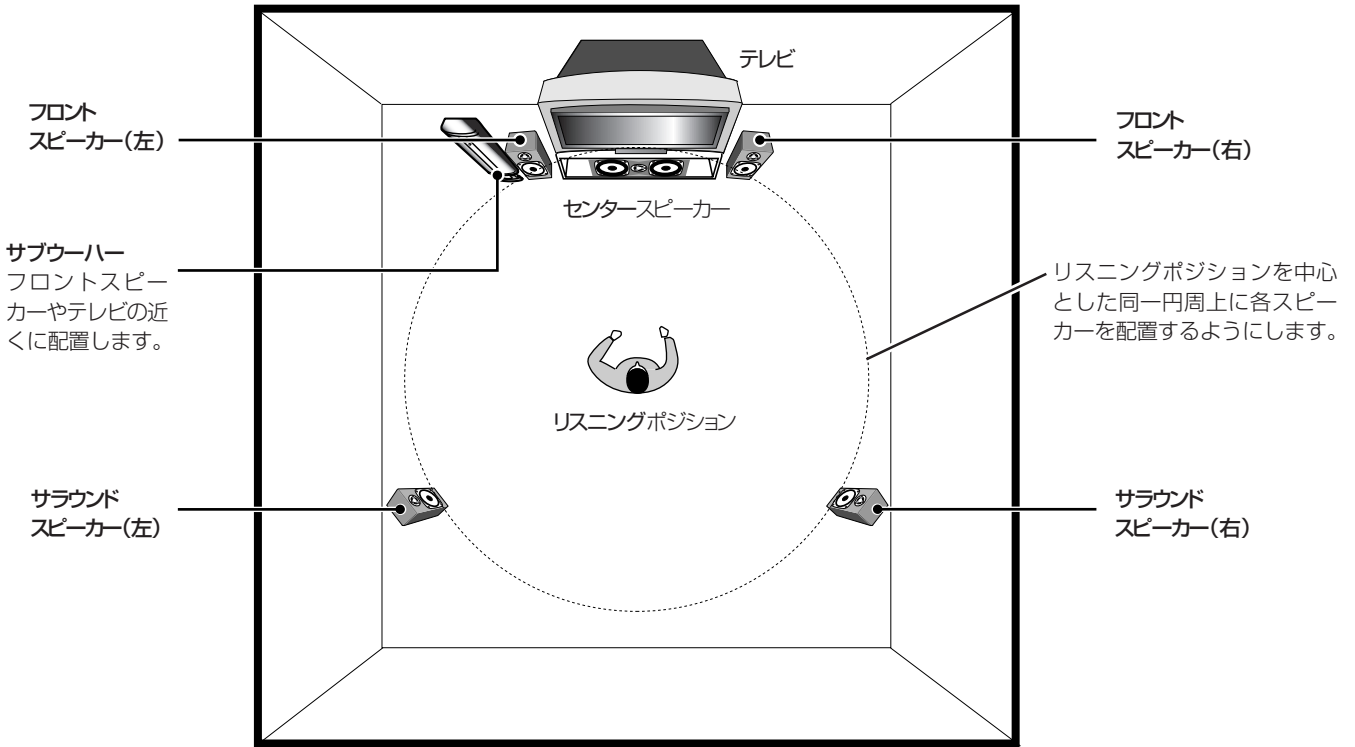
FM屋外アンテナ(市販)

同軸ケーブル 3C-2V(市販)

スピーカーを接続する

■スピーカーの配置について

本機は、ドルビーデジタル 5.1ch、DTS 5.1ch、MPEG-2 AACサラウンド、ドルビープロロジックIIに対応しています。スピーカーを同時に最大6本使用*して、より臨場感のある音場を創ることができます。
スピーカーを配置するには、下の配置例を参考に実際に聞きながら最適なサラウンド効果、残響効果が得られる向きや場所を探して設置してください。部屋の間取りなどで理想的な配置がむずかしいときでも、スピーカーのサイズや距離、サブウーハーの有無を正しく設定する(➡ 44 ～ 47 ページ)ことで音場の調節をすることができます。また、本機のクイックセットアップ機能を使うと、スピーカーの基本設定がより簡単に行えます(➡ 42 ページ)。

＊ 本機では、フロントスピーカーを2系統接続し、切り換えて使用することができます(➡ 34 ページ)。また、2系統同時に使用することもできます。2系統同時に使用するときは、接続するスピーカーの公称インピーダンスにご注意ください。
「フロントスピーカー1端子」または「フロントスピーカー2端子」のどちらか1系統をご使用のとき：6Ω～16Ωのスピーカー
「フロントスピーカー1端子」と「フロントスピーカー2端子」を2系統同時にご使用のとき：12Ω～32Ωのスピーカー

理想的なスピーカー配置例
(5.1ch配置のとき)

設置のポイント

センタースピーカー：主に映画のセリフなどを再生するので、テレビ画面の近くに設置します。
フロントスピーカー：前方左右の音を再生します。
サラウンドスピーカー：後方左右の音を再生します。耳の位置に対して横から少し後方に設置します。
サブウーハー：重低音を再生します。

- センタースピーカー、フロントスピーカー、サラウンドスピーカーからの音には指向性*があります。スピーカーを向ける方向によって、サラウンド感が変わります。
- サブウーハーからの音は、他のスピーカーからの音と比べて指向性は強くありません。最も重低音が効果的に聞こえる場所(前方中央付近が理想的)に設置してください。

＊ **指向性とは…**
スピーカーは、一般にその正面で最も音がよく聞こえ、正面からずれていくと聞こえにくくなる性質があります。これは、スピーカーから音声が出力されるとき、方向によって強さが異なるためです。この性質を指向性といいます。指向性が強いスピーカーほど、効果的に音の聞こえる範囲が狭くなります。

接　続（つづき）— 接続が終わるまで電源は入れないでください。—

スピーカーを接続する（つづき）

■接続するスピーカーについて

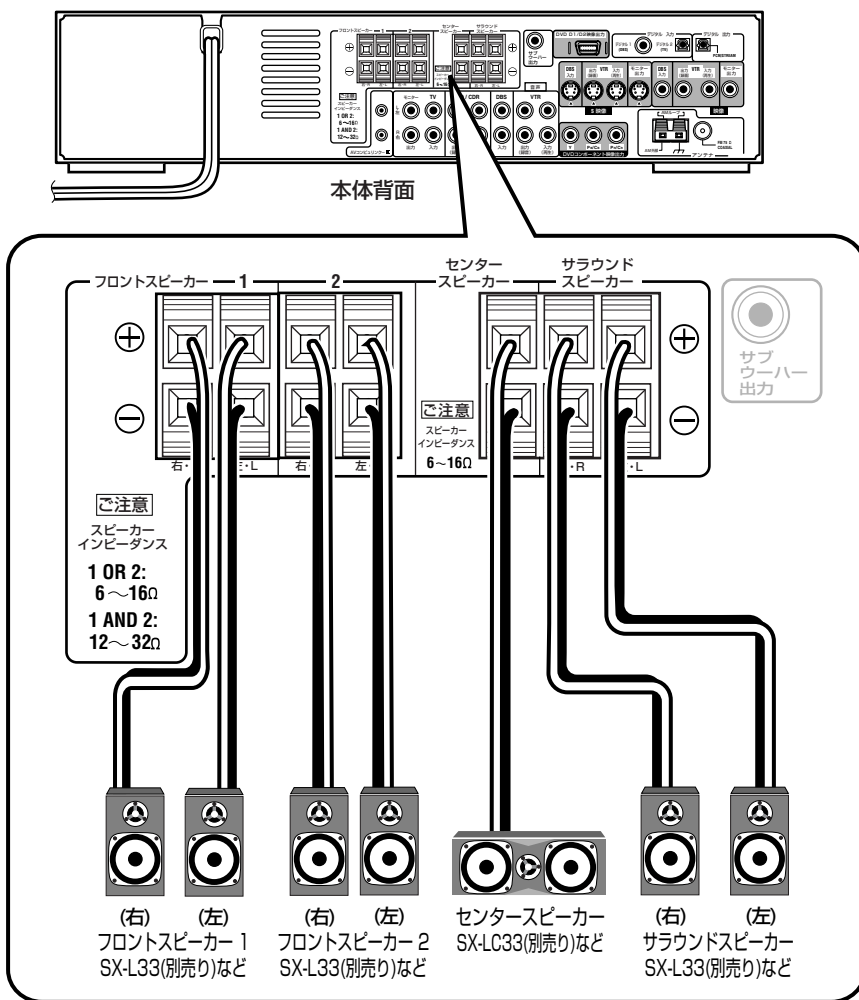
本機に接続できるスピーカーの公称インピーダンスは6Ω〜16Ωです。また、フロントスピーカーを2系統同時に使うときの公称インピーダンスは12Ω〜32Ωになります。
ドルビーデジタル 5.1chやDTS 5.1chを楽しんだり、ホールやパビリオンなどの残響効果を楽しむにはスピーカーとの相性も重要になります。フロント、センター、サラウンドの各スピーカーは、特性の揃った同一のスピーカーを使うことが理想的です。

ご注意

- **一つのスピーカー端子に複数のスピーカーを接続しないでください。**事故や故障の原因となります。
- テレビの近くに設置するセンタースピーカー、フロントスピーカーおよびサブウーハーは、防磁形スピーカーをお使いください。
  万一、テレビの画面に色ムラが生じるときは、スピーカーとテレビを離して設置してください。

■フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーの接続

フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーを本体背面のスピーカー端子に接続します。スピーカーコードの長さは、左右のスピーカーで同じくらいの長さになるようにします。
また、本機は2系統のフロントスピーカー（フロントスピーカー1端子、フロントスピーカー2端子）を切り換えて使用することができます。例えば、フロントスピーカー1端子にはお手持ちのオーディオ用スピーカーをつなぎ、もう一方のフロントスピーカー2端子にはサラウンドシステム用スピーカーをつないで切り換えて使うことができます。

スピーカーの左右と極性（⊕と⊖）を間違えないように正しく接続してください。

お知らせ

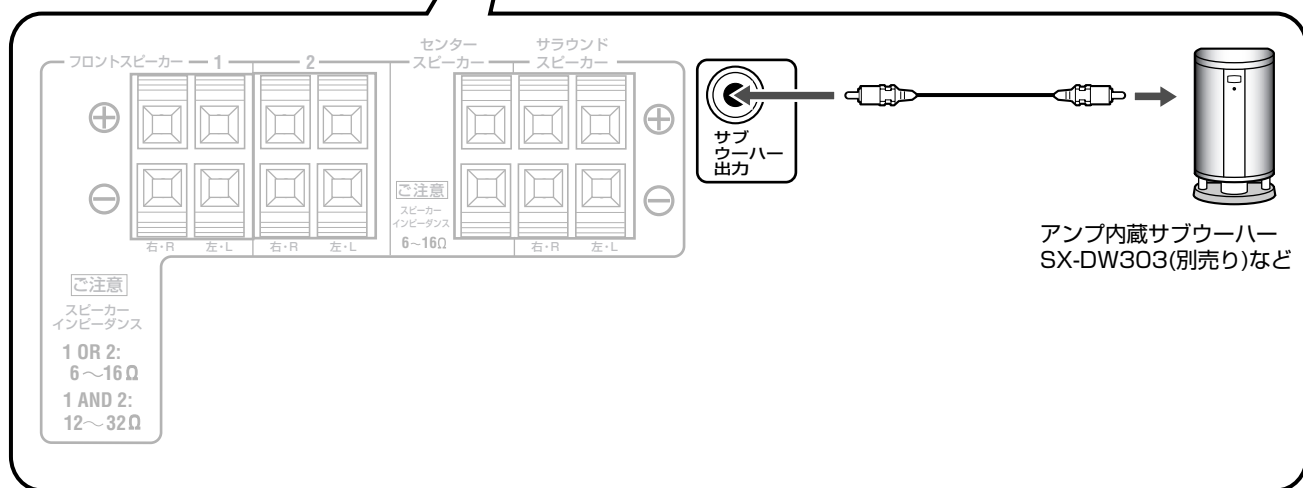
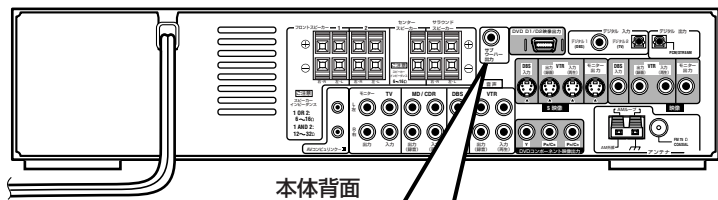
- スピーカーコードの極性（⊕と⊖）を間違えると、ステレオ感や音質がそこなわれますのでご注意ください。
- 接続したあと、コードを軽く引っぱってみて正しく接続されているか確認してください。
- 磁気カードなどをスピーカーのすぐそばに置かないでください。データが消えるなどの原因になることがあります。

■サブウーハーの接続

サブウーハーを接続すると、より迫力のある重低音がお楽しみいただけます。

また、ドルビーデジタル 5.1ch、DTS 5.1ch、MPEG-2 AACサラウンド対応のソフトを再生したとき、LFE(Low Frequency Effect)信号がサブウーハーで再生され、映画館のような重低音が楽しめます。

サブウーハーを接続するときは、RCAピンプラグコード(市販)でサブウーハー出力端子に接続します。

• 詳しくは、サブウーハーの取扱説明書をご覧ください。

接続コードについて

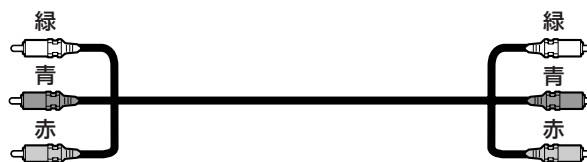
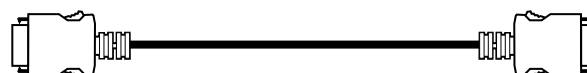
本機と他の機器を接続するためにお使いになれるコードは、映像入出力のためのもの4種類と、音声入出力のためのもの3種類とがあります。お使いの機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

映像入出力のための接続コード

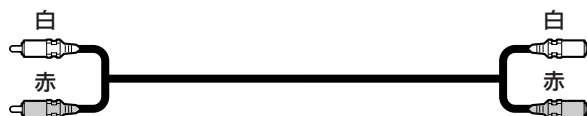
内蔵DVDプレーヤー：本機の内蔵DVDプレーヤーからの映像は、4種類のコードを使ってお手持ちのテレビで見ることができます。
外部接続したAV機器：本機では、お手持ちのテレビと外部AV機器(ビデオデッキやBSチューナーなど)が同じ種類の端子に接続されていないと、外部AV機器の映像をテレビで見ることはできません。また、録画用と再生用の外部AV機器についても同じ種類の端子に接続されていないと、映像を録画することはできません。例えば、再生機器をS映像端子に接続して、録画機器を映像端子に接続しても録画することはできません。

- ビデオコード(付属、1本)
  本機では、映像端子に接続します。

- Sビデオコード：VC-S110E(別売り)など
  本機では、S映像端子に接続します。
  S映像信号は、従来の映像信号を輝度信号(Y)と色信号(C)に分離した信号です。従来の映像信号より鮮明で色のにじみが少ない映像が楽しめます。

- コンポーネントビデオコード：VX-D115E(別売り)など
  本機では、DVDコンポーネント映像出力端子に接続します。内蔵のDVDプレーヤーの映像出力に使います。
  コンポーネント信号は、色差信号とも呼ばれ、映像を色信号2本(色の三原色の赤・緑・青を青信号成分と赤信号成分に分けたもの)と輝度信号1本に分けたもので、色の発色が良く、高い映像品位が特長です。

- D映像接続コード：VX-DS110(別売り)など
  本機では、DVD D1/D2映像出力端子に接続します。内蔵のDVDプレーヤーの映像出力に使います。
  D映像信号は、コンポーネント映像端子と同じものですが、コード1本で接続でき、送られる映像の信号フォーマットや縦横比(アスペクト比)の検出信号をもっているのが特長です。

音声入出力のための接続コード

デジタル入力端子に機器を接続するときは、接続後に以下の設定が必要です。
接続した機器名とデジタル入力端子に割り当てられているソース名が合うように設定してください。お買い上げ時には、デジタル1端子には「DBS」、デジタル2端子には「TV」がソース名として割り当てられています。詳しくは「デジタル入力端子に接続した機器名を変更する」(➡ 40 ページ)をご覧ください。
また、音声入力としてデジタル入力を選択します。詳しくは「アナログ/デジタルの入力信号を切り換える」(➡ 36 ページ)をご覧ください。

- オーディオコード：CN-510E(別売り)など
  本機では、音声端子に接続します。
  白いプラグの方を左・L(レフト)端子に、赤いプラグの方を右・R(ライト)端子に接続します。

- 同軸デジタルコード：CN-D110E(別売り)など
  本機では、デジタル入力端子のデジタル1(DBS)端子に接続します。

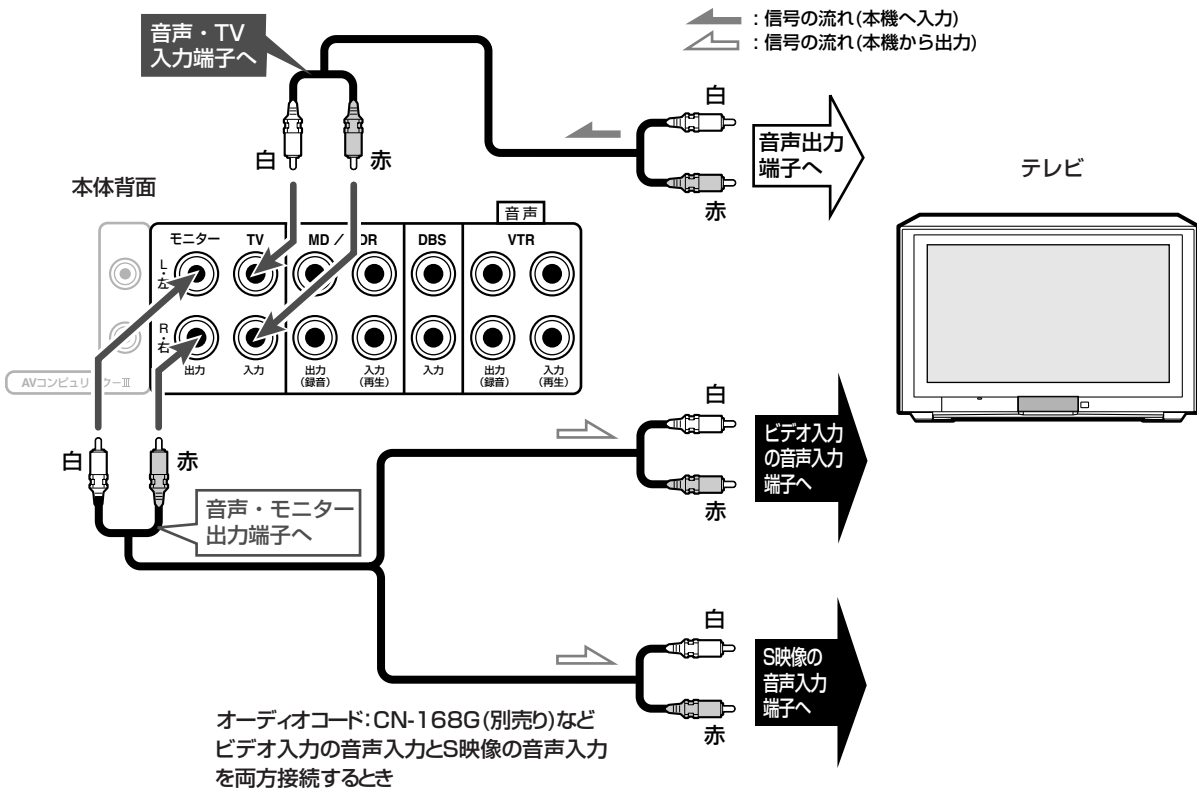
- 光デジタルケーブル：XN-110SA(別売り)など
  本機では、デジタル入力端子のデジタル2(TV)端子と、デジタル出力端子に接続します。

テレビを接続する

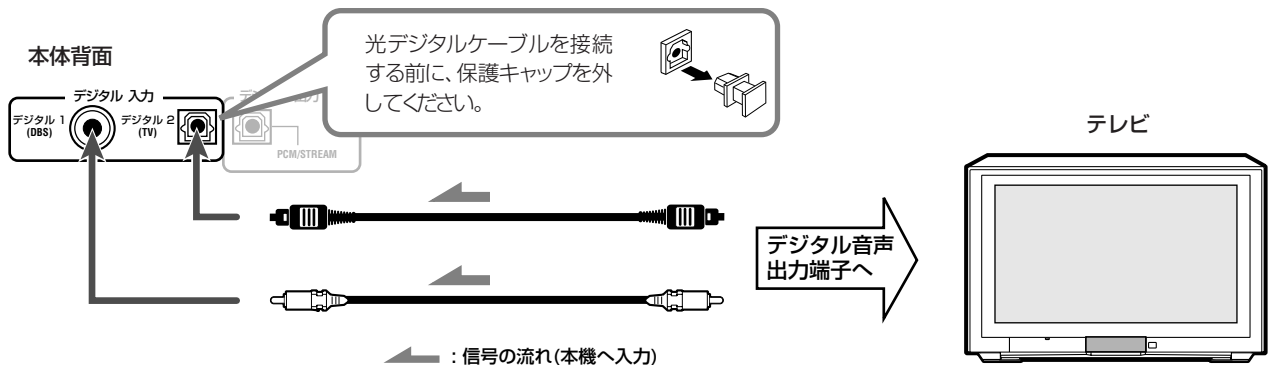
本機とテレビを接続します。テレビの代わりにモニターやプロジェクターを接続することもできます。
テレビの取扱説明書も併せてご覧ください。

音声の接続

テレビからの音声を本機に接続したスピーカーで聞くことができます。
また内蔵のDVDプレーヤーや本機に接続したビデオデッキからの音声をテレビで聞くこともできます。

■アナログ接続

お知らせ

- テレビへの音声入力接続と映像入力接続は、同じビデオ入力に接続してください。

■デジタル接続

接続した機器名とデジタル入力端子に割り当てられているソース名が合うように設定してください。
お買い上げ時には、デジタル1端子には「DBS」、デジタル2端子には「TV」がソース名として割り当てられています。
詳しくは「デジタル入力端子に接続した機器名を変更する」(➡ 40 ページ)をご覧ください。

テレビを接続する（つづき）

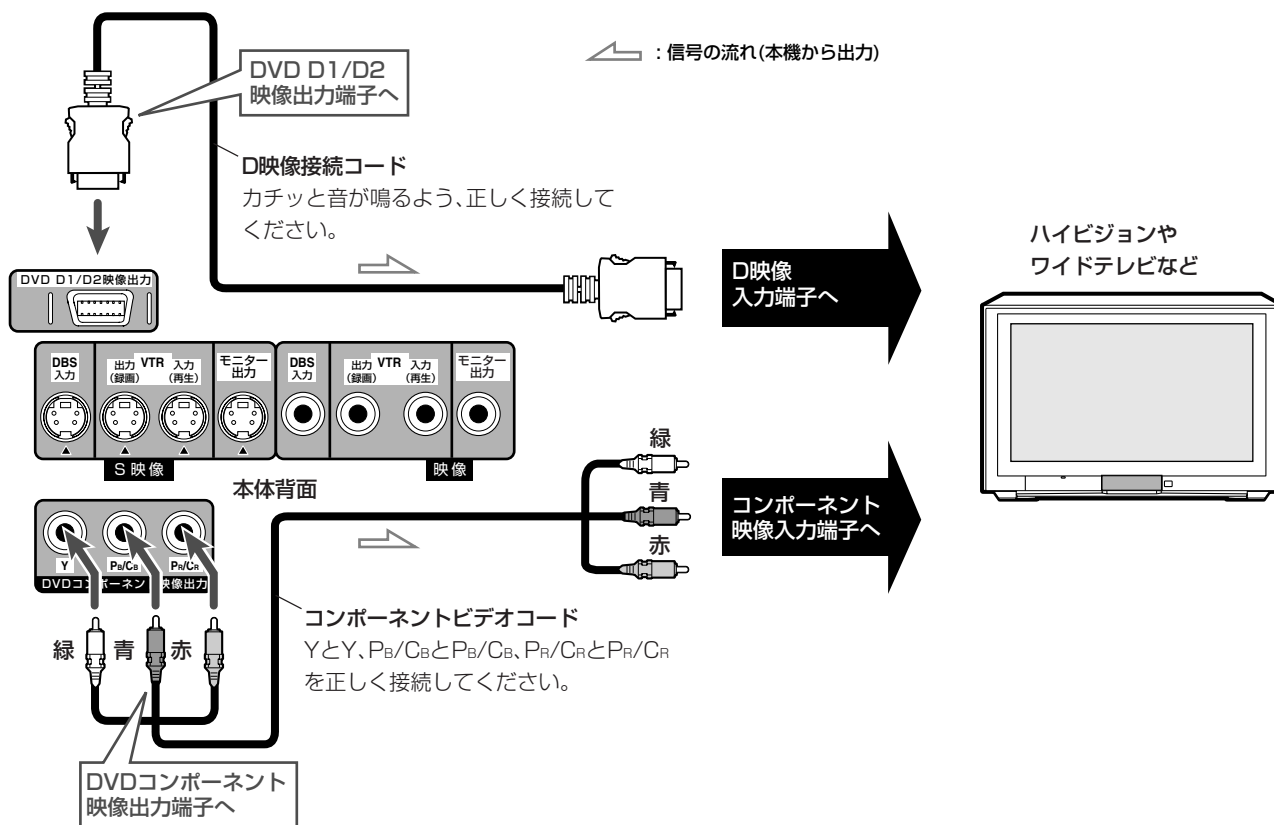
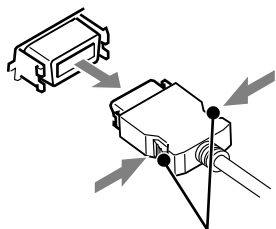
映像の接続

本機からの映像をテレビで見るために接続します。
接続の後で、映像出力の設定をしてください。詳しくは「映像出力を設定する」（➡ 40 ページ）をご覧ください。

- **本機のモニター出力は、直接テレビ（またはモニター）とつないでください。ビデオデッキやビデオ内蔵型テレビを経由してつなぐと、DVDソフトのコピー防止システムの働きにより再生中に画像が乱れることがあります。**

■D映像端子またはコンポーネント入力端子付のテレビとの接続

本機のDVD D1/D2映像出力端子またはDVDコンポーネント映像出力端子を使って、テレビを接続することで、より高画質の映像をお楽しみいただくことができます。
また、内蔵のDVDプレーヤーは、プログレッシブスキャンモードで映像をDVD D1/D2映像出力端子またはDVDコンポーネント映像出力端子から出力することができます。お手持ちのテレビがプログレッシブモード対応のときは、スキャンモードを切り換えてお楽しみいただけます。詳しくは、「スキャンモードを切り換える」（➡ 38 ページ）をご覧ください。

- お手持ちのテレビがプログレッシブモード対応でないときは、本機のスキャンモードをインターレースモードのままにしておいてください。プログレッシブモードに切り換えると映像が乱れることがあります。

D映像端子コネクターの外しかた

ここの部分を押しながら、コネクターを引き、はずします。

お知らせ

- テレビやモニターの映像端子がBNCタイプのときは、別売りの変換アダプター：VZ-90を使用してください。

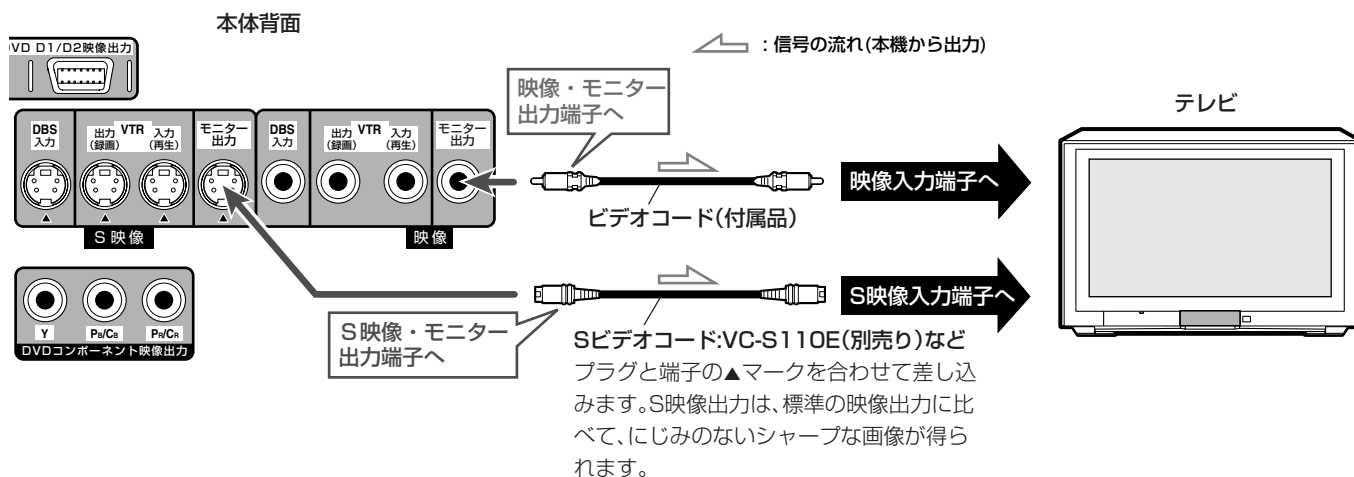
D映像端子の種類について

本機のD映像端子はD2信号まで対応します。本機には、D1～D4映像入力を持つテレビを接続できますが、プログレッシブモードで映像をお楽しみいただくためには、テレビがD2映像入力以上に対応している必要があります。
D映像端子の種類と対応信号の関係は右表のようになっています。

端子の種類	対応する映像信号フォーマット			
	1125i	750p	525p	525i
D4	○	○	○	○
D3	○	ー	○	○
D2	ー	ー	○	○
D1	ー	ー	ー	○

数字の後のアルファベット「p」はプログレッシブ信号を、「i」はインターレース信号を意味します。

■映像入力またはS映像入力端子付のテレビとの接続

プラグと端子の▲マークを合わせて差し込みます。S映像出力は、標準の映像出力に比べて、にじみのないシャープな画像が得られます。

S1映像信号について

本機のS映像端子はS1映像信号に対応しています。
S1映像信号とは、16:9のワイド画面の映像信号で、自動判別するための識別信号を合わせ持っています。
接続したテレビがこの信号を検知すると、自動的に画面サイズを変更します。

お知らせ

- お手持ちのテレビとの接続が映像端子またはS映像端子のみの場合には、本機のスキャンモードをインターレースモードのままにしておいてください。プログレッシブモードに切り換えると映像が乱れることがあります。

他のAV機器を接続する

本機には、次のようなAV機器を接続できます。

- 接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

オーディオ機器	・MDレコーダー*またはCDレコーダー*	
ビデオ機器	・ビデオデッキ	・BS/CSデジタルチューナー*またはBS/CSチューナー

＊ 音声端子の接続にはアナログ接続とデジタル接続があります。より良い音質でお楽しみいただくには、デジタル接続をお勧めします。

アナログ機器との接続

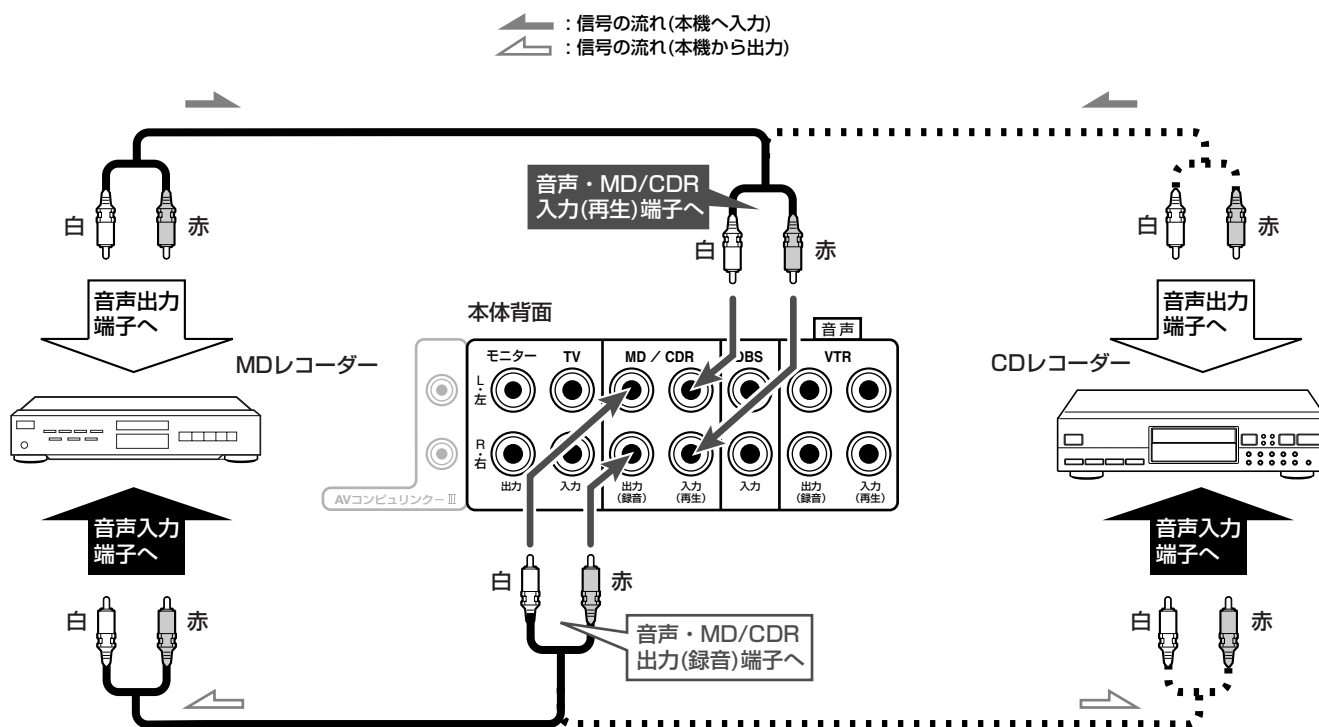
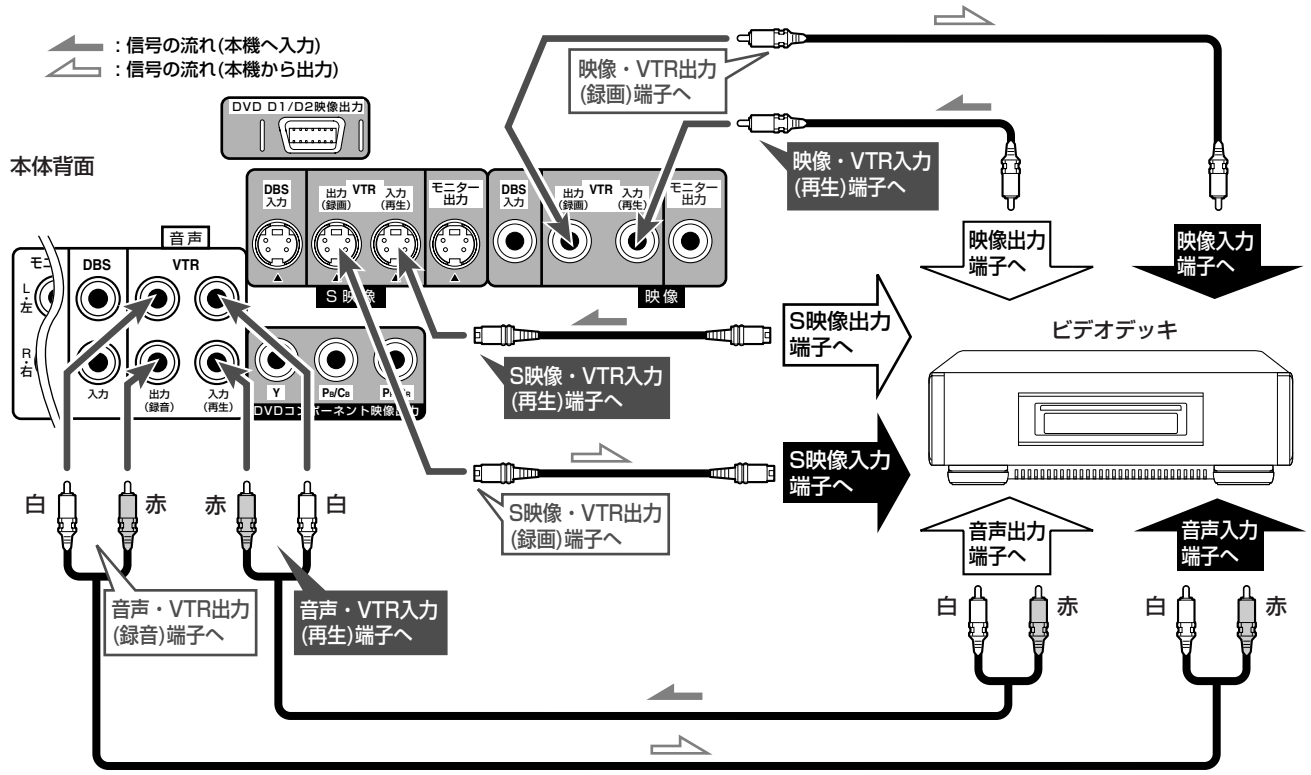
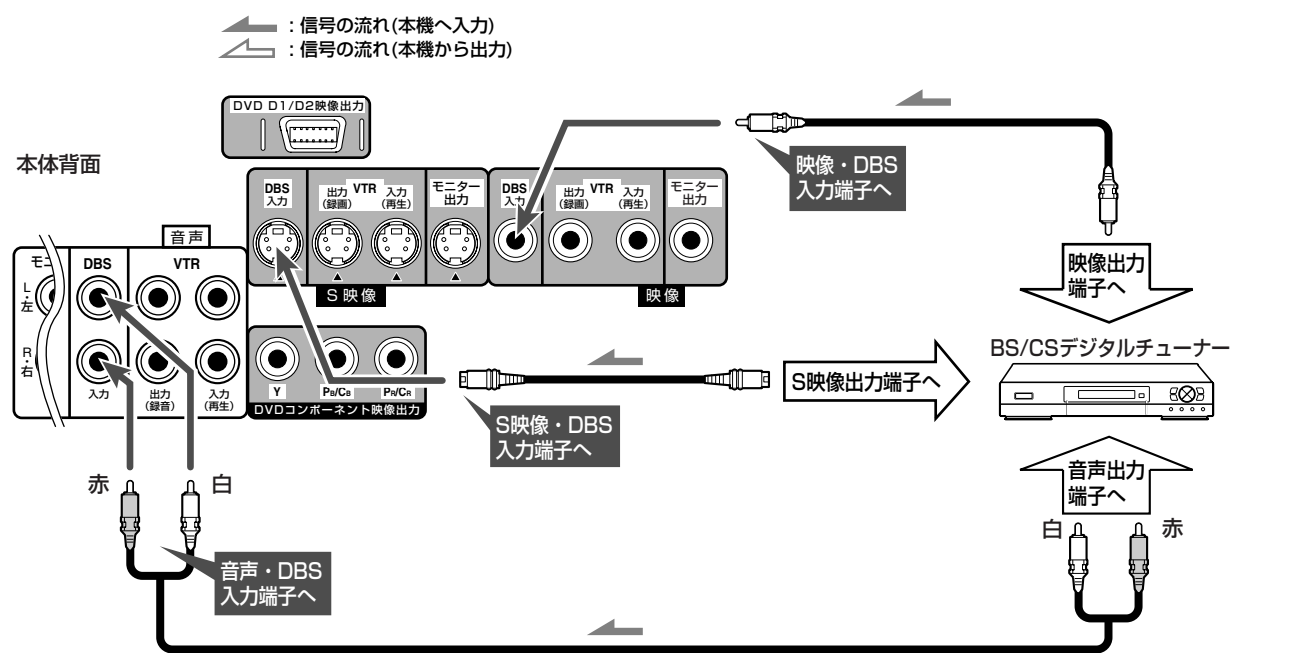
■オーディオ機器の接続

RCAピンプラグ付きのオーディオコード（別売り）を使って、音声入力端子に接続します。

- 赤いプラグの方を右・R（ライト）端子に、白いプラグの方を左・L（レフト）端子に接続します。

MDレコーダーまたはCDレコーダー

MD/CDR端子には、MDレコーダーまたはCDレコーダーを接続することができます。

- 本機では、ソース機器選択ボタンで選んだソース名が表示窓に表示されます。お買い上げ時のソース名は「MD」に設定されています。接続する機器に応じて、ソース名を変更してください。詳しくは「外部入力の機器名（ソース名）を変更する」（➡ 36 ページ）をご覧ください。
- デジタル接続をするときは、「デジタル機器との接続」（➡ 24 ページ）をご覧ください。

ビデオデッキ

BS/CSデジタルチューナーまたはBS/CSチューナー

- デジタル接続をするときは、「デジタル機器との接続」(➡ 24 ページ)をご覧ください。

他のAV機器を接続する（つづき）

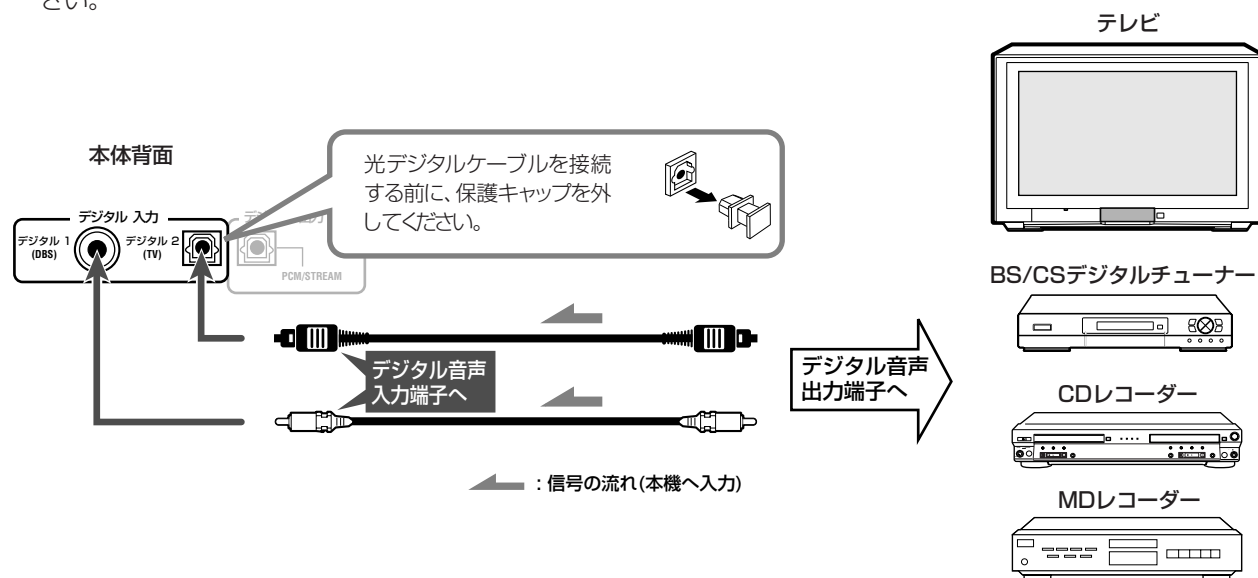
デジタル機器との接続

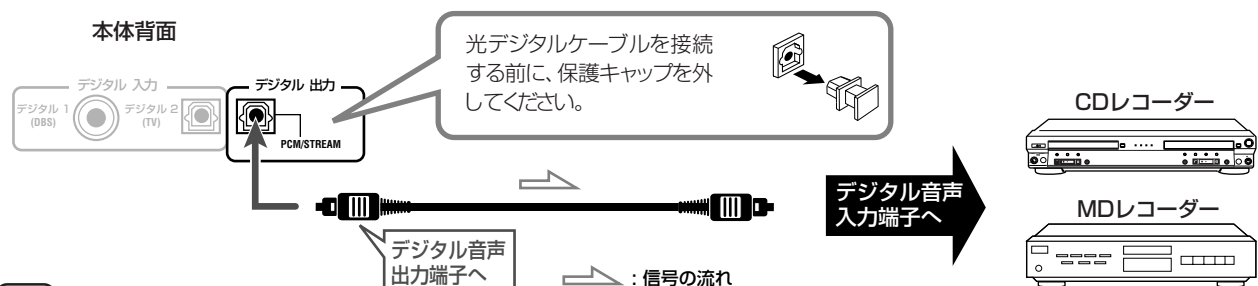
本機には、同軸デジタル入力端子「**デジタル 1(DBS)**」と光デジタル入力端子「**デジタル 2(TV)**」と、光デジタル出力端子「**デジタル出力**」があります。
別売りの同軸デジタルコードまたは光デジタルケーブルを使って、デジタル音声接続をします。

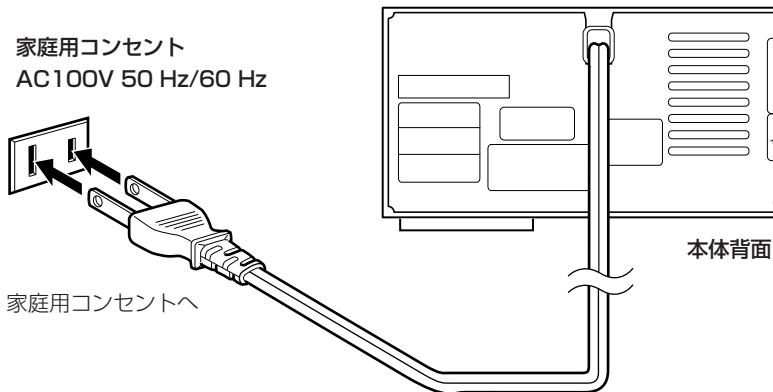
■デジタル入力端子（再生機器）との接続

次のAV機器の音声接続について、デジタル接続をします。

オーディオ機器	・MDレコーダーまたはCDレコーダー	
ビデオ機器	・テレビ	・BS/CSデジタルチューナー

・ デジタル入力端子に機器を接続した後に、以下の設定をしてください。
- 接続した機器名とデジタル入力端子に割り当てられているソース名が合うように設定してください。
  お買い上げ時には、デジタル1端子には「DBS」、デジタル2端子には「TV」がソース名として割り当てられています。
  詳しくは「デジタル入力端子に接続した機器名を変更する」（➡ 40 ページ）をご覧ください。
- 「MD/CDR」に接続したデジタル機器名を正しく設定してください。詳しくは「外部入力の機器名（ソース名）を変更する」（➡ 36 ページ）をご覧ください。
- 音声入力としてデジタル入力を選択します。詳しくは「アナログ/デジタルの入力信号を切り換える」（➡ 36 ページ）をご覧ください。

■デジタル出力端子（録音機器）との接続

MDレコーダーやCDレコーダーなどを接続してデジタル録音ができます。
また、ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC信号も出力することができます（➡ 52 ページ）ので、外部デコーダーなどを接続することもできます。

電源コードを接続する

接続がすべて終わってから、電源コードを家庭用コンセントに差し込んでください。
電源コードを接続すると、本機のSTANDBY(スタンバイ)ランプが点灯します。

お知らせ

記憶させた放送局や操作の設定、サラウンド効果などの設定は、次のような場合に消去されることがあります。このようなときは、もう一度設定し直してください。

- 電源コードをコンセントから抜いたとき
- 停電が起こったとき

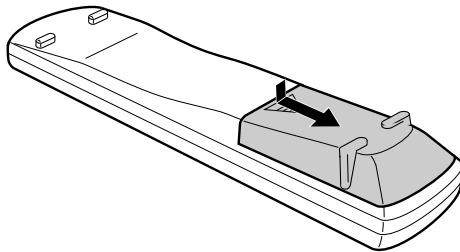
ご注意

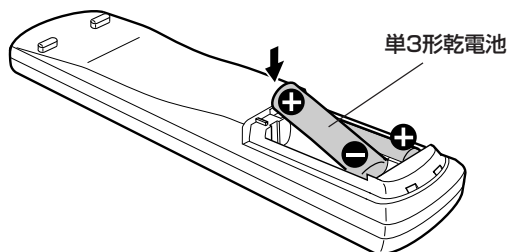
- 電源コードはテレビやビデオデッキ、アンテナ線などから離してください。接近していると雑音が発生したり、映像が乱れたりすることがあります。
- 濡れた手で電源コードを触らないでください。
- 電源コードをコンセントから抜くときは、必ずプラグの部分を持って抜いてください。

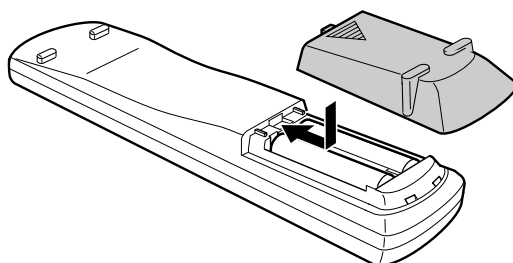
リモコンを準備する

単3形の乾電池を入れます。

1. 裏ブタを外す

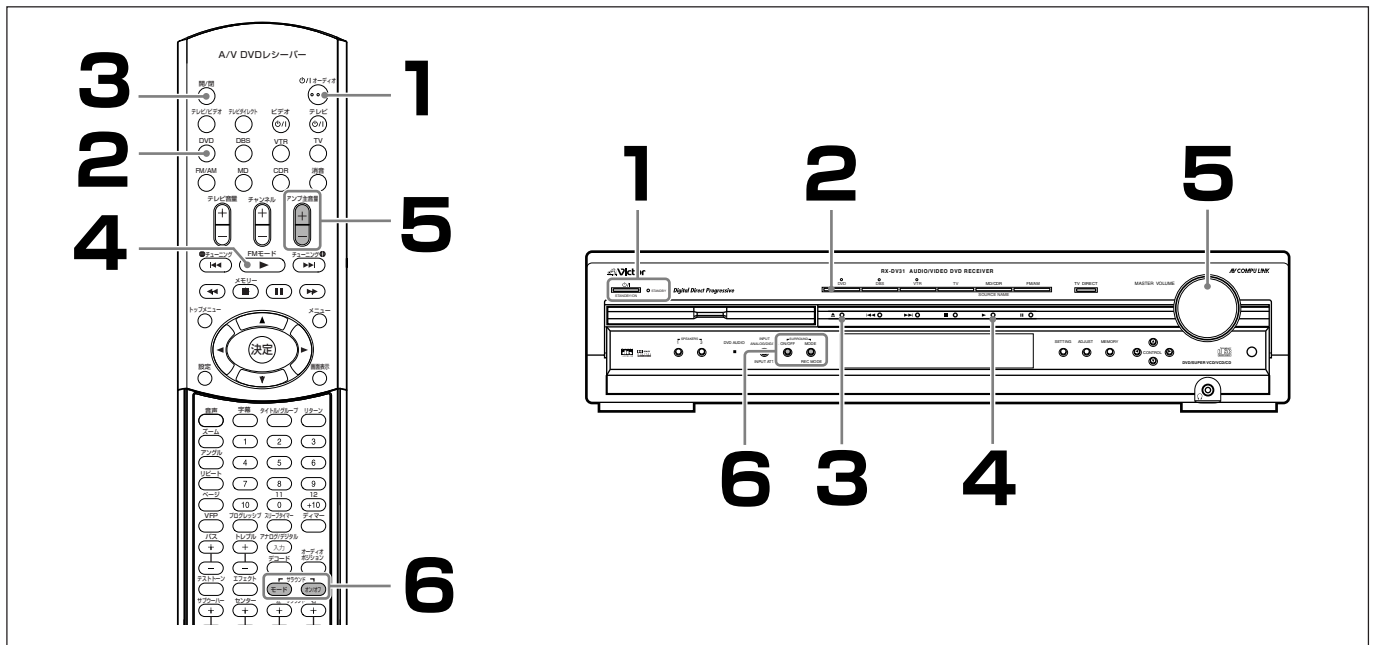
裏ブタの▽部を軽く押して、矢印の方向へスライドさせます。

2. 単3形乾電池を2本入れる

リモコン内部の表示に極性(⊕、⊖)を合わせ、正しく入れます。

3. 裏ブタをしめる

矢印の方向に戻します。

お知らせ

- リモコンの先端を本体のリモコン受光部に向けて操作します。斜めから使用したり、リモコン受光部との間に障害物等があると、リモコンで操作できないことがあります。
- 操作範囲が狭くなってきたり、本体に近づけないと操作できなくなってきたときは、乾電池が消耗してきています。2本とも同時に同じ種類の新しい単3形乾電池と交換してください。
- 付属の電池は動作確認用です。早目に新しい単3形乾電池と交換してください。
- 充電式電池などは使わないでください。
- 長い間使用しないときは、乾電池を取り出しておいてください。

DVDなどのディスクを見る・聞く

ご注意

次のような操作をする前には、必ず音量を最小にしてください。
- 本機の電源を「入」⟷「切」するとき
- ディスクを再生するとき

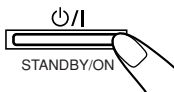
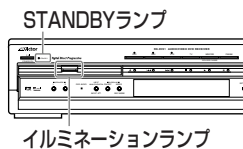
音量を上げたまま操作すると、突然大きな音が出て聴力障害の原因となったり、スピーカーを破損したりすることがあります。

1 本機の電源を入れる

リモコン

⏻/I **オーディオボタン**を押します。押すごとに電源が「入」⟷「切」します。

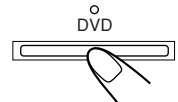
本体

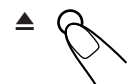
⏻/I STANDBY/ON（スタンバイ/オン）**ボタン**を押します。押すごとに電源が「入」⟷「切」します。

本体のSTANDBY（スタンバイ）ランプが消灯し、イルミネーションランプが点灯します。

電源を切る前に聞いていたソース（音源）が表示窓に表示されます。

表示例：最後にDVDを選んでいたとき

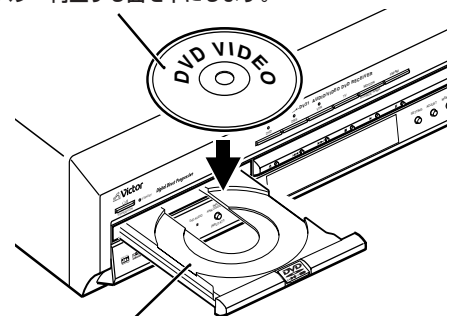
以下の操作でも電源は「入」になります。
- ►**(再生)ボタン**を押すと、電源が「入」になります。
  選んだソース（音源）がDVDで、ディスクトレイにディスクが入っているときは再生が始まります。
- リモコンの**開/閉ボタン**および本体の▲**(開/閉)ボタン**を押すと、電源が「入」になり、ディスクトレイが出てきます。
- リモコンの**テレビダイレクトボタン**および本体のTV DIRECT（テレビダイレクト）**ボタン**を押しても、電源が「入」になります。

2 DVDをソース（音源）に選ぶ

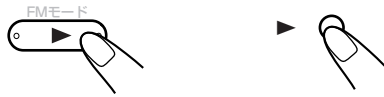
DVDボタンを押します。

- DVDビデオやビデオCDなどの映像ソフトをご覧になるときは、テレビの電源を入れ、テレビ側で正しい映像入力を選んでください。

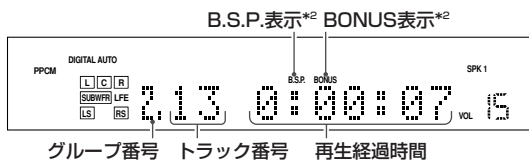
3 ディスクを入れる

① リモコンの**開/閉ボタン**または本体の▲**(開/閉)ボタン**を押す。
ディスクトレイが出てきます。

② ディスクを入れる。

片面ディスク：文字のある面を上にします。
両面ディスク：再生する面を下にします。

- 8センチディスクは、中央の凹部に置きます。

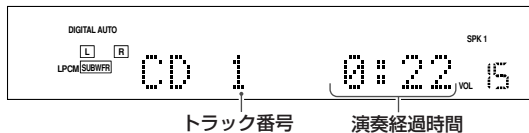
4 ディスクを再生する

►(再生)ボタンを押します。

ディスクトレイが閉まり、表示窓に「READING(リーディング)」と表示されます。その後再生が始まります。

表示例:DVDビデオを再生したとき

表示例:DVDオーディオを再生したとき*1

*1 本機にDVDオーディオのディスクを入れると、本体前面のDVD AUDIOランプが点灯します。

*2 B.S.P.表示は静止画再生のときに点灯します。BONUS表示はボーナスグループを持ったディスクを再生すると点灯します。

表示例:CDを再生したとき

詳しいディスク操作については、以下のページをご覧ください。

- DVDビデオ/DVDオーディオ/ビデオCD/スーパービデオCD/オーディオCD
  ➡ 56 ～ 79 ページ参照
- MP3/JPEGディスク
  ➡ 80 ～ 83 ページ参照

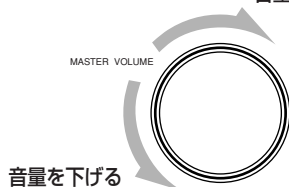
DVDビデオやビデオCDの再生を始めると、テレビ画面にメニューが表示されることがあります。このときは、「メニューから再生する」(➡ 62 ページ)をご覧ください。

5 音量を調節する

リモコン

アンプ主音量(＋/－)ボタンを押します。

本体

MASTER VOLUME(マスター ボリューム)つまみを回します。

音量レベルは、0(消音)～50までの範囲で調節できます。

6 サラウンドを使う

オートサラウンドを「ON」に設定しておくと、マルチチャンネル音声信号を識別して、自動的に適切なサラウンドが選ばれます。

詳しくは「オートサラウンドを設定する」(➡ 41 ページ)、「サラウンドを使う」(➡ 52 ～ 55 ページ)をご覧ください。

- **手動でサラウンドを「入」⟷「切」するには**

リモコン

サラウンドオン/オフボタンを押します。

本体

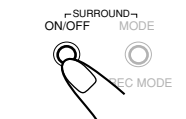
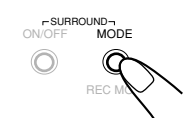
SURROUND(サラウンド) ON/OFF(オン/オフ) ボタンを押します。

- **別のサラウンドモードを選ぶには**

サラウンドが「**入**」のときに操作します。

リモコン

サラウンドモードボタンを押します。

本体

SURROUND(サラウンド) MODE(モード) ボタンを押します。

再生を止めるには

■(停止)ボタンを押します。
本機では、停止位置を記憶させて、そこから再生を続けることができます(リジューム再生)。詳しくは、57 ページをご覧ください。
再生を完全に止めるには、もう一度**■(停止)ボタン**を押します。

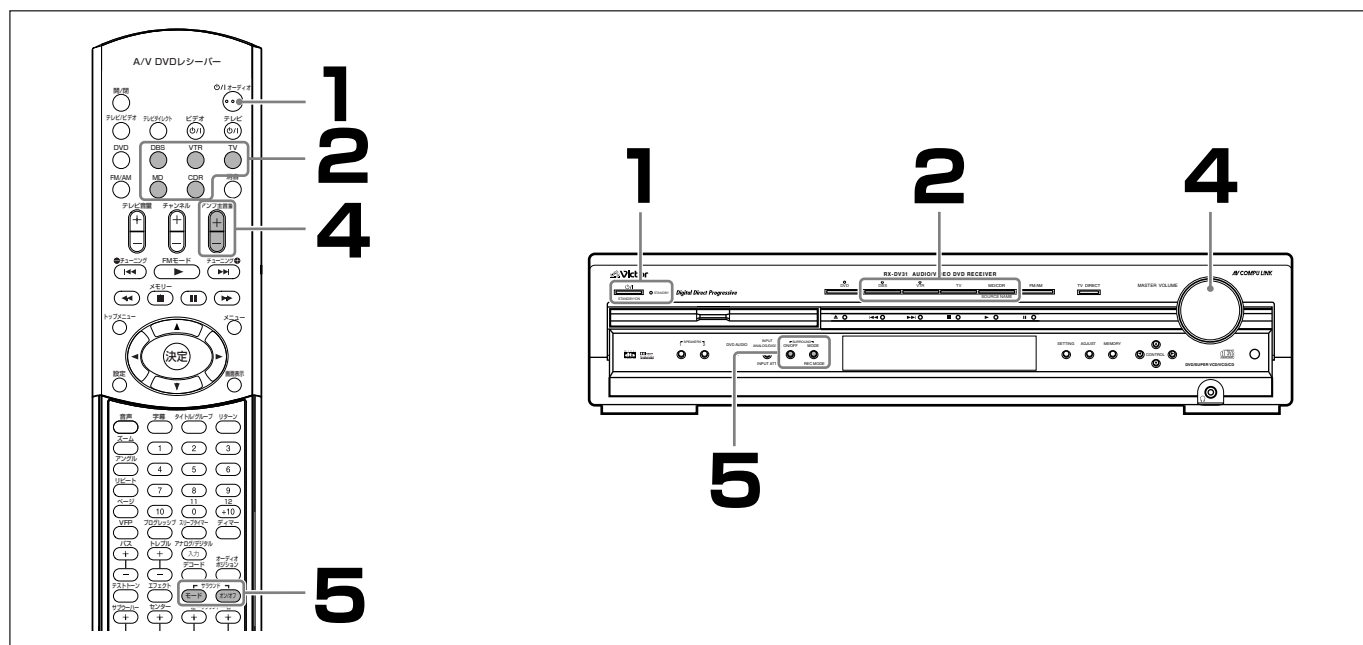
ディスクを取り出すには

リモコンの**開/閉ボタン**または本体の**▲(開/閉)ボタン**を押します。
ディスクトレイが出てきます。
ディスクを取り出したら、もう一度**開/閉ボタン**または**▲(開/閉)ボタン**を押して、ディスクトレイを閉めます。

電源を切るには

リモコンの**⏻/I オーディオボタン**または本体の**⏻/ISTANDBY/ONボタン**を押します。
本体のイルミネーションランプが消灯し、STANDBYランプが点灯します。

他のAV機器からの音声を聞く

ご注意

次のような操作をする前には、必ず音量を最小にしてください。

- 本機や接続したAV機器の電源を「入」⟺「切」するとき
- 再生する機器を選ぶとき

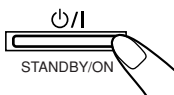
音量を上げたまま操作すると、突然大きな音が出て聴力障害の原因となったり、スピーカーを破損したりすることがあります。

1 本機の電源を入れる

リモコン

⏻/I オーディオボタンを押します。押すごとに電源が「**入**」⟺「**切**」します。

本体

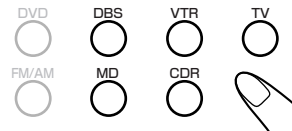
⏻/I STANDBY/ONボタンを押します。押すごとに電源が「**入**」⟺「**切**」します。

本体のSTANDBYランプが消灯し、イルミネーションランプが点灯します。
電源を切る前に聞いていたソース（音源）が表示窓に表示されます。

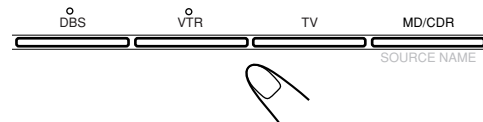
表示例：最後にFM放送を選んでいたとき

ANALOG L R FM 80.00 MHz TUNED STEREO AUTO MUTING SPK 1 VOL 15

2 外部接続したAV機器を選ぶ

リモコン

ソース機器選択ボタンを押します。

本体

ソース機器選択ボタンを押します。

表示窓にソース名が表示されます。特に、デジタル入力が選ばれているソース機器のときには、ソース名の前に「DGT」と表示されます。

TV	：テレビを選びます。
MD*	：MDを選びます（本体では、**MD/CDR**）。
CDR*	：CDRを選びます（本体では、**MD/CDR**）。
DBS	：BS/CSデジタルチューナーまたはBS/CSチューナーを選びます。
VTR	：ビデオデッキを選びます。

* ソース名が割り当てられていないときは、**MDボタン**または**CDRボタン**は働きません。詳しくは「外部入力の機器名（ソース名）を変更する」（➡ 36 ページ）をご覧ください。

- **DVDボタン**と**FM/AMボタン**は内蔵のDVDプレーヤーまたはラジオを選ぶときに使います。

ご注意

- 本体のデジタル入力端子にデジタル機器を接続しているときは、あらかじめ接続した機器名とデジタル入力端子に割り当てられているソース名が合うように設定してください。詳しくは「デジタル入力端子に接続した機器名を変更する」（➡ 40 ページ）をご覧ください。

3 外部接続したAV機器を再生する

外部機器を操作するときは、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

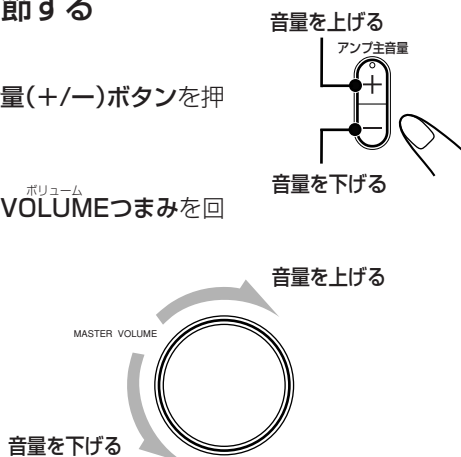
4 音量を調節する

リモコン

アンプ主音量(＋/－)ボタンを押します。

本体

MASTER VOLUMEつまみを回します。

音量を上げる
MASTER VOLUME
音量を下げる

音量レベルは、0(消音)～50までの範囲で調節できます。

5 サラウンドを使う

オートサラウンドを「ON」に設定しておくと、マルチチャンネル音声信号を識別して、自動的に適切なサラウンドが選ばれます。

詳しくは「オートサラウンドを設定する」(➡ 41 ページ)、「サラウンドを使う」(➡ 52 ～ 55 ページ)をご覧ください。

- **手動でサラウンドを「入」⟷「切」するには**

リモコン

サラウンドオン/オフボタンを押します。

本体

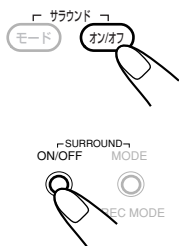
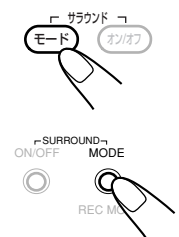
SURROUND ON/OFFボタンを押します。

- **別のサラウンドモードを選ぶには**

サラウンドが「**入**」のときに操作します。

リモコン

サラウンドモードボタンを押します。

本体

SURROUND MODEボタンを押します。

電源を切るには

リモコンの⏻/I **オーディオボタン**または本体の⏻/I **STANDBY/ON ボタン**を押します。

本体のイルミネーションランプが消灯し、STANDBYランプが点灯します。

本機のリモコンで他のAV機器を操作する

本機のリモコンを使って、さまざまなAV機器を操作することができます(➡ 96 97 ページ)。

- 他メーカーのAV機器を操作するには、あらかじめメーカー設定をしておきます。詳しくは、98 ページをご覧ください。
- AV機器の取扱説明書も併せてご覧ください。
- 操作したい機器のリモコン受光部に向けて、リモコンをお使いください。

● ビデオデッキを操作するボタン

ビクター製のビデオデッキには、「A」「B」など複数のリモコンコードを使えるものがあります。本機のリモコンを使うときは、ビデオデッキ側のリモコンコードを「A」に設定してください。

⏻/I ビデオ　：ビデオデッキの電源を「**入**」⟷「**切**」します。

VTRボタンを押した後に、次の操作ができるようになります。

▶(再生)　：再生を始めます。
|◀◀ (巻戻し)　：テープを巻き戻します。
▶▶| (早送り)　：テープを早送りします。
■(停止)　：録画や再生を停止します。
II(一時停止)　：録画や再生を一時停止します。解除するには、**▶(再生)ボタン**を押します。
数字(1～9、0)　：ビデオデッキの受信チャンネルを選びます。

● テレビを操作するボタン

⏻/I テレビ　：テレビの電源を「**入**」⟷「**切**」します。

TVボタンを押した後に、次の操作ができるようになります。

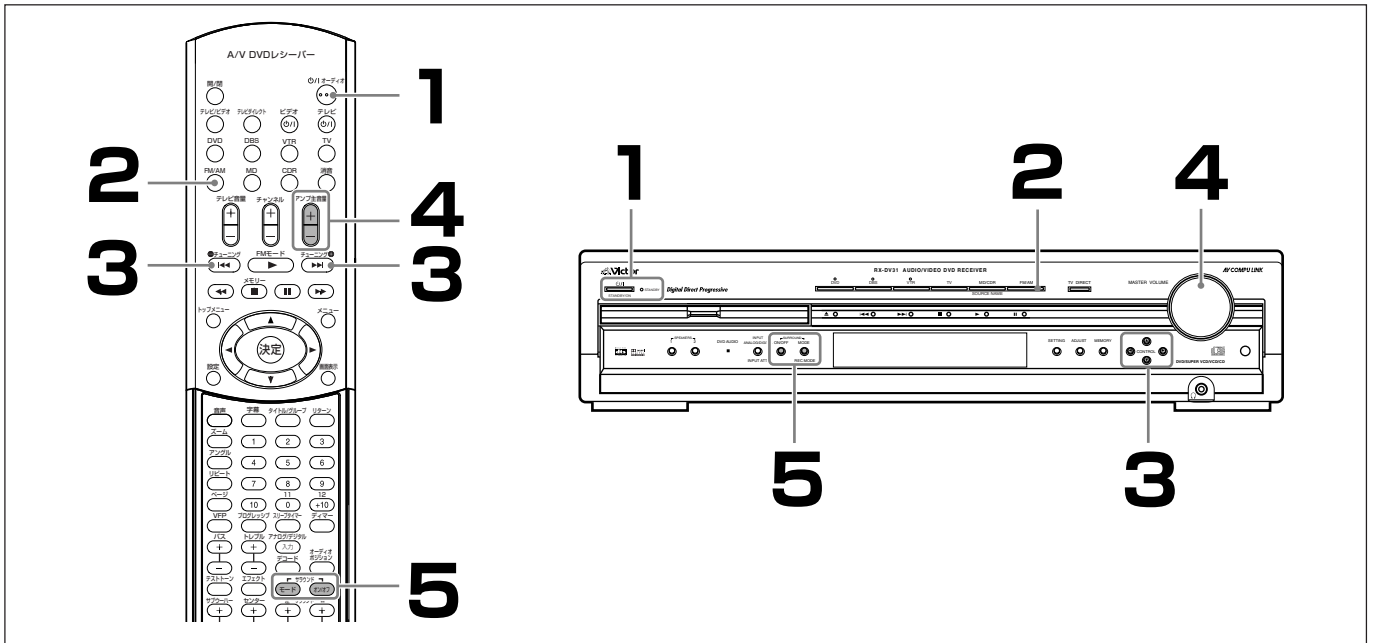
テレビ音量+/－　：テレビの音量を調節します。
テレビ/ビデオ　：テレビの映像入力を切り換えます。
チャンネル(+/－)、数字(1～12)
：テレビの受信チャンネルを選びます。

● MDレコーダー/CDレコーダーを操作するボタン

MDボタンまたは**CDRボタン**を押した後に、次の操作ができるようになります。

▶(再生)　：演奏を始めます。
|◀◀　：前のトラックまたは現在演奏中のトラックの頭出しをします。
▶▶|　：次のトラックの頭出しをします。
■(停止)　：録音や演奏を停止します。
II(一時停止)　：録音や演奏を一時停止します。解除するには、**▶(再生)ボタン**を押します。
数字(1～10、+10)：トラックを選択します。

ラジオ(FM放送/AM放送)を聞く

ご注意

次のような操作をする前には、必ず音量を最小にしてください。
- 本機の電源を「入」⟺「切」するとき
- 放送局を選ぶとき

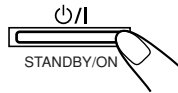
音量を上げたまま操作すると、突然大きな音が出て聴力障害の原因となったり、スピーカーを破損したりすることがあります。

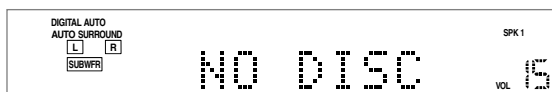
1 本機の電源を入れる

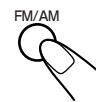
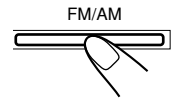
リモコン

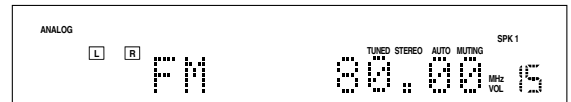
⏻/Iオーディオボタンを押します。押すごとに電源が「入」⟺「切」します。

本体

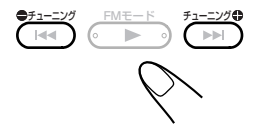
⏻/I STANDBY/ONボタン(スタンバイ/オン)を押します。押すごとに電源が「入」⟺「切」します。

本体のSTANDBY(スタンバイ)ランプが消灯し、イルミネーションランプが点灯します。
電源を切る前に聞いていたソース(音源)が表示窓に表示されます。

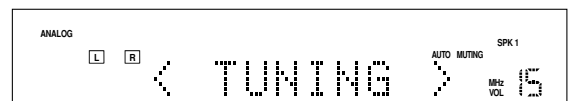
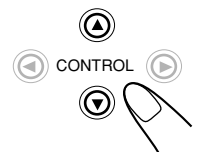
表示例:最後にDVDを選んでいたとき

2 FM放送またはAM放送を選ぶ

FM/AMボタンを押します。

- 押すごとに、FM放送とAM放送が交互に切り換わります。

表示例:FM放送を選んだとき

3 聞きたい放送局を選ぶ

リモコン

チューニング(⊕)ボタンまたは**チューニング(⊖)ボタン**をくり返し押して、聞きたい放送局を選びます。

本体

① **CONTROL(▲)ボタン**(コントロール)または**CONTROL(▼)ボタン**をくり返し押して、表示窓に「TUNING」(チューニング)を表示させます。

② **CONTROL(◄)ボタン**(コントロール)または**CONTROL(►)ボタン**をくり返し押して、聞きたい放送局を選びます。

4 音量を調節する

リモコン
アンプ主音量(＋/−)ボタンを押します。

本体
MASTER VOLUMEつまみを回します。

音量レベルは、0(消音)〜50までの範囲で調節できます。

5 サラウンドを使う

詳しくは「サラウンドを使う」(➡ 52 〜 55 ページ)をご覧ください。

- **サラウンドを「入」⟷「切」するには**

リモコン
サラウンドオン/オフボタンを押します。

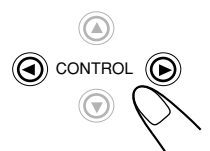
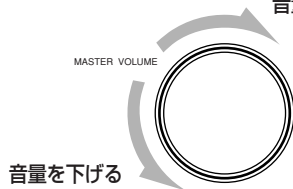
本体
SURROUND ON/OFFボタンを押します。

- **別のサラウンドモードを選ぶには**

サラウンドが「**入**」のときに操作します。

リモコン
サラウンドモードボタンを押します。

本体
SURROUND MODEボタンを押します。

電源を切るには

リモコンの **オーディオボタン**または本体の⏻/I **STANDBY/ONボタン**を押します。
本体のイルミネーションランプが消灯し、STANDBYランプが点灯します。

放送受信表示について

放送を受信すると表示窓にTUNED表示が点灯します。
FMステレオ放送を受信するとSTEREO表示も点灯します。

TUNED表示とSTEREO表示

選局について

オート選局

リモコンの**チューニング(⊕)ボタン**または**チューニング(⊖)ボタン**—本体では**CONTROL(◀)ボタン**または**CONTROL(▶)ボタン**—を押し続け、表示窓の周波数表示が変わりだしたら指を離します。
放送局を受信すると自動的に選局されます。

マニュアル選局

リモコンの**チューニング(⊕)ボタン**または**チューニング(⊖)ボタン**—本体では**CONTROL(◀)ボタン**または**CONTROL(▶)ボタン**—をくり返し押します。押すごとにFM放送は0.05MHz(50kHz)ずつ、AM放送は9kHzずつ変わります。

FM放送	0.05MHzずつ：76.00MHz〜108.00MHz
AM放送	9kHzずつ　：531kHz〜1629kHz

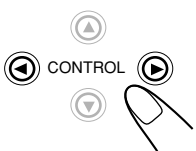
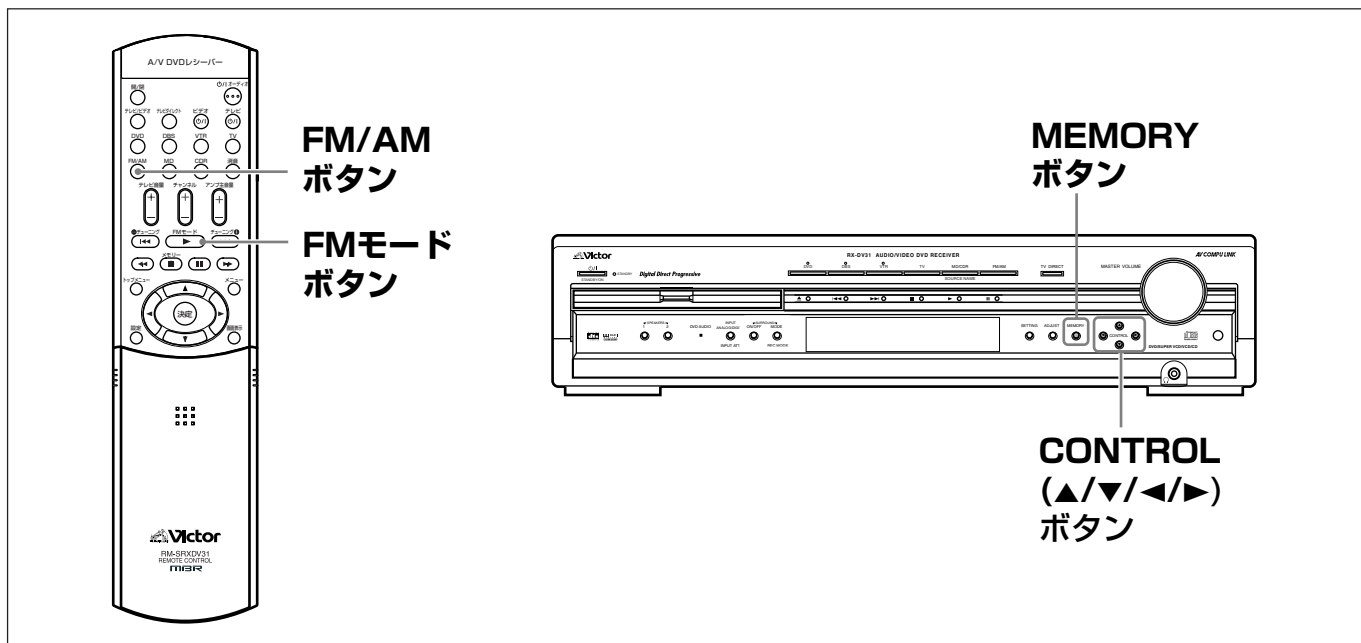
- **放送局を記憶させてあるときは、プリセット番号で放送局を選ぶことができます(プリセット選局)。**
- 放送局の記憶の手順は、「放送局を記憶させる」(➡ 32 ページ)をご覧ください。

リモコン
数字ボタン(1〜10、+10)を押してプリセット番号を選びます。

例) プリセット番号「5」を選ぶ
：(5) を押す。
プリセット番号「15」を選ぶ
：(+10) ➡ (5) と押す。
プリセット番号「20」を選ぶ
：(+10) ➡ (10) と押す。
プリセット番号「30」を選ぶ
：(+10) ➡ (+10) ➡ (10) と押す。

本体
① **CONTROL(▲)ボタン**または**CONTROL(▼)ボタン**をくり返し押して「PRESET」を表示させます。

② **CONTROL(◀)ボタン**または**CONTROL(▶)ボタン**をくり返し押して聞きたい放送局のプリセット番号を選びます。

とりあえず簡単操作

ラジオ（FM放送/AM放送）を聞く（つづき）

放送局を記憶させる（本体のみ）

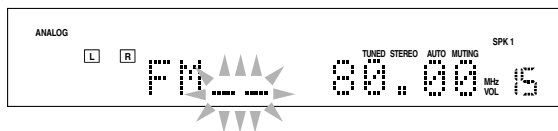
一度放送局を記憶させておくと、次からは簡単に放送局を選ぶことができます。
FM放送を最大30局、AM放送を最大15局まで記憶させることができます。

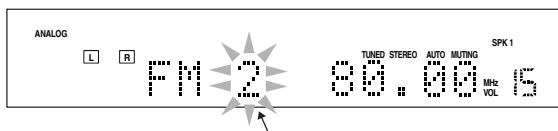
- 途中で設定操作ができなくなったときは、手順**2**からやり直してください。

1 記憶させたい放送局を選ぶ（➡ 30 31 ページ）

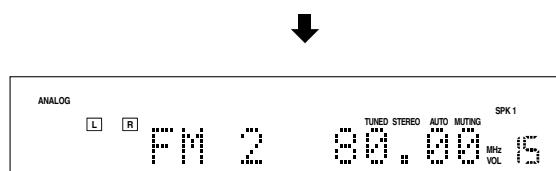
FM放送局を記憶させるときには、FM受信モード（➡ 33 ページ）も同時に記憶させることができます。

2 MEMORYボタンを押す

プリセット番号の表示位置「_ _」が約5秒間点滅します。

3 「__ __」が点滅している間に、CONTROL（◄ または ►）ボタンをくり返し押してプリセット番号を選ぶ

表示例：プリセット番号2を選んだとき

プリセット番号を選ぶと、選んだ番号が点滅します。

4 プリセット番号が点滅中に、もう一度MEMORYボタンを押す

プリセット番号の点滅が止まり、放送局の周波数が数回点滅します。放送局の周波数の点滅が止まると、手順**1**で選んだ放送局が記憶されます。

- 記憶させたい放送局を変更するときは、放送局の周波数の点滅中にCONTROL（◄ または ►）ボタンで新しい放送局を選びます。続いて、手順**2**に戻りプリセット番号を選び直します。

5 手順1〜手順4をくり返して他の放送局も記憶させる

記憶させた放送局を削除するには

同じプリセット番号に新しい放送局を記憶させると、前の放送局の記憶は消えます。

プリセット番号で放送局を選ぶには

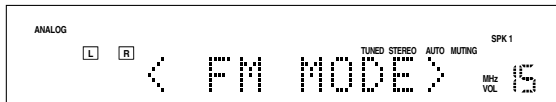
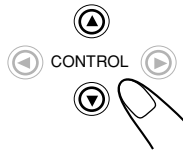
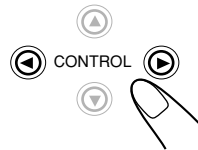
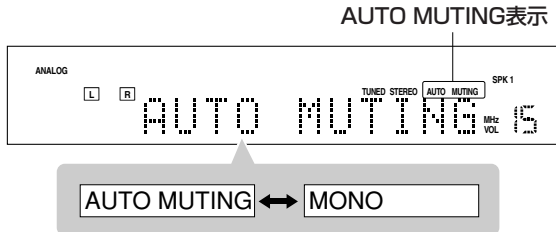
31 ページの「選局について」をご覧ください。

FM受信モードを設定する(FMモード)

FMステレオ放送が雑音で聞きにくいときは、FM受信モードを変更してください。ステレオ音声はモノラルになりますが、聞き取り易くなります。

- FM受信モードは放送局ごとに記憶させることができます。
- 途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

本体

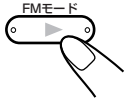
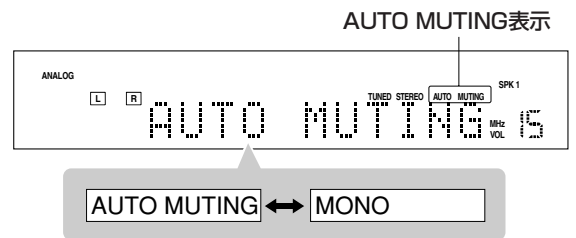
1 FM放送を受信中に、CONTROL(▲ または ▼)ボタンをくり返し押して「FM MODE」を表示させる

2 CONTROL(◄ または ►)ボタンを押す

ボタンを押すごとに、表示窓のFM受信モードが次のように切り換わります。

AUTO MUTING
: 通常はこのモードを選びます。ステレオ放送のときはステレオで、モノラル放送のときはモノラルで聞こえます。このモードにすると選局中の「サー」という雑音を消すことができます。AUTO MUTING表示が点灯します。 [お買い上げ時の設定]

MONO
: FMステレオ放送が雑音で聞きにくいときに選びます。音声がモノラルになります。AUTO MUTING表示が消灯します。

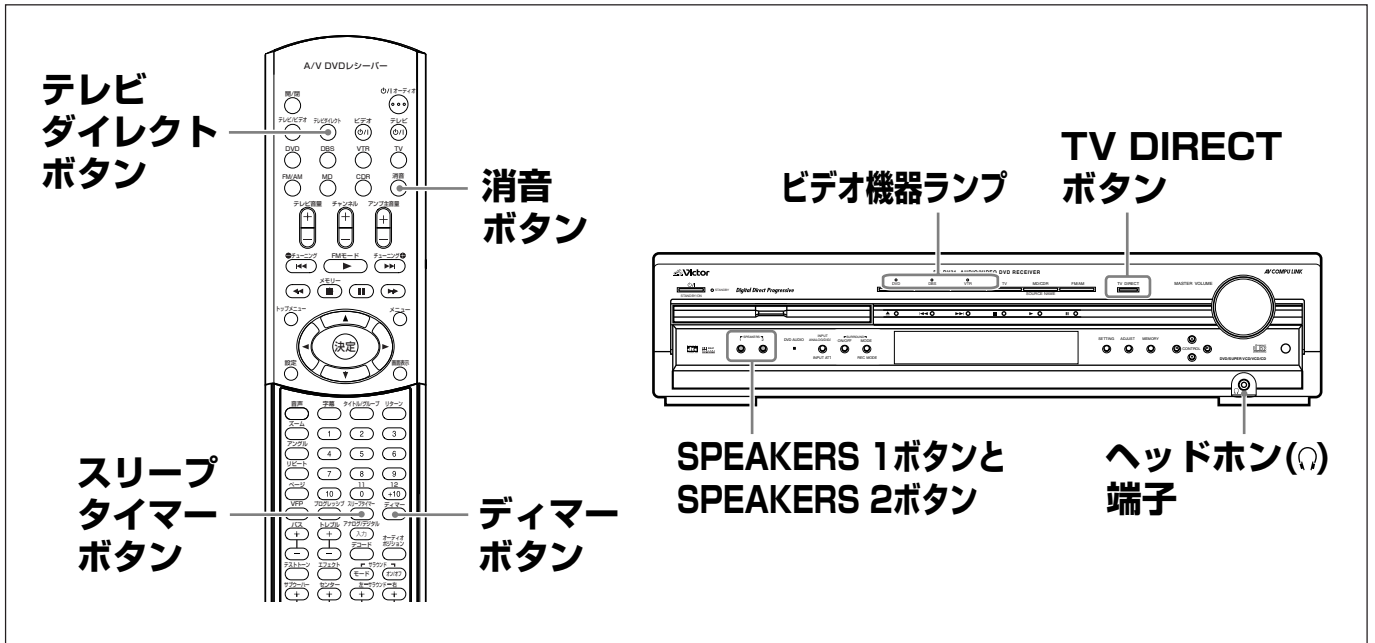
ステレオ音声に戻すには

手順**3**で、「AUTO MUTING」を選びます。

リモコン

1 FM放送を受信中に、FMモードボタンを押す

ボタンを押すごとに、表示窓のFM受信モードが次のように切り換わります。

各モードについての詳細は、左の説明をご覧ください。

とりあえず簡単操作

便利な機能を使う

フロントスピーカーを切り換える

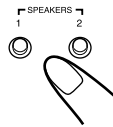
本機は、フロントスピーカーを2系統接続することができます。2系統のスピーカーを1系統ずつ切り換えて再生したり、2系統同時に再生することもできます。

本体のみ

SPEAKERS 1ボタンまたは**SPEAKERS 2ボタン**を押して再生したいスピーカーを選びます。

表示窓にフロントスピーカー切り換え表示（SPK1またはSPK2）が点灯します。

フロントスピーカーを2系統同時に再生したいときは、表示窓にフロントスピーカー切り換え表示のSPK1とSPK2が両方点灯するように、**SPEAKERS 1ボタン**と**SPEAKERS 2ボタン**を順に押します。

- フロントスピーカー2系統を同時にご使用になるときは、接続するスピーカーのインピーダンスにご注意ください。
  フロントスピーカーを**1系統**でご使用のとき：6Ω〜16Ω
  フロントスピーカーを**2系統**でご使用のとき：12Ω〜32Ω
- サラウンドが「入」のときは、フロントスピーカーは2系統同時に再生できません。
- フロントスピーカー2系統を同時に「切」にすると、ヘッドホンモードになります。

一時的に音を消す（消音）

電話がかかってきたときなど、音を一時的に消すときに便利です。

リモコンのみ

消音ボタンを押します。

表示窓のVOLUME表示が消灯し、「MUTING（ミューティング）」と表示されます。スピーカーとヘッドホンからの音が出なくなります。

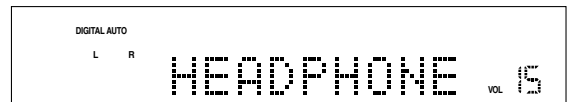
- テレビ画面に「VOLUME －」と表示されます。

● **もとの音量に戻すには**
消音ボタンを押します。

ヘッドホンで楽しむ

本体のヘッドホン(∩)端子にヘッドホンを差し込むと自動的にヘッドホンモードになり、スピーカーから音声は出なくなります。

本体の表示窓に「HEADPHONE（ヘッドホン）」と表示されます。

DIGITAL AUTO
L R
HEADPHONE VOL 15

- フロントスピーカー切り換え表示（SPK1とSPK2）が消灯します。
- **サラウンドをお使いのとき**
  サラウンドはキャンセルされます。
- **マルチチャンネルソースをお楽しみのとき**
  フロントスピーカーチャンネル以外の音声信号は、アナログ2チャンネル信号へと自動的にダウンミックスされ、左右のヘッドホンに振り分けられて再生されます。
- **DVDオーディオをお楽しみのとき**
  ディスクによって、ダウンミックスが禁止されていることがあります。このようなときは、フロントスピーカーチャンネルの音声信号のみヘッドホンより再生されます。

ご注意

- ヘッドホンをつけるときや、ヘッドホンのプラグを抜き差しするときは、必ず音量（ボリューム）を最小にしてから行ってください。
  突然大きな音がでて聴力障害などの原因となったり、スピーカーを破損することがあります。

表示窓の明るさを変える（ディマー）

表示窓の明るさを変えたいときに使います。

リモコンのみ

ディマーボタンを押します。

ボタンを押すごとに、表示窓とイルミネーションランプの明るさが次のように変化します。

ふだんの明るさ ⟷ 暗い

おやすみタイマーを使う（スリープタイマー）

おやすみタイマーを使うと、設定した時間に本機の電源が自動的に「**切**」になります。音楽を聞きながら眠りたいときなどにお使いください。

リモコンのみ

スリープタイマーボタンを押して電源が「**切**」になるまでの時間を設定します。

おやすみタイマーの動作中は、SLEEP表示が点灯します。

ボタンを押すごとに、設定時間（分）が次のように切り換わります。

設定した時間（分）が経過すると、自動的に電源が「**切**」になります。

● **電源が「切」になるまでの時間を確かめたり、設定時間を変えるには**

おやすみタイマーを設定後に**スリープタイマーボタン**を1回押すと、電源が「**切**」になるまでの残り時間が表示されます。設定時間を変更するときは、**スリープタイマーボタン**をくり返し押して希望の時間を選び直します。

● **おやすみタイマーを解除するには**

スリープタイマーボタンをくり返し押して「**0**」を表示させます。おやすみタイマーが解除され、SLEEP表示は消灯します。

- リモコンまたは本体を使って電源を「**切**」にしたときも、おやすみタイマーは解除されます。

お知らせ

- 内蔵DVDプレーヤーをソース（音源）として選び、オートスタンバイ機能を設定しているときは、おやすみタイマーの設定時間より先に電源が「**切**」になるときがあります。
  詳しくは、91 ページをご覧ください。

テレビダイレクトを使う（テレビダイレクト）

本機の電源を「**入**」にすることなく、本機を単体のDVDプレーヤーやAVセレクターとして使うことができます。

テレビダイレクト時には、内蔵のDVDプレーヤーや接続したビデオ機器からの音と映像を、本機に接続したテレビでお楽しみいただけます。また、内蔵DVDプレーヤーの操作とビデオ機器（DVD、DBS、VTR）のソース切り換えができます。

- 本機とビデオ機器の接続によっては、テレビから音声が聞こえないことがあります。詳しくは下記の「お知らせ」をご覧ください。
- 本機とビデオ機器はアナログ音声コードで接続してください。

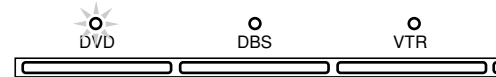
リモコン

テレビダイレクトボタンを押します。

本体

TV DIRECTボタンを押します。

前回選んだビデオ機器にソース（音源）が切り換わり、本体のビデオ機器ランプが点灯します。

表示例：ビデオ機器ランプ点灯時（DVDを選んでいたとき）

内蔵DVDプレーヤーまたは接続したビデオ機器で再生を始めます。音と映像は本機に接続したテレビから再生されます。

マルチチャンネルソースをお楽しみの場合には、フロントスピーカーチャンネル以外の音声信号はアナログ2チャンネル信号へと自動的にダウンミックスされます。

● **ソース（音源）がDVDのときには**

内蔵DVDプレーヤーをソース（音源）として選んでいるときには、本体のDVDプレーヤー操作ボタンを使うことができます。リモコンを使えば、DVDメニュー操作などより多くの操作ができます。

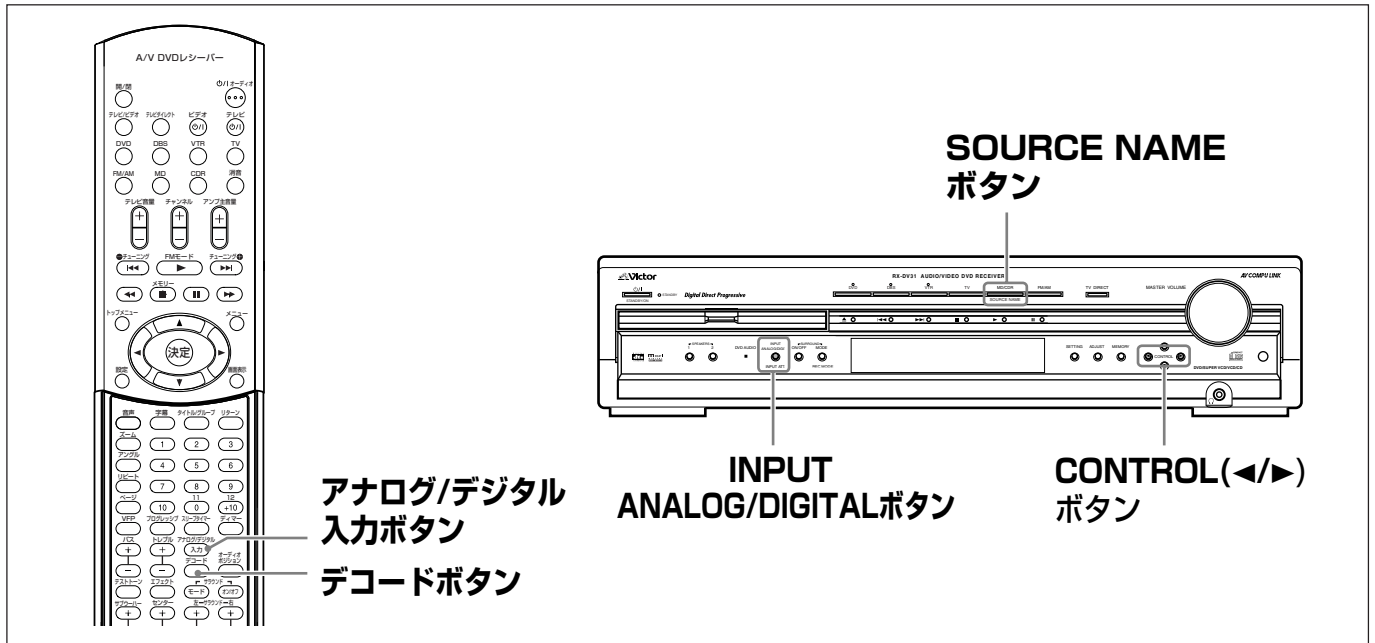
● **テレビダイレクトをやめて、本機の電源を「入」にするには**

リモコンの**テレビダイレクトボタン**または本体の**TV DIRECTボタン**を押します。

● **テレビダイレクトをやめて、本機の電源を「切」にするには**

リモコンの**⏻/Iオーディオボタン**または本体の**⏻/ISTANDBY/ONボタン**を押します。

お知らせ

- すべてのビデオソース（内蔵DVDプレーヤー、BS/CSチューナー、ビデオデッキなど）をテレビダイレクトでお楽しみいただくためには以下のことを行ってください。内蔵DVDプレーヤーのみをお使いのときは、「テレビを接続する」（➡ 19 〜 21 ページ）にしたがって接続してください。
  – ビデオ機器とテレビを、同じ種類の接続コード（ビデオコードまたはSビデオコード）を使って本機に接続する
  – テレビへの音声入力接続と映像入力接続は、同じビデオ入力に接続する
  – 「映像出力を設定する」（➡ 40 ページ）で、お使いの接続コードの種類を設定する
  – 「スキャンモードを切り換える」（➡ 38 ページ）で、インターレースモードを選ぶ
  – テレビダイレクトのときは、DBSまたはVTRを選んでいても、本体のビデオ機器ランプのDBSまたはVTRは点灯しません。

外部入力の機器名(ソース名)を変更する

本体の**MD/CDRボタン**には、接続した機器と一致するように機器名を割り当てることができます。
MD/CDR端子にMDプレーヤー/レコーダーを接続したときは「MD」を割り当て、CDレコーダーを接続したときは「CDR」を割り当てます。

- お買い上げ時の設定は、「MD」です。

本体のみ

ソース(音源)がMDまたはCDRのときに、**SOURCE NAMEボタン**を押し続けます。

SOURCE NAME

ソース名が「MD」から「CDR」に変更されたときは、本体表示窓に「ASSGN.* CDR」と表示され、「CDR」から「MD」に変更されたときは、「ASSGN.MD」と表示されます。

* ASSGN.は「ASSIGNMENT」の略で「割り当て」という意味です。

お知らせ

- ソース名の変更をしなくても接続した機器の再生はできますが、次の点で不便になります。
  - 接続した機器名と異なるソース名が本体表示窓に表示される
  - リモコンのソース機器選択ボタンでソース(音源)の切り換えをするとき、接続した機器名のボタンが働かない
  - デジタル入力端子に接続された機器名を変更するとき(➡ 40 ページ)に接続した機器名が表示されない

アナログ/デジタルの入力信号を切り換える(アナログ/デジタル入力)

テレビ、BS/CSデジタルチューナー、MDレコーダーなどデジタル接続が可能な外部機器を使うときは、アナログ入力とデジタル入力を選ぶことができます。

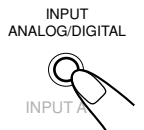
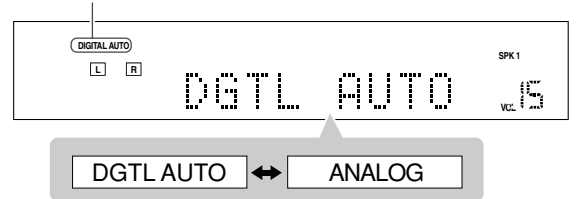
- デジタル入力を選ぶときは「デジタル入力端子に接続した機器名を変更する」(➡ 40 ページ)での設定が必要です。
- アナログ入力/デジタル入力設定は、ソース(音源)ごとに記憶されます。
- ソース(音源)がDVDのときは、デジタル入力信号の切り換えはできません。

リモコン

アナログ/デジタル入力ボタンを押します。

本体

INPUT ANALOG/DIGITALボタンを押します。
ボタンを押すごとに次のように入力が切り換わります。

INPUT
ANALOG/DIGITAL

DIGITAL AUTO表示(DIGITAL AUTOを選んだとき)

DGTL(Digital) AUTO	:デジタル音声を聞くときに選びます。DIGITAL AUTO表示が点灯します。
ANALOG	:アナログ音声を聞くときに選びます。ANALOG表示が点灯します。[お買い上げ時の設定]

手動でデジタル入力信号フォーマットを切り換える

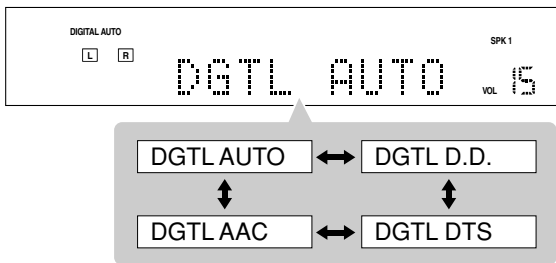
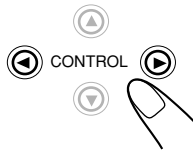
アナログ/デジタル入力切り換えで「DGTL AUTO」を選んでいるときに、デジタル信号が正しく判別できないことがあります。このようなときに、手動でデジタル入力信号フォーマットを切り換えることができます。

- デジタル信号フォーマットは、電源を「切」にしたり、ソース機器選択ボタンで別の入力機器を選んだときは、「DGTL AUTO」に戻ります。
- ソース（音源）がデジタル信号のときは、リモコンでもデジタル信号フォーマットを切り換えることができます。

本体

① **INPUT ANALOG/DIGITALボタン**を押して「DGTL AUTO」を選びます。

② 表示窓に「DGTL AUTO」が表示されているときに、**CONTROL（◄ または ►）ボタン**をくり返し押してデジタル信号フォーマットを選びます。
ボタンを押すごとに、デジタル信号フォーマットが次のように切り換わります。

DGTL AUTO ⟷ DGTL D.D.
↕ ↕
DGTL AAC ⟷ DGTL DTS

DGTL D.D.	：ドルビーデジタル音声を聞きたいときに選びます。 DIGITAL 表示が点灯します。
DGTL DTS	：DTSデジタルサラウンド音声を聞きたいときに選びます。 dts 表示が点灯します。
DGTL AAC	：MPEG-2 AAC音声を聞きたいときに選びます。 MPEG-2 AAC 表示が点灯します。 ソース（音源）がDVDのときは選べません。
DGTL AUTO	：デジタル信号を自動判別するときに選びます。 DIGITAL AUTO表示が点灯します。

リモコン （ソースがデジタル信号のとき）

デコードボタンをくり返し押します。

ボタンを押すごとに、デジタル信号フォーマットが切り換わります。

デジタル信号が正しく判別できないとき

表示窓の「DGTL AUTO」表示や、現在選択中のデジタル信号フォーマットに対応する表示が点滅します。

お知らせ

- BS/CSデジタルチューナーのデジタル音声信号が、リニアPCMからMPEG-2 AACに切り換わったときに、ノイズが発生することがあります。BS/CSデジタルチューナーの設定を切り換えるときは、本機の音量（ボリューム）を最小にしてください。
- BSデジタルチューナーのデジタル音声信号の設定については、BS/CSデジタルチューナーの取扱説明書をご覧ください。
- 本機の電源を「切」にしたり、別のソース（音源）を選んだときは、「DGTL DTS」、「DGTL D.D.」および「DGTL AAC」は「DGTL AUTO」に戻ります。

DGTL AUTOについて

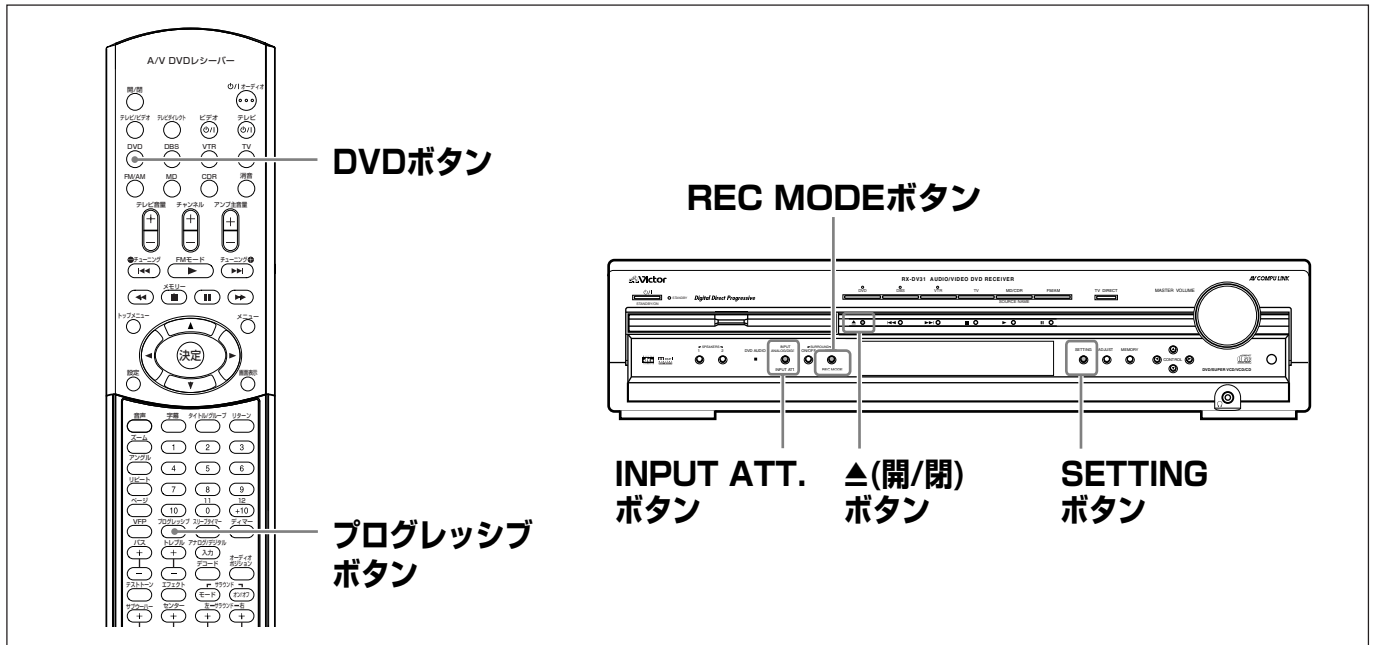
入力されたデジタル信号フォーマットを、自動判別して切り換わります。DIGITAL AUTO表示が点灯します。
本機で表示されるデジタル信号フォーマットは次のとおりです。

PPCM	：入力された信号がＤＶＤオーディオのPPCM(パックドPCM)信号*1のとき点灯します。
DIGITAL	：入力された信号がドルビーデジタル信号のとき点灯します。
dts	：入力された信号がDTSデジタルサラウンド信号のとき点灯します。
LPCM	：入力された信号がLPCM（リニアPCM）信号*2のとき点灯します。
MPEG-2 AAC	：入力された信号がMPEG-2 AAC信号のとき点灯します。

＊1 PPCM（パックドPCM）信号とは、DVDオーディオで採用されている音声信号で、圧縮時のデータ損失がないのが特長です。

＊2 LPCM（リニアPCM）信号とは、アナログ音声信号を圧縮することなく、デジタル音声信号に変換した音声信号です。

お知らせ

- デジタル入力端子に割り当てられているソース名が接続した機器名と合わないときは、デジタル入力に切り換えることはできません。接続した機器名を正しくデジタル入力端子に割り当ててください。詳しくは「デジタル入力端子に接続した機器名を変更する」（➡ 40 ページ）をご覧ください。

アナログ入力信号を調節する(INPUT ATT.)

アナログ入力時に、ソース(音源)の入力信号のレベルが高すぎて、音がひずんでしまうときに使います。

本体のみ

INPUT ATT.ボタンを2秒以上押し続けます。
ボタンを2秒以上押すごとに、次のように切り換わります。

ATT NORMAL	:通常はこちらを選びます。アナログ入力レベルは調節されません。[お買い上げ時の設定]
ATT ON	:アナログ音声がひずんでしまうとき、こちらを選びます。入力信号は調節され減衰します。表示窓にINPUT ATT表示が点灯します。

- ATTは「ATTENUATOR」の略で「減衰器」という意味です。

スキャンモードを切り換える(プログレッシブ)

本機の内蔵DVDプレーヤーのスキャンモードを切り換えます。スキャンモードをプログレッシブモード*にすると、内蔵DVDプレーヤーからより高画質の映像を出力することができるようになります。

- プログレッシブモードの映像はDVD D1/D2映像出力端子またはDVDコンポーネント映像出力端子から出力されます。
- 次のような場合は、スキャンモードをインターレースモード*のままにしておいてください。プログレッシブモードに切り換えると、映像が乱れることがあります。
  - 接続したテレビがプログレッシブモード対応でないとき
  - 接続したテレビのD映像端子がD1信号のみ対応のとき
  - テレビとの接続が映像端子またはS映像端子のとき

＊「用語解説」(➡ 105 ページ)をご覧ください。

リモコンのみ

DVDボタンを押してから、プログレッシブボタンを押します。
ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

PROGRESSIVE	:プログレッシブスキャンモードで映像を楽しむとき選びます。ソースがDVDのときのみ有効です。表示窓に、PROGRESSIVE表示が点灯します。
INTERLACE	:インターレーススキャンモードで映像を楽しむとき選びます。[お買い上げ時の設定]

録音/その他の機能について

録音モードを使う(REC MODE)

本機にアナログ接続した録画･録音用機器(ビデオデッキ、MDレコーダー、CDレコーダーなど)を使って、マルチチャンネル音声を最適な音質で録音することができます。

- マルチチャンネル音声のうち、フロントスピーカーチャンネル以外の音声信号はフロントスピーカーチャンネル信号にミキシングされて、出力されます。
- デジタル出力には対応しません。
- **DVDオーディオ**は、ディスクによって、ダウンミックスが禁止されていることがあります。そのときは、フロントスピーカーチャンネルの音声信号のみ出力されます。

本体のみ

REC MODEボタンを2秒以上押し続けます。
ボタンを2秒以上押すごとに、次のように切り換わります。

REC表示

RECMODE ON ⟷ RECMODE OFF

RECMODE ON ：	録音モードを使うときに選びます。
RECMODE OFF：	通常はこちらを選びます。 [お買い上げ時の設定]

ビデオデッキでの録画について

録音モードをお使いのときは、音量表示はテレビ画面に表示されず、録画もされません。

- オンスクリーンガイドをビデオテープに録画したくないときは、オンスクリーンガイド設定を「オフ」にします(➡ 91 ページ)。
- 設定メニューやメニューバーは、オンスクリーンガイド設定に関わらず、ビデオテープに録画されてしまいますので、ご注意ください。

ご注意

- スピーカーからの音声は、フロントスピーカーのみとなります。
- フロントスピーカーが小さいとき、音声がひずむことがあります。このときは、ひずみがなくなるまで音量を下げてください。

お知らせ

- 本機の電源を「**切**」にしたり、別のソースを選んだときは、録音モードは「RECMODE OFF」になります。
- 「RECMODE ON」のとき、本体の次のボタンは働かなくなります。
  - — **SETTINGボタン**
  - — **ADJUSTボタン**
  - — **SURROUND ON/OFFボタン**と**SURROUND MODEボタン**

  また、リモコンのボタンを使って、各スピーカーの音量･音質を調節すること(➡ 51 ページ)もできません。

ディスクトレイをロックする

あやまった操作などによって、ディスクトレイが開閉するのを防ぐことができます。

本体のみ

電源が「**切**」のとき、以下の操作をします。
SETTINGボタンを押しながら**▲(開/閉)ボタン**を押します。
表示窓に「LOCKED」と表示され、ディスクトレイがロックされます。続いて、電源が「**入**」になります。
ディスクトレイを開けようとすると、表示窓に「LOCKED」と表示されて、ディスクトレイは開きません。

- **ロックを解除するには**
  電源が「**切**」のとき、以下の操作をします。
  SETTINGボタンを押しながら**▲(開/閉)ボタン**を押します。
  表示窓に「UNLOCKED」と表示され、電源が「**入**」になります。

その他の基本操作

設定を記憶させる

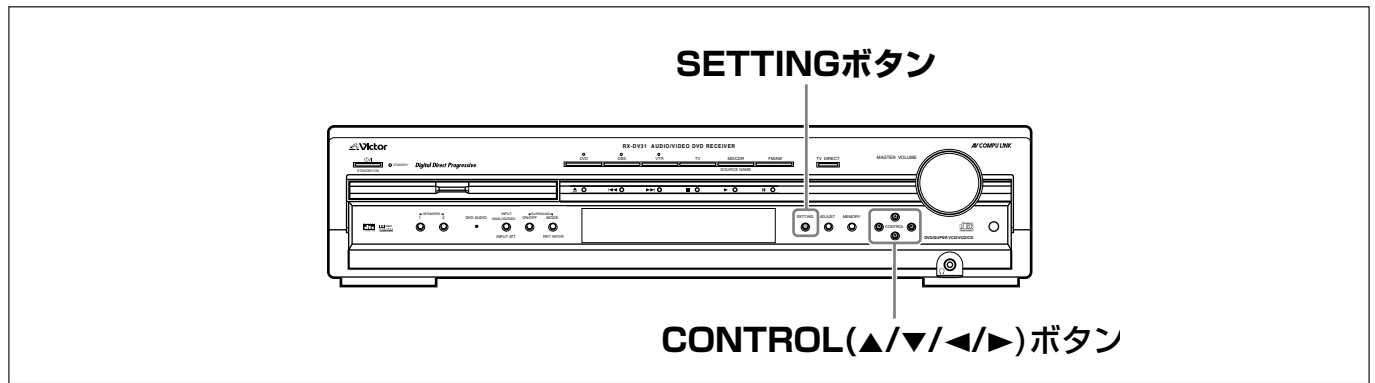
本機は、次のような操作をしたとき、自動的にソース(音源)ごとの設定を記憶します。

- 本機の電源を切ったとき
- 本機のソース(音源)を切り換えたとき
- ソース名を変更したとき
- アナログ入力/デジタル入力を切り換えたとき

また、ソースごとの設定は、最後に操作した状態を常に記憶し、再び同じソースを選んだときにその設定が呼び出されます。

ソースごとに次の内容が記憶されます。

- アナログ/デジタル入力の設定
- アナログ入力信号の調節の設定
- 各スピーカーのバランスの設定
- 各スピーカーのレベルの設定
- BASSの設定
- TREBLEの設定
- サラウンドモードの設定

基本の設定・調節をする

デジタル入力端子に接続した機器名を変更する

デジタル入力端子(デジタル1またはデジタル2)に接続した機器名を設定します。
正しく設定しないと、デジタル音声を聞くことができませんのでご注意ください。

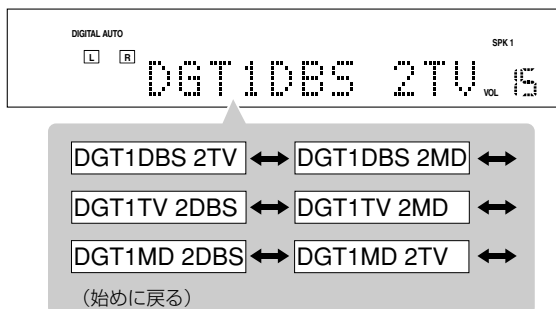
- 途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

1 SETTING(セッティング)ボタンを押す

CONTROL(コントロール)(▲/▼/◀/▶)ボタンが働くようになります。

2 CONTROL(▲ または ▼)ボタンをくり返し押して「DGT」を表示させる

3 CONTROL(◀ または ▶)ボタンをくり返し押してデジタル入力端子に接続した機器の組み合わせを選ぶ

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

「DGT1DBS 2TV」は、「デジタル1」にDBS、「デジタル2」にTVを割り当てていることを意味します。

- 「DGT1DBS 2TV」はお買い上げ時の設定です。また、ソース機器の名前を変更しているとき(➡ 36 ページ)は、「DGT1DBS 2CDR」のように「MD」の代わりに「CDR」と表示されます。

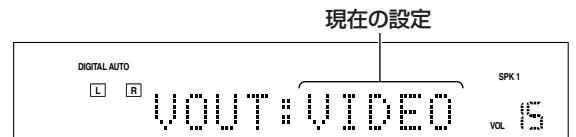
映像出力を設定する

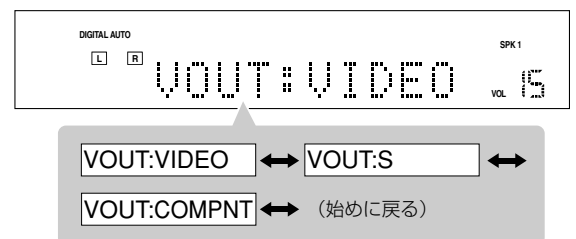
AVコンピュリンク端子付きのビクター製テレビで本機内蔵のDVDプレーヤーからの映像を見るための設定をします。
本機のソース(音源)をDVDにしたときは、この設定にしたがってテレビ側のビデオ入力が自動的に切り換わります。
(➡ 95 ページ)

- 途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

1 SETTING(セッティング)ボタンを押す

CONTROL(コントロール)(▲/▼/◀/▶)ボタンが働くようになります。

2 CONTROL(▲ または ▼)ボタンをくり返し押して「VOUT」を表示させる

3 CONTROL(◀ または ▶)ボタンをくり返し押して映像の出力先を選ぶ

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

VIDEO	: **映像・モニター出力端子**を使ってテレビに接続するとき選びます。テレビの入力が「ビデオ2」に切り換わります。 [お買い上げ時の設定]
S	: **S映像・モニター出力端子**を使ってテレビに接続するとき選びます。テレビの入力が「ビデオ1」に切り換わります。
COMPNT(コンポーネント)	: **DVDコンポーネント映像出力端子**または**DVD D1/D2映像出力端子**を使ってテレビに接続するとき選びます。テレビの入力が「ビデオ3」に切り換わります。

オートサラウンドを設定する

マルチチャンネルのデジタル音声信号を識別すると、自動的に適切なサラウンドを選びます。
オートサラウンドを「OFF」に設定しているときは、マルチチャンネルのデジタル音声信号が入力したときに、手動でサラウンドを「入」にする必要があります。

次のときは、オートサラウンドは働きません。
– PPCMで録音されたソフトを再生中のとき
– リニアPCMで録音されたソフトを再生中のとき
– アナログ音声入力が選ばれているとき
– 手動でデジタル入力信号フォーマット(ドルビーデジタル、DTSデジタルサラウンド、MPEG-2 AAC)を選んでいるとき (➡ 37 ページ)

- 途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

1 SETTING(セッティング)ボタンを押す

CONTROL(コントロール)(▲/▼/◄/►)ボタンが働くようになります。

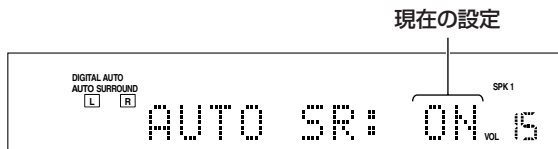
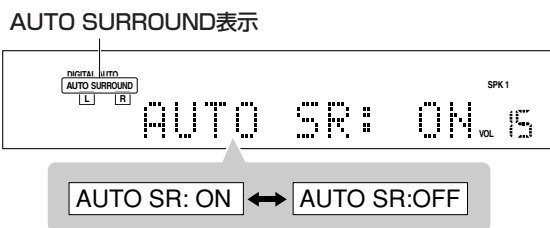
2 CONTROL(▲ または ▼)ボタンをくり返し押して「AUTO SR(オートサラウンド)」を表示させる

現在の設定

3 CONTROL(◄ または ►)ボタンを押す

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

AUTO SURROUND表示

AUTO SR: ON ⟷ AUTO SR:OFF

ON：オートサラウンドを使うときに選びます。
AUTO SURROUND表示が点灯します。
[お買い上げ時の設定]

OFF：オートサラウンドを使わないときに選びます。

ご注意

- オートサラウンドが「ON」になっているときは、他のサラウンドが選ばれていても、マルチチャンネルのデジタル音声信号を識別すると選択中のサラウンドは解除されます。
- オートサラウンドが「ON」になっているときに、本体の**SURROUND ON/OFFボタン**や**SURROUND MODEボタン**(またはリモコンの**サラウンドオン/オフボタン**や**サラウンドモードボタン**)を押すと、一時的にオートサラウンドは解除(「OFF」)されます。
また、次のときオートサラウンドは「ON」に戻ります。
－電源を「**入**」⟷「**切**」する
－他のソース(音源)を選ぶ
－オートサラウンドをもう一度「ON」に設定する

オートサラウンドの詳しい動作について

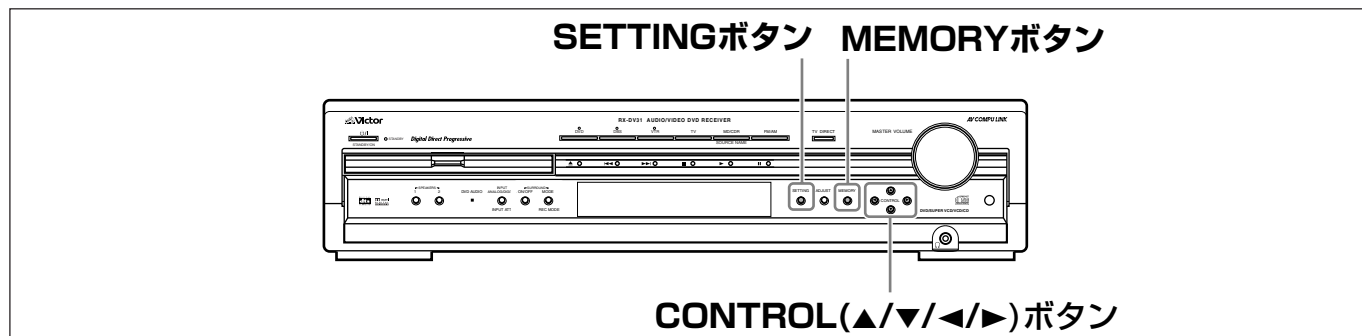
オートサラウンド機能で、デジタル音声信号と選ばれるサラウンドの関係は次のようになっています。

- **3ch以上の音声信号のとき**
ドルビーデジタル(DOLBY DIGITAL)、DTSデジタルサラウンド(dts)、MPEG-2 AACサラウンドに対応するサラウンドが選ばれます。

- **ドルビーサラウンドのようなマトリクス処理された2chの音声信号(Lt/Rt)のとき**
ドルビーデジタル(DOLBY DIGITAL)、DTSデジタルサラウンド(dts)、MPEG-2 AACサラウンドに関わらず、サラウンドモードの「PLII MOVIE」が選ばれます。

- **ドルビーデジタル(DOLBY DIGITAL)、DTSデジタルサラウンド(dts)、MPEG-2 AACサラウンドの2chの音声信号(Lo/Ro)のとき**
サラウンドが「切」になり、「STEREO」になります。

- **上記以外の2ch音声信号のとき**
オートサラウンドは働きません。

その他の基本操作

スピーカーの基本設定をする

リスニングの環境に合わせて、接続したスピーカーの基本設定をします。
スピーカーの基本設定には、次の項目があります。

- 「サブウーハーを設定する」(サブウーハーを使うかどうかを選びます。➡ 44 ページ)。
- 「スピーカーサイズを設定する」(接続したスピーカーのサイズを登録します。➡ 45 ページ)。
- 「スピーカーの距離を登録する」(リスニングポジションから各スピーカーまでの距離が同じになるように調節します。➡ 46 ～ 47 ページ)。

また、スピーカーの基本設定をするには、次の3とおりの方法があります。いずれかの方法を選んで設定します。

- スピーカーの基本設定を手早く行う(「クイックセットアップ機能を使う」)。
- スピーカーの基本設定を手動で行う(「手動でスピーカーの基本設定をする」➡ 44 ～ 47 ページ)。
- スピーカーの基本設定をテレビ画面上のメニュー操作で行う(「テレビ画面で設定を変更する」➡ 84 ～ 91 ページ)。

クイックセットアップ機能を使う

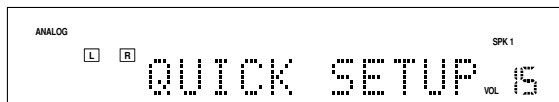
「サブウーハーを設定する」、「スピーカーサイズを設定する」および「スピーカーの距離を登録する」(➡ 44 ～ 47 ページ)の3つの基本設定を手早く行うことができます。

- クイックセットアップの設定は、操作(手順**1**から手順**9**まで)がすべて終了したとき、設定した内容が登録されます。操作を途中で止めたときは、そこまでの設定は登録されません。
- 途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

1 SETTING(セッティング)ボタンを押す

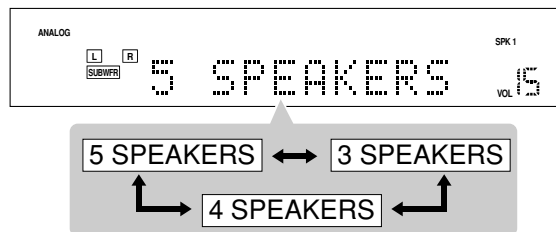
CONTROL(コントロール)(▲/▼/◀/▶)**ボタン**が働くようになります。

2 CONTROL(▲ または ▼)ボタンをくり返し押して「QUICK(クイック) SETUP(セットアップ)」を表示させる

ANALOG　L　R　QUICK SETUP　SPK 1　VOL 15

3 MEMORY(メモリー)ボタンを押す

表示窓に「ENTER THE NUMBER OF SPEAKERS」(スピーカーの数を設定します)と、スクロール表示されます。
続いて「5 SPEAKERS」(お買い上げ時の設定)が表示されます。

4 CONTROL(◀ または ▶)ボタンをくり返し押して接続したスピーカーの数を選ぶ

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

5 SPEAKERS：左右のフロントスピーカー、センタースピーカーおよび左右のサラウンドスピーカーを接続したときに選びます。
[お買い上げ時の設定]

4 SPEAKERS：左右のフロントスピーカーと左右のサラウンドスピーカーを接続したときに選びます。

3 SPEAKERS：左右のフロントスピーカーとセンタースピーカーを接続したときに選びます。

5 MEMORY(メモリー)ボタンを押す

手順**4**で選んだスピーカーの数が設定されます。
続いて、表示窓に「ENTER USE OF SUBWOOFER」(サブウーハーを使用するかどうかを設定します)とスクロールされ、「SUBWFR USE」が表示されます。

クイックセットアップ機能を使う(つづき)

6 CONTROL(◄ または ►)ボタンを押してサブウーハーを使用するかどうかを選ぶ

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

USE ：サブウーハーを使用するときに選びます。表示窓のSUBWFR表示が点灯します。
[お買い上げ時の設定]

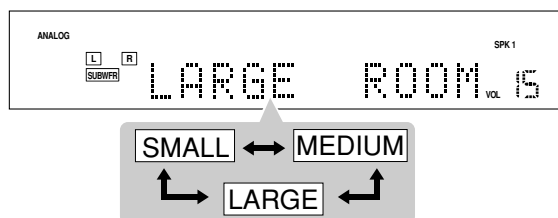
NO ：サブウーハーをつないでいないとき、またはサブウーハーを使用しないときに選びます。

- 接続したスピーカーの数とサブウーハーの有無を設定すると、スピーカーサイズが自動的に設定されます(右表「クイックセットアップ機能によるスピーカーサイズの設定」参照)。

7 MEMORY(メモリー)ボタンを押す

手順**6**で選んだサブウーハーの有無が設定されます。続いて、表示窓に「ENTER ROOM SIZE」(リスニングルームの大きさを設定します)とスクロールされ、「LARGE ROOM」が表示されます。

8 CONTROL(◄ または ►)ボタンをくり返し押してリスニングルームの大きさを選ぶ

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

- リスニングルームの大きさは、右図表の「クイックセットアップ機能によるスピーカーの距離の設定」から最も近い大きさを割り出して設定します。
- お買い上げ時は、「LARGE ROOM(ラージ ルーム)」に設定されています。
- リスニングルームの大きさを登録すると、スピーカーからリスニングポジションまでの距離が自動的に設定されます。

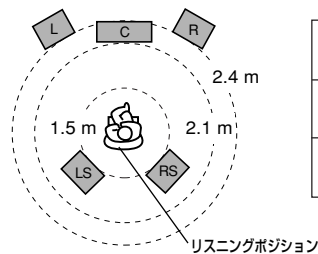
9 MEMORY(メモリー)ボタンを押して終了する

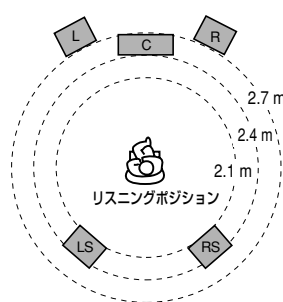
手順**8**で選んだリスニングルームの大きさが設定されます。続いて、表示窓に「SETUP END」(スピーカー設定を終了します)と表示され、設定した内容がすべて登録されます。

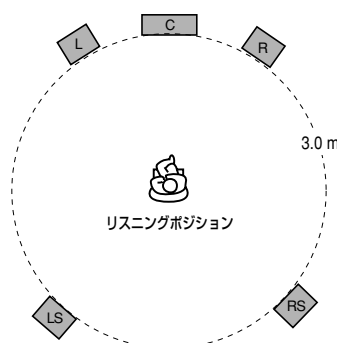
● クイックセットアップ機能によるスピーカーサイズの設定

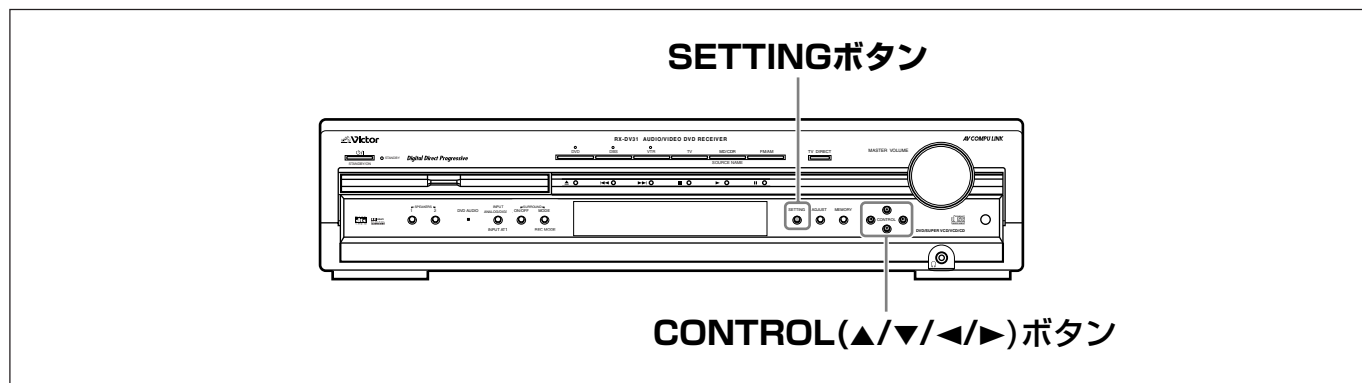
設定項目		スピーカーサイズの自動設定		
接続したスピーカーの数	サブウーハーの 有無	フロントスピーカー(左右)	センタースピーカー	サラウンドスピーカー(左右)
3	NO(なし)	LRG(大)	SML(小)	NO(なし)
3	USE(あり)	SML(小)	SML(小)	NO(なし)
4	NO(なし)	LRG(大)	NO(なし)	SML(小)
4	USE(あり)	SML(小)	NO(なし)	SML(小)
5	NO(なし)	LRG(大)	SML(小)	SML(小)
5	USE(あり)	SML(小)	SML(小)	SML(小)

● クイックセットアップ機能によるスピーカーの距離の設定

・リスニングルームの大きさを「SMALL ROOM(スモール ルーム)」に設定したとき

フロントスピーカー(L、R)	2.4 m
センタースピーカー(C)	2.1 m
サラウンドスピーカー(LS、RS)	1.5 m

・リスニングルームの大きさを「MEDIUM ROOM(ミディアム ルーム)」に設定したとき

フロントスピーカー(L、R)	2.7 m
センタースピーカー(C)	2.4 m
サラウンドスピーカー(LS、RS)	2.1 m

・リスニングルームの大きさを「LARGE ROOM(ラージ ルーム)」に設定したとき

フロントスピーカー(L、R)	3.0 m
センタースピーカー(C)	3.0 m
サラウンドスピーカー(LS、RS)	3.0 m

その他の基本操作

スピーカーの基本設定をする(つづき)

手動でスピーカーの基本設定をする

スピーカーの基本設定は、クイックセットアップ機能(➡ 42 43 ページ)を使って手早く行えます。各スピーカーを個別に選んで、より詳細な設定をしたいときは手動で行います。

- テレビ画面上のメニュー操作(➡ 84 〜 91 ページ)でも設定できます。

■ サブウーハーを設定する

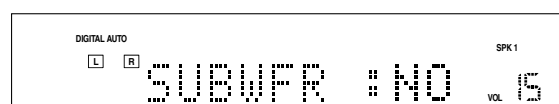
- 途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

1 SETTING(セッティング)ボタンを押す

CONTROL(コントロール)(▲/▼/◄/►)**ボタン**が働くようになります。

2 CONTROL(▲ または ▼)ボタンをくり返し押して「SUBWFR(サブウーハー)」を表示させる

3 CONTROL(◄ または ►)ボタンを押して設定を選ぶ

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

SUBWFR: YES ⟷ SUBWFR: NO

YES ：サブウーハーを使用するときに選びます。
表示窓のSUBWFR表示が点灯します。
サブウーハーの出力レベルが調節できるようになります(➡ 50 ページ)。
[お買い上げ時の設定]

NO ：サブウーハーをつないでいないとき、またはサブウーハーを使用しないときに選びます。

ご注意

- サブウーハーの設定を「NO」に設定しているときは、フロントスピーカーのサイズは「LRG」しか選べません(➡ 45 ページ)。

スピーカーの基本設定をする（つづき）

手動でスピーカーの基本設定をする（つづき）

■ スピーカーサイズを設定する

本機に、接続したスピーカーのおおまかなサイズを登録します。スピーカーの接続を終えてから設定します。

接続したスピーカーに内蔵されているスピーカーユニットの口径が12cm以上なら「LRG」を選び、12cm以下なら「SML」を選びます。

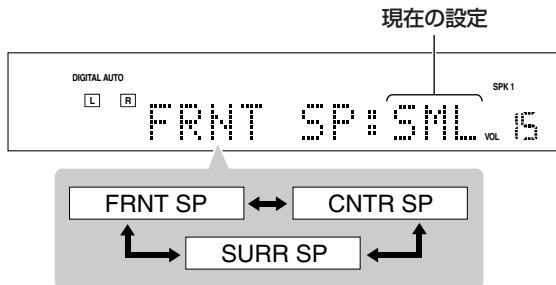
- 途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

1 **SETTINGボタンを押す**

CONTROL(▲/▼/◄/►)ボタンが働くようになります。

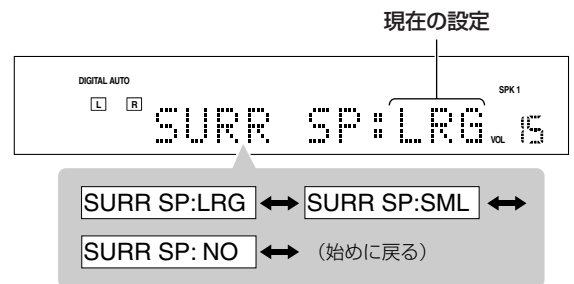
2 **CONTROL(▲ または ▼)ボタンをくり返し押して設定するスピーカーを表示させる**

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

現在の設定

FRNT SP：	フロントスピーカーのサイズを設定するときに選びます。［お買い上げ時:SML］
CNTR SP：	センタースピーカーのサイズを設定するときに選びます。［お買い上げ時:SML］
SURR SP：	サラウンドスピーカーのサイズを設定するときに選びます。［お買い上げ時:SML］

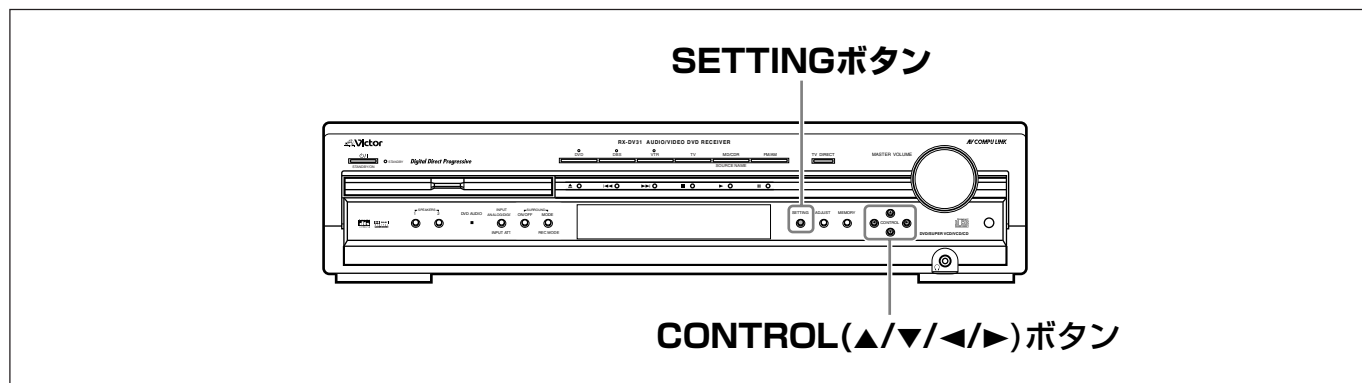
3 **CONTROL(◄ または ►)ボタンをくり返し押してスピーカーのサイズを選ぶ**

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

現在の設定

LRG（大）：	大きめのスピーカー(スピーカーユニットの口径が12cm以上)を接続したときに選びます。
SML（小）：	小さめのスピーカー(スピーカーユニットの口径が12cm未満)を接続したときに選びます。
NO（なし）：	スピーカーを接続していないときに選びます(フロントスピーカーには「NO」の設定はありません)。

4 **手順2と手順3をくり返して他のスピーカーのサイズを設定する**

ご注意

- サブウーハーの設定を「NO」に設定しているときは、フロントスピーカーのサイズは「LRG」しか選べません。
- フロントスピーカーのサイズを「SML」に設定したときは、センタースピーカーやサラウンドスピーカーを「LRG」に設定することはできません。

スピーカーの基本設定をする(つづき)

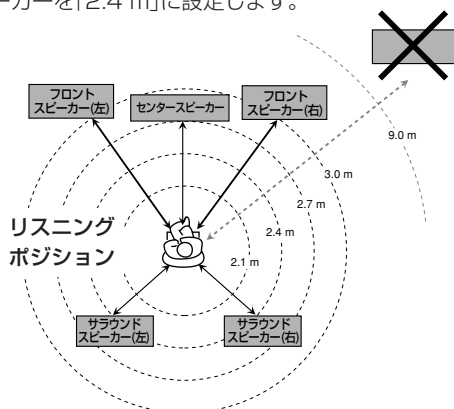
手動でスピーカーの基本設定をする(つづき)

■ スピーカーの距離を登録する

ドルビーデジタル、DTSデジタルサラウンドや、MPEG-2 AACサラウンドで効果的な音場を構成するには、リスニングポジションから各スピーカーまでの距離が同じであることが理想的です。本機では、リスニングポジションから各スピーカーまでの実際の距離を登録するだけで、どの距離も同じであるように音場を調節することができます。

スピーカーの距離の登録は、クイックセットアップ機能(➡ 42 43 ページ)を使って手早く行えます。各スピーカーを個別に選んで、より詳細な設定をしたいときは手動で行います。

- 登録できる距離は、0.3 m(30cm)から9.0 mまでを0.3 m(30cm)きざみで登録できます。
- フロントスピーカーとサラウンドスピーカーは、左右のスピーカー距離を別々に登録することはできません。設置のときに、左右のスピーカーの距離を合わせてください。

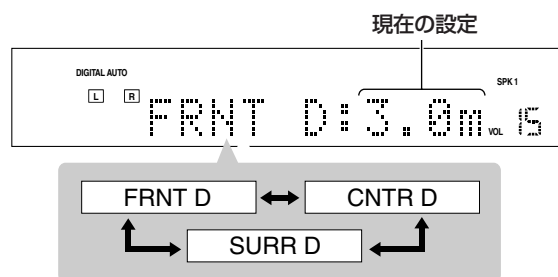
例) 下図のようにスピーカーを配置したときは、フロントスピーカーを「3.0 m」に、センタースピーカーを「2.7 m」に、サラウンドスピーカーを「2.4 m」に設定します。

0.3m(30cm)以内のスピーカーおよび9.0 m以上離れたスピーカーを登録することはできません。

- 途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

1 SETTINGボタンを押す

CONTROL(▲/▼/◄/►)**ボタン**が働くようになります。

2 CONTROL(▲ または ▼)ボタンをくり返し押して設定するスピーカーを表示させる

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

FRNT D(Distance)
: 左右のフロントスピーカーの距離を設定するときに選びます。「0.3 m(30cm)」から「9.0 m」の範囲で設定できます。
[お買い上げ時:3.0 m]

CNTR D : センタースピーカーの距離を設定するときに選びます。「0.3 m(30cm)」から「9.0 m」の範囲で設定できます。
[お買い上げ時:3.0 m]

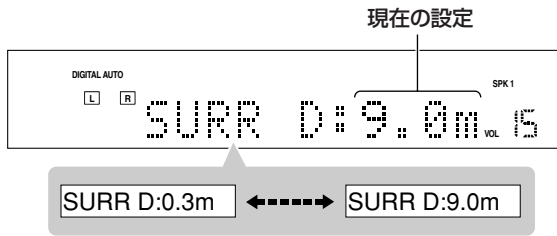
SURR D : 左右のサラウンドスピーカーの距離を設定するときに選びます。「0.3 m(30cm)」から「9.0 m」の範囲で設定できます。
[お買い上げ時:3.0 m]

スピーカーの基本設定をする(つづき)

手動でスピーカーの基本設定をする(つづき)

■ スピーカーの距離を登録する(つづき)

3 CONTROL(◄ または ►)ボタンをくり返し押して設定する距離を選ぶ

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

4 手順**2**と手順**3**をくり返して他のスピーカーの距離を設定する

クロスオーバー周波数を設定する

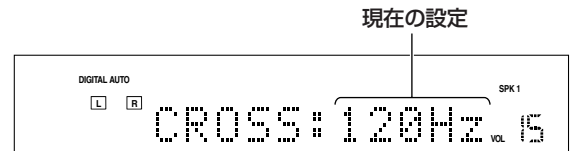
小型スピーカーでは低音を効果的に再生できないことがあります。本機では、フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーのいずれかに小型のスピーカーが使われているとき、その低音要素を他の大型スピーカーへ自動的に振り分けます。
この機能を正しく動作させるために、小型スピーカーのサイズに応じて、クロスオーバー周波数を設定します。

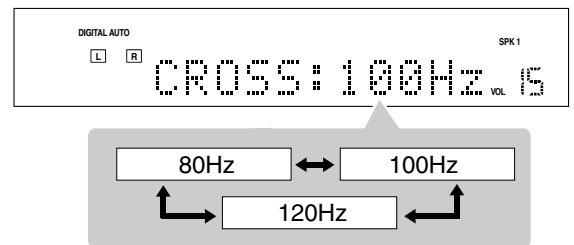
- 「スピーカーサイズを設定する」(➡ 45 ページ)ですべてのスピーカーを「LRG」に設定しているときは、この機能は働きません。
- テレビ画面上のメニュー操作(➡ 84 ～ 91 ページ)でも設定できます。

- 途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

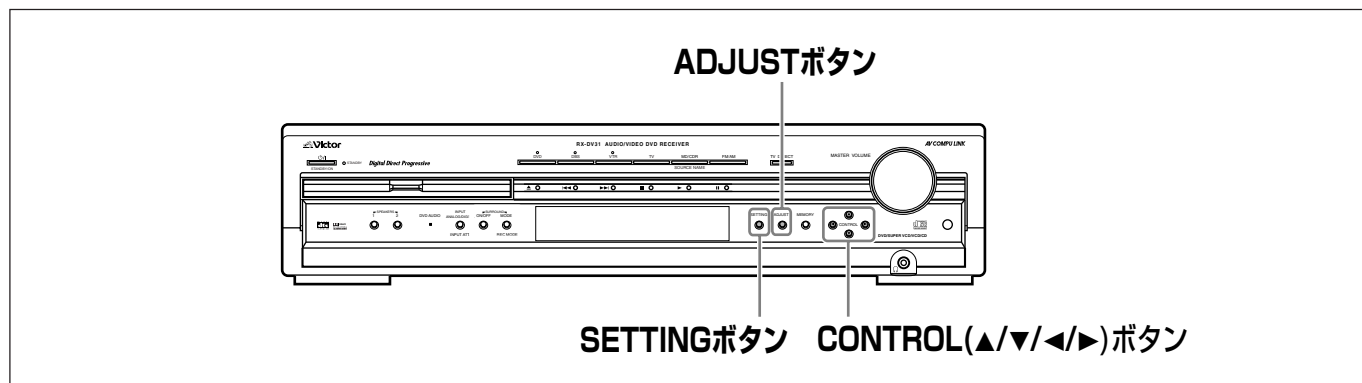
1 SETTING(セッティング)ボタンを押す

CONTROL(コントロール)(▲/▼/◄/►)ボタンが働くようになります。

2 CONTROL(▲ または ▼)ボタンをくり返し押して「CROSS(クロスオーバー)」を表示させる

3 CONTROL(◄ または ►)ボタンをくり返し押してクロスオーバー周波数を選ぶ

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

クロスオーバー周波数を大きく設定すると、スピーカーの口径が小さい場合でも、低音要素は損なわれにくくなります。次の表を参考に設定してください。

80Hz	スピーカーの口径が12cm以上のとき選びます。
100Hz	スピーカーの口径が10cm程度のとき選びます。
120Hz	スピーカーの口径が8cm以下のとき選びます。 [お買い上げ時の設定]

基本の設定・調節をする(つづき)

ダイナミックレンジを設定する

最大音声と最小音声の差をダイナミックレンジといいます。その差を圧縮することによって、夜間でもサラウンドをお楽しみいただけます。

- 再生するソフトによって、圧縮の効果は異なります。
- テレビ画面上のメニュー操作(84～91ページ)でも設定できます。
- 途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

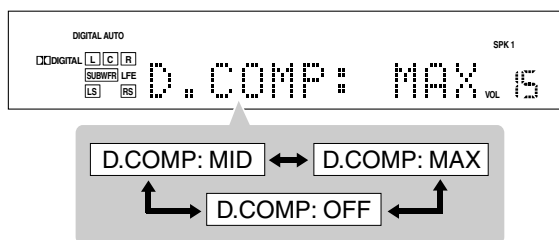
1 SETTINGボタンを押す

CONTROL(▲/▼/◀/▶)ボタンが働くようになります。

2 CONTROL(▲ または ▼)ボタンをくり返し押して「D. COMP」を表示させる

現在の設定

3 CONTROL(◀ または ▶)ボタンをくり返し押して設定を選ぶ

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

OFF	：ダイナミックレンジはそのままで、サラウンドを楽しみたいときに選びます。
MID	：ダイナミックレンジを少し圧縮したいときに選びます。[お買い上げ時の設定]
MAX	：ダイナミックレンジの圧縮を最大にしたいときに選びます(夜間など周囲の方に迷惑をかけたくないときに選びます)。

低音域のレベルを設定する

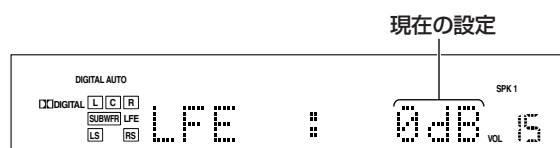
ドルビーデジタル音声を再生中に、低音がひずむとき設定します。

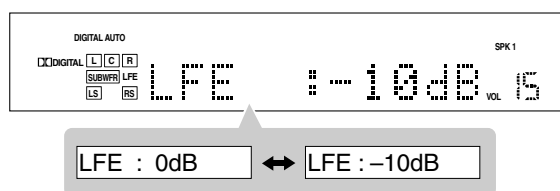
- この機能は「サブウーハーを設定する」(➡ 44 ページ)で「YES」を選んでいて、LFE音声信号(Low Frequency Effect:低音域信号)が入力されたときのみ働きます。
- テレビ画面上のメニュー操作(84～91ページ)でも設定できます。
- 途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

1 SETTINGボタンを押す

CONTROL(▲/▼/◀/▶)ボタンが働くようになります。

2 CONTROL(▲ または ▼)ボタンをくり返し押して「LFE」を表示させる

現在の設定

3 CONTROL(◀ または ▶)ボタンをくり返し押して低音域の設定値を選ぶ

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

0dB	：通常はこれを選びます。[お買い上げ時の設定]
−10dB	：低音域がひずむときに選びます。

音量･音質を調節する

次の音量と音質の調節をすることができます。

- **フロントスピーカーの左右のバランス(「BAL」)**
- **音質(「BASS」「TREBLE」)**
- **サブウーハー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーの出力レベル(「SUBWFR」「CENTER」「SURR L」「SURR R」)**
- **オーディオポジション(「AUDIO POS」)**
- **エフェクト(「EFFECT」)**

リモコンまたはテレビ画面上のメニュー操作でも設定できます(ただし、「フロントスピーカーの左右のバランスを調節する」はリモコンでは操作できません。また、「エフェクトを調節する」はテレビ画面上のメニューでは操作できません)。

- **リモコンを使って設定** **➡ 51 ページ参照**
- **メニュー操作で設定** **➡ 88 ページ参照**

これらの設定は、ソース(音源)ごとに記憶されます。

フロントスピーカーの左右のバランスを調節する

左右のフロントスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に置けないときなどに、左右のフロントスピーカーの音量バランスを調節します。

- 設定はソース(音源)ごとに記憶されます。
- リモコンを使っての設定はできません。
- 途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

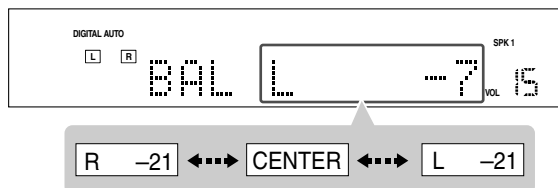
1 ADJUST(アジャスト)ボタンを押す

CONTROL(コントロール)(▲/▼/◄/►)ボタンが働くようになります。

2 CONTROL(▲ または ▼)ボタンをくり返し押して「BAL(バランス)」を表示させる

現在の設定

3 CONTROL(◄ または ►)ボタンをくり返し押してバランスを調節する

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

- お買い上げ時は「CENTER(センター)」に設定されています。
- **CONTROL(►)ボタン**を押すとフロントスピーカー出力の左右のバランスが右側に移動します。
  CONTROL(◄)ボタンを押すとフロントスピーカー出力の左右のバランスが左側に移動します。
- バランスを元に戻すには「CENTER(センター)」を選びます。

音質を調節する

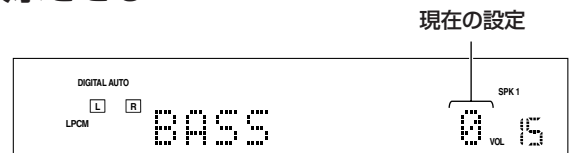
フロントスピーカーの高音と低音をお好みに合わせて調節します。

- 設定はソース(音源)ごとに記憶されます。
- 途中で調節操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

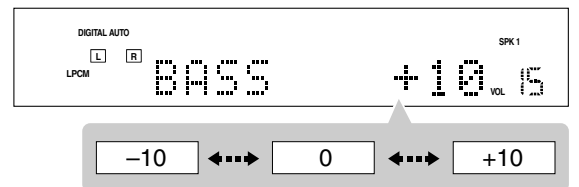
1 ADJUST(アジャスト)ボタンを押す

CONTROL(コントロール)(▲/▼/◄/►)ボタンが働くようになります。

2 CONTROL(▲ または ▼)ボタンをくり返し押して「BASS(バス)」または「TREBLE(トレブル)」を表示させる

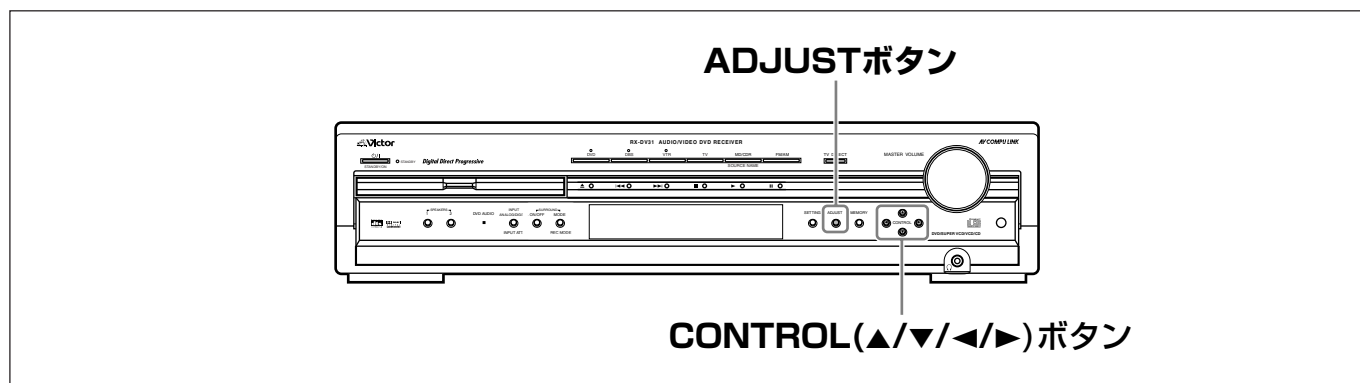
現在の設定

BASS	：低音を調節するときに選びます。
TREBLE	：高音を調節するときに選びます。

3 CONTROL(◄ または ►)ボタンを押して音質を調節する

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

- **CONTROL(►)ボタン**を押すごとに「+2」ずつ低音または高音が上がります。
  CONTROL(◄)ボタンを押すごとに「–2」ずつ低音または高音が下がります。
- 「–10」〜「+10」の範囲で調節できます。

4 手順2と手順3をくり返して他の音質を調節する

その他の基本操作

基本の設定・調節をする(つづき)

音量・音質を調節する(つづき)

スピーカーの出力レベルを調節する

センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、サブウーハーの出力レベルを調節します。

- スピーカーを使わない設定のときやサラウンドモードによっては、調節のできないスピーカーがあります。
  「サブウーハーを設定する」(➡ 44 ページ)
  「スピーカーサイズを設定する」(➡ 45 ページ)
  「サラウンドを使う」(➡ 52 ～ 55 ページ)
- 設定はソース(音源)ごとに記憶されます。
- 途中で調節操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

1 **ADJUSTボタンを押す**

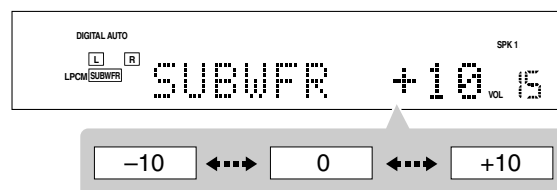
CONTROL(▲/▼/◄/►)ボタンが働くようになります。

2 **CONTROL(▲ または ▼)ボタンをくり返し押して設定するスピーカーを表示させる**

現在の設定

SUBWFR	：サブウーハーの出力レベルを設定するときに選びます。 [お買い上げ時: 0(dB)]
CENTER	：センタースピーカーの出力レベルを設定するときに選びます。 [お買い上げ時: 0(dB)]
SURR L	：サラウンドスピーカー(左)の出力レベルを設定するときに選びます。 [お買い上げ時: 0(dB)]
SURR R	：サラウンドスピーカー(右)の出力レベルを設定するときに選びます。 [お買い上げ時: 0(dB)]

3 **CONTROL(◄ または ►)ボタンをくり返し押して出力レベルを調節する**

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

- **CONTROL(►)ボタン**を押すごとに出力レベルが上がります。
  CONTROL(◄)ボタンを押すごとに出力レベルが下がります。
- 「–10(dB)」～「+10(dB)」の範囲で調節できます。

4 **手順2と手順3をくり返して、他のスピーカーの出力レベルを設定する**

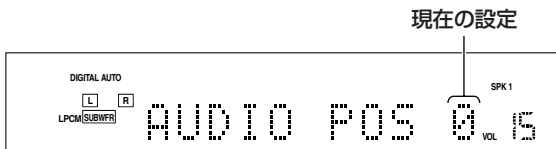
低音の響きすぎを抑える<オーディオポジション>

ステレオ再生をお楽しみのときに、サブウーハーの低音が響きすぎることがあります。
ステレオ再生時のサブウーハー出力レベルを、自動的に設定した値に下げることができます。

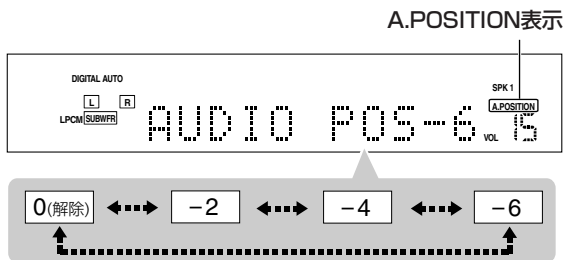
- 途中で調節操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

1 ADJUSTボタンを押す

CONTROL（▲/▼/◄/►）ボタンが働くようになります。

2 CONTROL（▲ または ▼）ボタンをくり返し押して「AUDIO POS」を表示させる

現在の設定

3 CONTROL（◄ または ►）ボタンをくり返し押して出力レベルを調節する

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

A.POSITION表示

- **CONTROL（►）ボタン**を押すごとに「＋2」ずつ低音の出力レベルが上がります。
  CONTROL（◄）ボタンを押すごとに「－2」ずつ低音の出力レベルが下がります。
- 「0（解除）」、「－2」、「－4」、「－6」の4段階で調節できます。数字が小さいほど低音の出力レベルが下がります。
- お買い上げ時は「0（解除）」に設定されています。
- オーディオポジションが「0（解除）」以外に設定されると、表示窓に**A.POSITION**表示が点灯します*。

＊ A.POSITIONは、サラウンドが「**切**」（ステレオ再生）のときに働いて、**A.POSITION**表示が点灯します。サラウンドが「**入**」のときは一時的に解除され、**A.POSITION**表示は点灯しません。

オーディオポジションの設定を解除するには

手順**3**で「0（解除）」を選びます。

ご注意

- サブウーハーの設定を「NO」に設定しているときは、オーディオポジションの設定はできません。

エフェクトを調節する

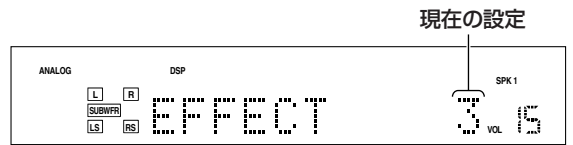
DSPモード（LIVE CLUB、DANCE CLUB、HALL、PAVILION）をお楽しみいただいているとき、その効果の度合い（エフェクトレベル）を調節することができます。

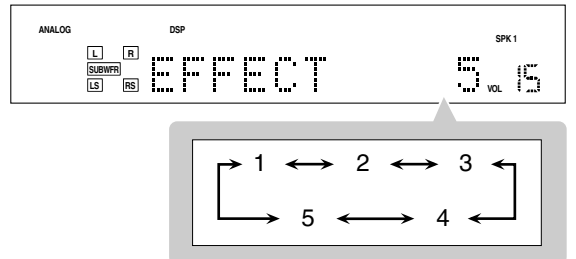
- DSPモードについては、「サラウンドを使う」（➡ 52 ～ 55 ページ）をご覧ください。
- 設定はソース（音源）ごとに記憶されます。
- 途中で調節操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

1 ADJUSTボタンを押す

CONTROL（▲/▼/◄/►）ボタンが働くようになります。

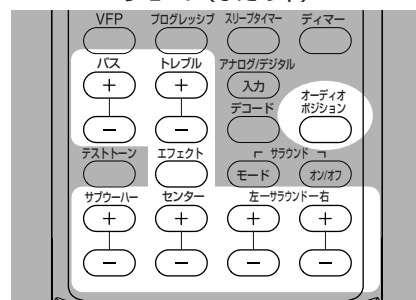
2 CONTROL（▲ または ▼）ボタンをくり返し押して「EFFECT」を表示させる

現在の設定

3 CONTROL（► または ◄）ボタンをくり返し押してエフェクトレベルを調節する

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

- お買い上げ時は「3」に設定されています。
- エフェクトレベルが大きいほど、サラウンドの効果が大きくなります。

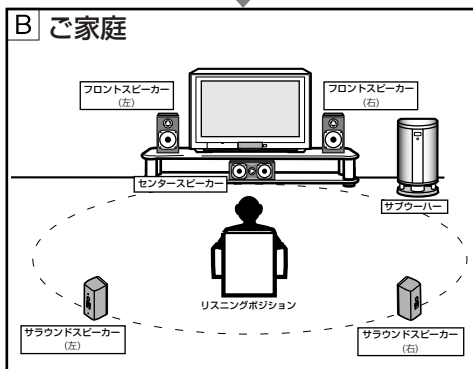
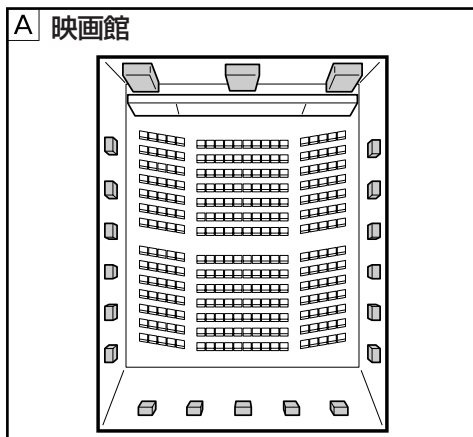
リモコンを使って音量・音質を調節する

リモコンで操作するときは、調節したい項目のボタンを直接押して調節します。

リモコン（ふたの中）

サラウンドを使う

サラウンドとは

映画館は、計算された効果音で臨場感を再現するために、壁に多くのスピーカーを配置し、あらゆる方向から音声が聞こえてくるように設計されています。**(図A)**
客席を包みこむように多くのスピーカーを配置することによって、音の定位感と躍動感を飛躍的に高めています。

本機は、5つのスピーカーとサブウーハーを使うことで、映画館そのままの臨場感をご家庭で再現することができます。**(図B)**

音声信号とお使いになれるサラウンドの関係については、「音声信号/サラウンド対応表」(➡ 99 ページ)も併せてご覧ください。

● ドルビーデジタル *1

DVDソフトに使われているマルチチャンネル対応の音声圧縮方式のひとつです(このようなソフトには DOLBY DIGITAL マークが記載されます)。
ドルビーデジタル5.1chの場合、フロント左右、センター、サラウンド左右、サブウーハーの5.1ch(サブウーハーは0.1chと数えます)の各チャンネルを完全に独立した音声として再生するので、チャンネル間の干渉も少なく、より優れた音質でより立体的なサラウンドが再現できます。

本機にはドルビーデジタルデコーダーが搭載されていますので、内蔵のDVDプレーヤーでドルビーデジタルの映像ソフトが再生できます。

- 外部接続した機器でドルビーデジタル音声を再生するには、お使いになる機器を本体背面のデジタル入力端子に接続してください。(➡ 24 ページ)
- ドルビーデジタル信号が検出されると、表示窓のデジタル信号方式表示の DIGITAL 表示(➡ 37 ページ)が点灯します。

● DTS(ディーティーエス)デジタルサラウンド *2

DTSデジタルサラウンドは、CD、LD、DVDなどに使われています(このようなソフトには DIGITAL dts SURROUND マークが記載されています)。
ドルビーデジタル同様5.1chのデジタル音声フォーマットですが、音声圧縮率を低く設定してあるため、厚みのある、より高音質な再生が可能となります。

本機にはDTSサラウンドデコーダーが内蔵されていますので、内蔵のDVDプレーヤーでDTSデジタルサラウンドの映像ソフトが再生できます。

- 外部接続した機器でDTSサラウンド音声を再生するには、お使いになる機器を本体背面のデジタル入力端子に接続してください(➡ 24 ページ)。
- DTS信号が検出されると、表示窓のデジタル信号方式表示の dts 表示(➡ 37 ページ)が点灯します。

● AAC(エーエーシー)(Advanced(アドバンスト) Audio(オーディオ) Coding(コーディング))サラウンド

MPEG-2(エムペグツー)オーディオの標準方式のひとつで、BS/CSデジタル放送で採用されている音声符合化規格です。
低ビットレートで高音質を確保できる点が特長で、番組内容により5.1chのマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。

- AACサラウンドの音声を聞くには、お使いになる機器を本体背面のデジタル入力端子に接続してください(➡ 24 ページ)。
- MPEG-2 AAC信号が検出されると、表示窓のデジタル信号方式表示の**MPEG-2 AAC**表示(➡ 37 ページ)が点灯します。

米国パテントナンバー

5,848,391;	5,291,557;	5,451,954;
5,400,433;	5,222,189;	5,357,594;
5,752,225;	5,394,473;	5,583,962;
5,274,740;	5,633,981;	5,297,236;
4,914,701;	5,235,671;	07/640,550;
5,579,430;	08/678,666;	98/03037;
97/02875;	97/02874;	98/03036;
5,227,788;	5,285,498;	5,481,614;
5,592,584;	5,781,888;	08/039,478;
08/211,547;	5,703,999;	08/557,046;
08/894,844		

● ドルビープロロジックII *3

本機にはドルビープロロジックIIデコーダーが内蔵されています。
ドルビーサラウンド方式で記録された2ch音声はもちろん、通常の2ch音声も5.1ch音声にまで拡張することができます。また、従来のドルビープロロジック方式でできなかったサラウンドスピーカーの高音域も再生することができます。このため、より奥行きと広がりのあるサラウンドがお楽しみいただけます。

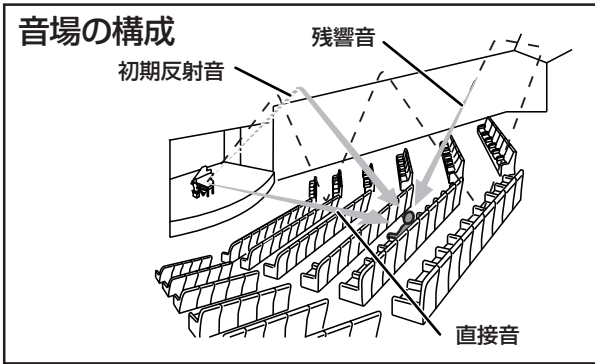
ドルビープロロジックIIには次の2つのモードがあります。

プロロジックIIムービー
DOLBY SURROUND マークのついたドルビーサラウンド方式で記録された2ch音声または2ch音声の映像ソフトの再生に向いています。DVDソフトなどのマルチチャンネル5.1ch音声に近い音場での再生をお楽しみいただけます。

プロロジックIIミュージック
2ch音声の音楽ソフトの再生に向いています。音楽ソフトの再生に適した広がりと奥行きを持った音場をお楽しみいただけます。

- ドルビープロロジックIIは、ドルビーサラウンド方式で記録された音声も含めてすべての2ch音声に対して有効です。
- ドルビープロロジックIIデコーダーが働いていると、表示窓のサラウンドモード表示の PL II 表示(➡ 12 ページ)が点灯します。

● DSPモード

コンサートホールやライブハウスなどで聞く音は、音源から直接耳に届く音(**直接音**)と天井や壁などに反射してから耳に届く音(**初期反射音**)、そして、何回も反射を繰り返してから耳に届く音(**残響音**)によって構成されています。これらの反射音/残響音は、リスナーと天井、壁の距離によって様々な遅延時間をもった音となり、コンサートなどでは、直接音とこれらの反射音/残響音によって、音場が作り出されています。

本機に搭載されているDSP(デジタル・シグナル・プロセッサー)は、これらの反射音や残響音をデジタル信号処理により創り出しコンサートホールやライブハウスなどの臨場感を再現します。

本機では次のDSPモードをお楽しみいただけます。

LIVE CLUB	天井の低いライブハウスの臨場感を再現します。
DANCE CLUB	ディスコの臨場感を再現します。
HALL	コンサートホールの臨場感を再現します。特にボーカルがはっきりします。
PAVILION	天井の高い展示会場の臨場感を再現します。

- DSPモードはアナログ2ch音声やリニアPCMデジタル音声で録音されたソフトを再生するときに使うことができます。
- DSPモードをお楽しみいただくには、フロントスピーカーの他にサラウンドスピーカーを接続・設定する必要があります(センタースピーカーを接続・設定していても音声は出ません)。
- DSPモードをお使いのときは、表示窓のサラウンドモード表示の**DSP**表示(➡ 12 ページ)が点灯します。
- DSPモードを選んでいるときは、音響効果の度合い(エフェクトレベル)が調節できます(➡ 51 ページ)。

● オールチャンネルステレオ

接続・設定されたすべてのスピーカーを使って、より広い範囲でステレオ音声をお楽しみいただけます。センタースピーカーが使えるときは、左右フロントスピーカーの音声をダウンミックスして、モノラル音声にします。

- オールチャンネルステレオはアナログ2ch音声やリニアPCMデジタル音声で録音されたソフトを再生するときに使うことができます。
- オールチャンネルステレオをお楽しみいただくには、フロントスピーカーの他にサラウンドスピーカーを接続・設定する必要があります。
- オールチャンネルステレオをお使いのときは、表示窓のサラウンドモード表示の**DSP**表示(➡ 12 ページ)が点灯します。

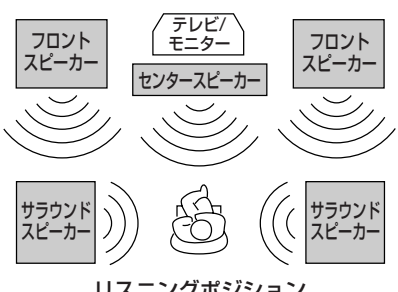
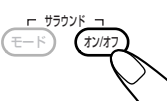
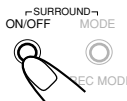
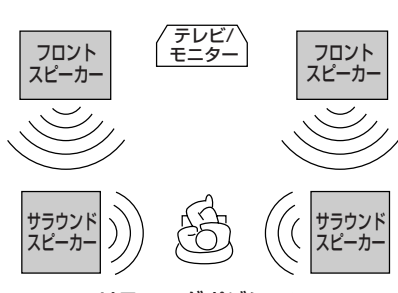
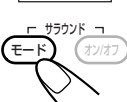
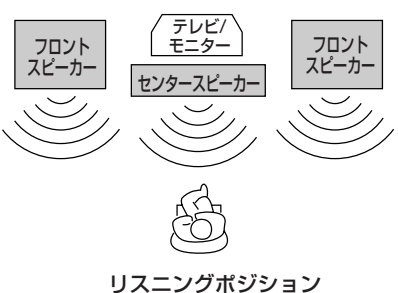
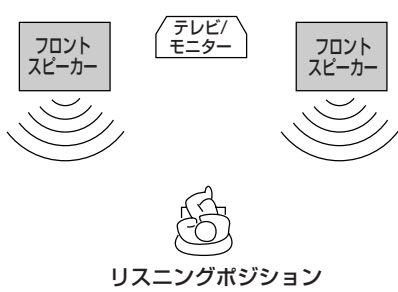
● DVDオーディオについて

PPCM(パックドPCM)信号とは、DVDオーディオに採用されている圧縮時のデータ損失のない音声信号です。データ損失がないため、元の信号を正確に再生することができます。
PPCMマルチチャンネルサラウンドを再生するときは、本機のサラウンドモードは使えません。

- PPCM信号が検出されると、表示窓のデジタル信号方式表示の**PPCM**表示(➡ 37 ページ)が点灯します。
- PPCM信号を再生するときは、オートサラウンドは働きません(➡ 41 ページ)。
- PPCMのマルチチャンネル音声でダウンミックスが禁止されているトラックを再生するとき、サラウンドモードを「**入**」で再生中、サラウンドモードを解除しようとしても、表示窓に「MULTI CH」と表示されて解除されません。また、サラウンドモードを「**切**」にして再生したときは、表示窓に「L R ONLY」と表示され、ステレオ音声で出力されます。
- ドルビーデジタルなどの**マルチチャンネル のトラック**を再生するときは、スピーカーサイズの設定(➡ 45 ページ)で、センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーを「NO(なし)」に選んでいるときは、マルチチャンネル音声がダウンミックスされて、フロントスピーカーより出力されます(ダウンミックスが禁止されたディスクを除く)。
- PPCMの2ch音声信号を再生すると、ステレオ音声で出力されます。また、リモコンの**サラウンドオン/オフボタン**(本体は、**SURROUND ON/OFFボタン**)は働きます。

お知らせ

サラウンドをお使いになるときは、次の項目をあらかじめ正しく設定しておいてください。
- スピーカーサイズ(➡ 45 ページ)
- スピーカーの距離(➡ 46 47 ページ)
- フロントスピーカーのバランス(➡ 49 ページ)

*1、*3 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
*2 DTSおよびDTS Digital Surroundは、デジタル・シアター・システムズ社の商標です。

サラウンドを使う（つづき）

サラウンドの使いかたとスピーカー配置

接続・設定したスピーカーの数によって、選べるサラウンドは異なります。選べるサラウンドとスピーカーの数については、下の表をご覧ください。特に、DVDオーディオは動作が異なるため、「DVDオーディオについて」（➡ 53 ページ）も併せてご覧ください。

- マルチチャンネルサラウンドについては、スピーカーの配置数に関係なく選ぶことはできますが、すべてのスピーカーを適切に接続・設定しないと、十分なサラウンド効果をお楽しみいただけません。
- フロントスピーカーしか接続していないときはプロロジックⅡ、DAPモード、オールチャンネルステレオがお使いになれません。

また、スピーカーの音場の調節については 42 ～ 47 ページをご覧ください。

スピーカーの配置	サラウンドの使いかた

① **サラウンドオン/オフボタン**または**SURROUND ON/OFFボタン**を押します。

マルチチャンネル音声信号（マトリクス処理された2ch音声信号を含む）のとき：

音声信号が自動判別されて、対応したサラウンドが「**入**」になります。

- 「DOLBY D」（ドルビーデジタル）、「DTS」（DTSデジタルサラウンド）、「MPEG-2 AAC」（AACサラウンド）が表示されたときは、②で他のサラウンドに切り換えることはできません。
- 「PLⅡMOVIE」が表示されたときは、②で「PLⅡMOVIE」⬌「PLⅡMUSIC」と切り換えることができます。
- オートサラウンドを「ON」に設定しているとき（➡ 41 ページ）は、自動的にサラウンドが「**入**」になります。

2ch音声信号のとき：

サラウンドが「**入**」になり、前回選ばれたサラウンドモードが表示されます。②でサラウンドモードを選ぶことができます。

- DVDオーディオのPPCMの2ch音声信号のときは、オートサラウンド（➡ 41 ページ）は、働きません。

② **サラウンドモードボタン**または**SURROUND MODEボタン**を、くり返し押してお好みのサラウンドモードを選びます。

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

<スピーカー設置数が5または4のとき>

すべてのサラウンドモードから選ぶことができます。

PLⅡ MOVIE ➡ PLⅡ MUSIC ➡
LIVE CLUB ➡ DANCE CLUB ➡
HALL ➡ PAVILION ➡
ALL CH ST. ➡ （始めに戻る）

<スピーカー設置数が3のとき>

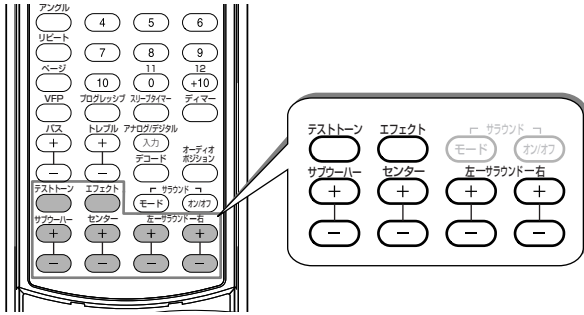
「PLⅡMOVIE」または「PLⅡMUSIC」から選ぶことができます。

サラウンドを調節する

サラウンドをより効果的にお楽しみいただくために、各スピーカーの音量･音質を調節します。
ここではリモコンのボタンを使っての操作説明をします。本体のボタンまたはテレビ画面上のメニュー操作でも設定することができます。

- **本体のボタンで設定　➡ 49 ～ 51 ページ参照**
- **メニュー画面で設定　➡ 88 ページ参照**

- 設定はソース（音源）ごとに記憶されます。

リモコンのみ

1 お好みのソフトを再生して、サラウンドを使う（➡ 54 ページ）

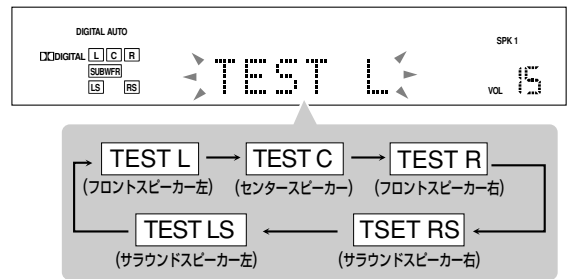
2 音量･音質の調節をする

調節する項目	使うボタン
テストトーン	テストトーン
センタースピーカーの出力レベル	センター ＋ －
左右サラウンドスピーカーの出力レベル	左ーサラウンドー右 ＋ ＋ － －
サブウーハーの出力レベル	サブウーハー ＋ －
エフェクトレベル*	エフェクト

* DSPモードを選んだときは、エフェクトレベルの調節ができます。

- センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーおよびサブウーハーは次のように調節します。
  ＋ ボタンを押すごとに出力レベルが上がります。
  － ボタンを押すごとに出力レベルが下がります。
- テストトーンを使うと、接続したスピーカー（サブウーハーを除く）すべての調節ができます。
- 現在再生中のスピーカーの音量･音質をテストトーンを使って調節するときは、再生中の音声は聞こえなくなり、テストトーンになります。

● **テストトーンを使うときは**
テストトーンボタンを押します。
再生中の音声は聞こえなくなります。
テストトーンを出力中のスピーカー（例：｢TEST L｣）が表示窓に表示され、点滅します。
テストトーンは、スピーカーごとに約2秒間ずつ、くり返し出力されます。
リスニングポジションから各スピーカーのテストトーン出力を聞き、左記のボタンを使ってお好みの音量に調節します。
出力の順番は次のとおりです。

TEST L（フロントスピーカー左） → TEST C（センタースピーカー） → TEST R（フロントスピーカー右） → TSET RS（サラウンドスピーカー右） → TEST LS（サラウンドスピーカー左）

テストトーンはおよそ1分間続きます。
テストトーンをやめるときは
もう一度**テストトーンボタン**を押します。

- テストトーン出力中に、サブウーハーまたはエフェクトの調節をすると、テストトーンは止まります。

その他の基本操作

DVDプレーヤーの基本操作

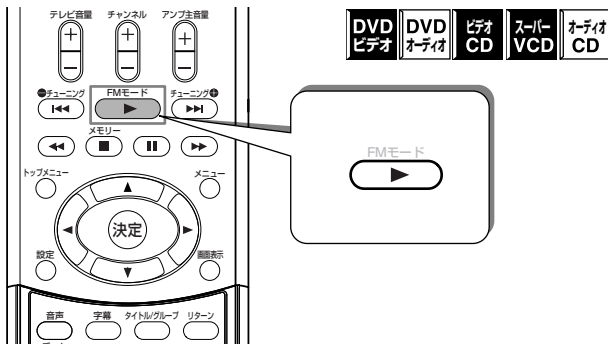
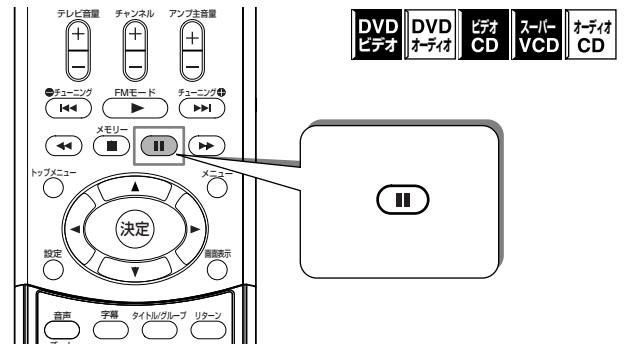
ここでは、主にリモコンのボタンを使っての操作説明をします。本体に同じマークのボタンがある場合には、本体のボタンもお使いいただけます。

- リモコンのボタンを使ってDVDプレーヤーの操作をするときは、ソース機器選択ボタンのDVDボタンを押してからお使いください。

また、ディスクの種類によっては、使えない機能もあります。ここでは、機能ごとに次のマークを示し、どの種類のディスクで操作ができるのかをお知らせしています。

表示例:オーディオCDでは使えない機能のとき

DVD ビデオ | DVD オーディオ | ビデオ CD | スーパー VCD | オーディオ CD

＊ スーパーVCDは、スーパービデオCDの略称です。

再生する

►(再生)ボタンを押す

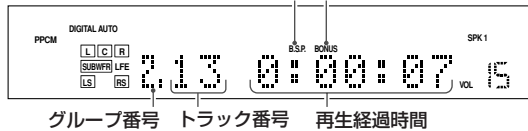
ディスクの最初から再生が始まります。
DVDビデオやDVDオーディオによっては、ディスクトレイを閉じると自動的に再生が始まるものがあります。

- 電源「**切**」のときでも電源が「**入**」になります。また、本体の**▲(開/閉)ボタン**を押したときも電源が「**入**」になり、ディスクトレイが出てきます。

表示例:DVDビデオを再生したとき

チャプター番号　再生経過時間

表示例:DVDオーディオを再生したとき*1

B.S.P.表示*2 BONUS表示*2

グループ番号　トラック番号　再生経過時間

*1 本機にDVDオーディオのディスクを入れると、本体前面の「DVD AUDIO」ランプが点灯します。
*2 B.S.P.表示は静止画再生のときに点灯します。BONUS表示はボーナスグループを持ったディスクを再生するときに点灯します。

ディスクを入れて、すぐにメニューが表示されたとき

ディスクによっては、再生開始後にメニュー画面が表示されることがあります。このようなときは、次のリモコンのボタンを使って、希望の項目を選んで再生を始めます。

- **項目をカーソルで選ぶ場合**
  カーソル(▲/▼/◄/►)ボタンを使って項目を選び、**決定ボタン**を押します。
- **項目を数字ボタンで選ぶ場合**
  数字ボタンで項目を選び、**決定ボタン**を押します。

ディスクによっては、ここでの説明と異なる操作方法のものもあります。ディスクに付属の取扱説明書も併せてお読みください。

再生を一時停止する

≪再生中に≫

❚❚(一時停止)ボタンを押す

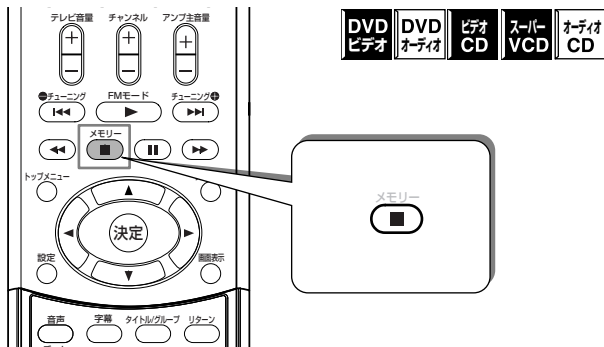
再生が一時停止になります。
再生を再開するときは、**►(再生)ボタン**を押します。

スクリーンセーバーについて

長時間にわたって、テレビ画面に静止画を映していると、テレビ画面に静止画の残像が残ることがあります。それを焼きつきといいます。焼きつきを防止するのがスクリーンセーバー機能です。

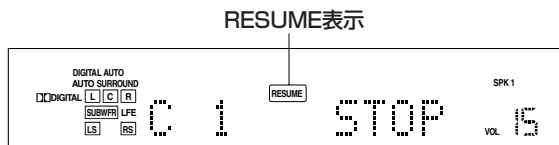
メニュー画面表示中、停止中、メニュー再生中など静止画が表示されてから5分以上何も操作しないと、画面が暗くなります。いずれかの操作ボタンを押すと解除されます。

スクリーンセーバー機能は「映像メニュー」(➡ 88 ページ)で設定します。

再生を停止する

≪再生中に≫

再生中に■(停止)ボタンを押す

再生が停止します。
リジューム設定(➡ 91 ページ)が「オン」のときには、RESUME表示が点灯し、ディスク上の停止した位置が記憶されます。

RESUME表示

►**(再生)ボタン**を押すと、停止した位置から続きが再生されます(**リジューム再生**)。
位置の記憶は、別のソース(音源)を選んだり、電源を「**切**」にしても消えません。このときも、►**(再生)ボタン**を押すと、記憶された位置から続きが再生されます。
- オーディオCDでは、リジューム再生は働きません。

位置の記憶を取り消すには

次の操作をすると、位置の記憶は取り消されます。
- ディスクトレイを開ける
- 停止中に■**(停止)**ボタンを押す
- 電源「**切**」のとき、リモコンの⏻/I**オーディオボタン**または本体の⏻/I**STANDBY/ON(スタンバイ/オン)ボタン**を押して電源「**入**」にする
- リモコンの**トップメニューボタン**を押す
- プログラム再生、ランダム再生(ビデオCDのとき)を始める
- ビデオCDおよびスーパービデオCDの停止中に、I◄◄**ボタン**または►►I**ボタン**を押してトラックを選択する

お知らせ
- 位置の記憶をしないように設定することができます。詳しくは 91 ページをご覧ください。

ご注意
- プログラム再生またはランダム再生のときは、リジューム再生は働きません。
- PBC対応のビデオCDでは、記憶されている位置よりも手前または後から再生される場合があります。

再生中に表示されるマークについて

ディスクを再生していると、次のようなマークがテレビ画面に一時的に表示されることがあります。

⃠ :本機やディスクで禁止、または対応していない操作を行ったときに表示されます。このマークが表示されなくても、状況によっては操作ができないことがあります。

以下のマークはオンスクリーンガイドといいます。

► :再生を開始すると表示されます。

■ :停止すると表示されます。

❚❚ :一時停止すると表示されます。

◄◄ ►► :早送り/早戻し再生をすると表示されます。

◄❚ ❚► :スローモーション再生をすると表示されます(➡ 60 ページ)。

:複数の音声言語が収録されている場面で表示されます(➡ 65 ページ)。

:複数の字幕言語が収録されている場面で表示されます(➡ 66 ページ)。

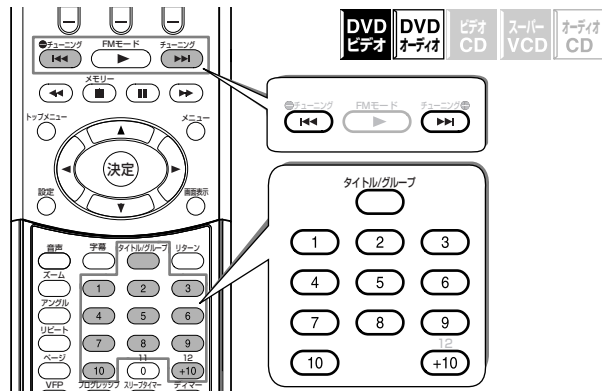
:複数のアングルが収録されている場面で表示されます(➡ 67 ページ)。

- オンスクリーンガイドは表示しないようにすることもできます(➡ 91 ページ)。

DVDプレーヤーの基本操作（つづき）

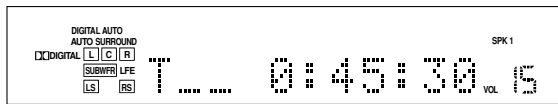
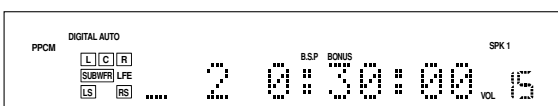
見たい場面や聞きたい曲を素早く選ぶ

お好みのタイトルやグループを選んで再生する

DVDビデオやDVDオーディオを再生するときは、お好みのタイトル番号（DVDビデオ）、グループ番号（DVDオーディオ）を選ぶことができます。

≪DVDビデオ　　：再生中に≫
≪DVDオーディオ：再生中または停止中に≫

1 タイトル/グループボタンを押す

タイトル番号またはグループ番号が、表示窓に表示されます。

表示例：DVDビデオを再生したとき

表示例：DVDオーディオを再生したとき

タイトル/グループボタンを押したら、5秒以内に次の手順へ進んでください。

2 |◀◀ボタンまたは▶▶|ボタンをくり返し押してタイトルまたはグループ番号を選ぶ

選んだタイトルまたはグループの、最初のチャプター（DVDビデオ）またはトラック（DVDオーディオ）が再生されます。

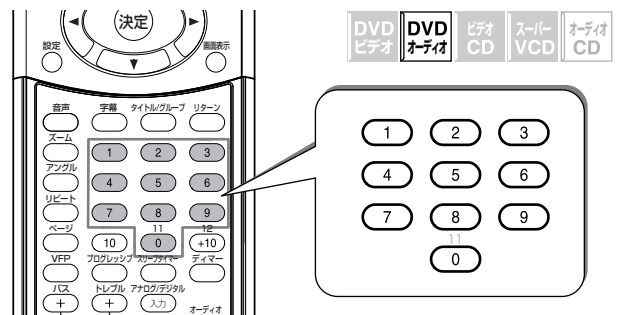
数字ボタン（1〜10、+10）を使って番号を選ぶこともできます。

数字ボタンの使いかた

- **1 〜 10 を選ぶには**
  その番号の**数字ボタン**を押す。
- **11 以上を選ぶには**
  +10 ボタンを先に押してから 1 〜 10 のボタンを押す。
  例）番号「5」を選ぶ　：（5）を押す。
  　　番号「15」を選ぶ：（+10）➡（5）と押す。
  　　番号「20」を選ぶ：（+10）➡（10）と押す。

- ディスクに収録されていないタイトルやグループ番号を入力しても、操作は無効になります。
- DVDオーディオのグループを選んでいるとき、テレビ画面や表示窓に「KEY_ _ _ _」と表示されたときは、「ボーナスグループを再生する」（右欄）をご覧ください。

ボーナスグループを再生する（DVDオーディオのみ）

DVDオーディオには、ボーナスグループと呼ばれる特別なグループを収録したものがあります。
ボーナスグループは、暗証番号（4ケタ）を入力して再生します。暗証番号については、ディスクのジャケットなどをご参照ください。

《表示窓に、BONUS表示が点灯しているとき》

1 ボーナスグループを選ぶ

- ボーナスグループを選ぶ手順は、「お好みのタイトルやグループを選んで再生する」（左欄）をご覧ください。

ボーナスグループを選ぶと、テレビ画面および表示窓に暗証番号（4ケタ）の入力画面が表示されます。

表示例：テレビ画面

KEY _ _ _ _

表示例：本体の表示窓

BONUS表示

PPCM　DIGITAL AUTO　L C R　LFE　LS RS　BONUS　KEY _ _ _ _　SPK 1　VOL 15

2 数字ボタン（1〜9、0）で暗証番号（4ケタ）を入力し、決定ボタンを押す

正しい暗証番号を入力すると、ボーナスグループの再生が始まります。表示窓のBONUS表示は消灯します。

- 暗証番号を間違えたときは、もう一度、正しい暗証番号を入力し直します。

入力した暗証番号を入力前の状態に戻すには

次のうち、どれか一つを実行します。
- **■（停止）ボタン**を押す。
- ディスクトレイを開く。
- 本機の電源を「**切**」にする。

|◀◀ボタンまたは▶▶|ボタンを使って頭出しをする

前後のチャプター(DVDビデオ)やトラック(DVDオーディオ、ビデオCD、スーパービデオCDおよびオーディオCD)の頭にスキップすることができます。

≪DVDビデオ、DVDオーディオ　：再生中に≫
≪ビデオCD、スーパービデオCD：停止中またはPBCオフで再生中に≫
≪オーディオCD　　　　　　　：いつでも≫

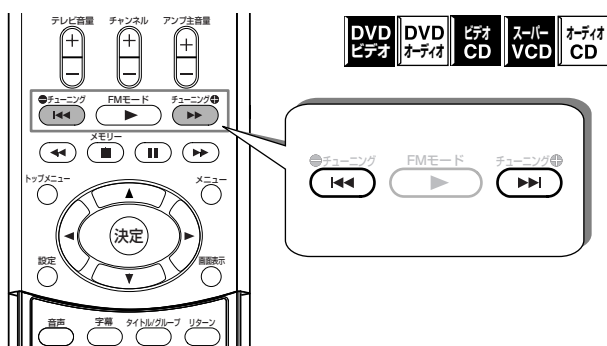
|◀◀または▶▶|ボタンを押す

選んだチャプターまたはトラックが本体の表示窓に表示され、再生が始まります*。

- 先のチャプターまたはトラックに進むには、▶▶|**ボタン**をくり返し押します。
- 手前のチャプターまたはトラックに戻すには、|◀◀**ボタン**をくり返し押します。
- 現在再生しているチャプターまたはトラックの頭に戻すには、1回だけ|◀◀**ボタン**を押します。

* 停止中にチャプターまたはトラックを選んだときは、**▶(再生)ボタン**を押して再生します。

ご注意

- DVDビデオ、DVDオーディオ、PBC機能(➡ 63 ページ)対応のビデオCDやスーパービデオCDによっては、この機能を使えないものもあります。

数字ボタンを使って頭出しをする

DVDビデオのチャプター、DVDオーディオ、ビデオCD、スーパービデオCDおよびオーディオCDのトラックを**数字ボタン**で指定し、そこから再生を始めることができます。

≪DVDビデオ、DVDオーディオ　：再生中に≫
≪ビデオCD、スーパービデオCD：停止中またはPBCオフで再生中に≫
≪オーディオCD　　　　　　　：いつでも≫

数字ボタン(1〜10、+10)を使って番号を指定する

指定した番号が表示窓に表示され、再生が始まります(ダイレクト再生)。

- DVDビデオのときは、チャプターが指定されます。ただし、**複数のタイトルを持つDVDビデオが停止中のときは**、タイトルが指定されることがあります。
- DVDオーディオ、ビデオCD、スーパービデオCDおよびオーディオCDのときは、トラックが指定されます。

数字ボタンの使いかた

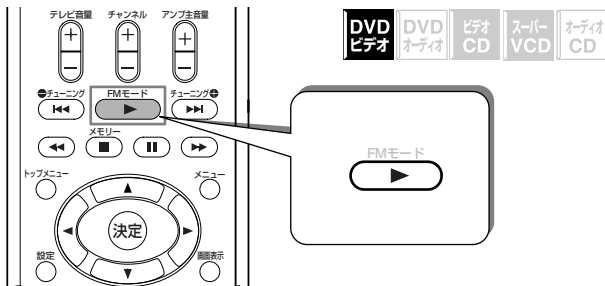
- **1 〜 10 を選ぶには**
  その番号の**数字ボタン**を押す。
- **11 以上を選ぶには**
  +10ボタンを先に押してから1〜10のボタンを押す。
  例）番号「5」を選ぶ　：(5)を押す。
  　　番号「15」を選ぶ：(+10) ➡ (5)と押す。
  　　番号「20」を選ぶ：(+10) ➡ (10)と押す。
  　　番号「30」を選ぶ：(+10) ➡ (+10) ➡ (10)と押す。

ご注意

- DVDビデオ、DVDオーディオ、PBC機能(➡ 63 ページ)対応のビデオCDやスーパービデオCDによっては、この機能を使えないものもあります。
- ⃠が表示されたときは...
  押した番号のタイトルあるいはトラックが収録されていません。

今見たシーンをもう一度見る

<チョット見バック>

今見たシーンをワンタッチで巻き戻して、もう一度見ることができます。

≪再生中に≫

►(再生)ボタンを押す

約10秒前から再生が始まります。

早送り/早戻し再生をする

≪再生中に≫

►► または ◄◄ ボタンを押す

►►ボタンまたは**◄◄ボタン**を押すごとに、次のように早送り/早戻しの速度が切り換わります。

DVDビデオのみ
：x2 ⇨ x5 ⇨ x10 ⇨ x20 ⇨ x60

DVDオーディオ/ビデオCD/スーパービデオCD/オーディオCD
：x2 ⇨ x5 ⇨ x10 ⇨ x20

• 通常の再生に戻すには、**►(再生)ボタン**を押します。

次の操作でも早送り/早戻しができます。
►►|ボタンまたは**|◄◄ボタン**を押し続ける。
►►|ボタンを押し続けている間、5倍速の早送り再生になります。さらにおよそ8秒間押し続けると20倍の早送り再生になります。
|◄◄ボタンを押し続けている間、5倍速の早戻し再生になります。さらにおよそ8秒間押し続けると20倍の早戻し再生になります。
ボタンから手を離すと通常の再生に戻ります。

お知らせ

• オンスクリーンガイドを「オン」に設定しているときは、早送り/早戻し再生のスピードが次のように表示されます。

▶▶ x20 例：順方向20倍のとき

◀◀ x5 例：逆方向5倍のとき

画像をコマ送りで再生する

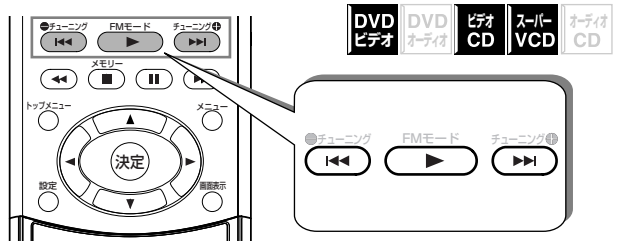
≪再生中に≫

❚❚(一時停止)ボタンを押す

再生は一時停止します。表示窓の時間表示の「:」が点滅します。
• コマ送りで再生すると、音声は聞こえなくなります。

❚❚(一時停止)ボタンを押すごとに、静止画像が次のフレームに進みます。

►(再生)ボタンを押すと通常の再生に戻ります。

スローモーションで再生する<スロー>

≪一時停止中に≫

►►|または|◄◄ボタンを1秒以上押す

►►|ボタンを1秒以上押すと、順方向のスローモーション再生になります。
一度手を離して、再び**►►|ボタン**を1秒以上押すごとに、再生スピードが次のように切り換わります。

(順方向) $\frac{1}{32}$ → $\frac{1}{16}$ → $\frac{1}{8}$ → $\frac{1}{4}$ → $\frac{1}{2}$

|◄◄ボタンを1秒以上押すと、逆方向のスローモーション再生(DVDビデオのみ)になります。
一度手を離して、再び**|◄◄ボタン**を1秒以上押すごとに、再生スピードが次のように切り換わります。

(逆方向) $\frac{1}{32}$ → $\frac{1}{16}$ → $\frac{1}{8}$ → $\frac{1}{4}$ → $\frac{1}{2}$

• スローモーションで再生すると、音声は聞こえなくなります。
►(再生)ボタンを押すと通常の再生に戻ります。

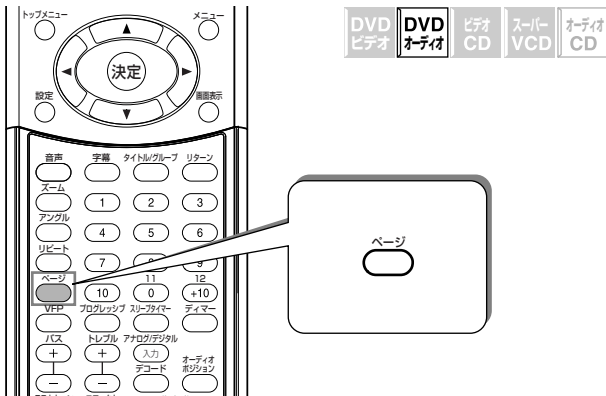
お知らせ

• オンスクリーンガイドを「オン」に設定しているときは、スローモーション再生のスピードが次のように表示されます。

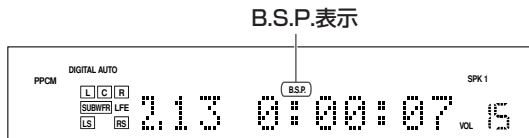
❚▶ 1/2 例：順方向1/2のとき

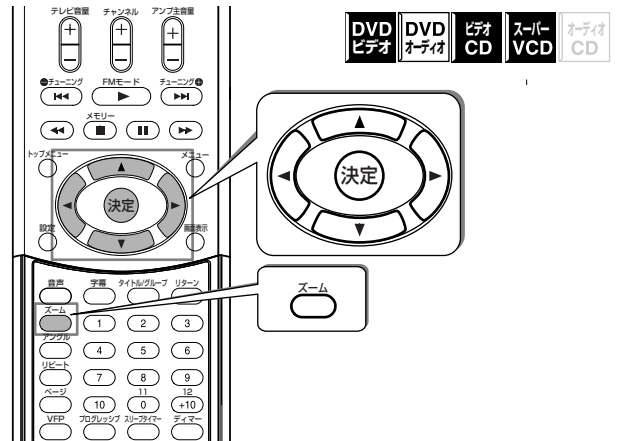
◀❚ 1/32 例：逆方向1/32のとき

B.S.P.(静止画)を見る(DVDオーディオのみ)

DVDオーディオには、B.S.P.(Browsable Still Pictures (ブラウザブル スチル ピクチャー))と呼ばれる静止画が収録されているものがあります。お好みでページをめくるように、B.S.P.を切り換えることができます。

≪B.S.P.表示が点灯しているときに≫

ページボタンを押してお好みの静止画を選ぶ

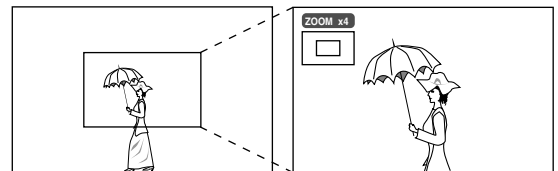
ボタンを押すごとに、静止画が切り換わります。

画面を拡大する(ズーム)

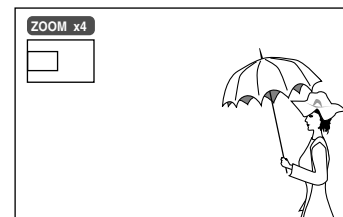
画面上のお好みの場所を拡大して見ることができます。

≪再生中または一時停止中に≫

1 ズームボタンを押す

画面が拡大されます。

- ボタンを押すごとに、倍率が次のように切り換わります。

ZOOM x 1.8 ➡ ZOOM x 4 ➡ ZOOM x 8 ➡ ZOOM x 16 ➡ ZOOM x 32 ➡ ZOOM x 64 ➡ ZOOM x 1(解除) ➡ (始めに戻る)

画面の左上部に現在の倍率と拡大位置表示が表示されます。

2 カーソル(▲/▼/◀/▶)ボタンを押して拡大したい部分を選ぶ

通常の画面に戻すには

決定ボタンを押します。

ご注意

- 拡大すると、画質が悪化したり、画像がブレることがあります。

メニューから再生する

DVDビデオ、DVDオーディオのメニューや、ビデオCD、スーパービデオCDのPBC(プレイバックコントロール)を使って、タイトルやチャプター(DVDビデオ)またはトラック(DVDオーディオ、ビデオCD、スーパービデオCD)を指定し、再生することができます。

DVDビデオやDVDオーディオのメニューから選ぶ

DVDビデオおよびDVDオーディオには、一般にメニュー画面が収録されています。メニュー画面の内容はさまざまで、映画のタイトルや曲目、あるいはアーティスト情報が表示されたりします。このメニュー画面から見たいところを選ぶことができます。

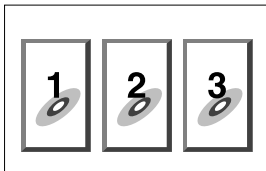
≪いつでも≫

1 **トップメニューボタンまたはメニューボタンを押す**

テレビ画面に、メニュー画面が表示されます。

2 **カーソル(▲/▼/►/◄)ボタンを使って見たい映像や項目選び、決定ボタンを押す**

選んだところから再生されます。

例:

メニューボタンとトップメニューボタンについて

- 複数のタイトルが収録されているDVDビデオや複数のグループが収録されているDVDオーディオでは、**トップメニューボタン**を押して、タイトル名またはグループ名のリストなどが表示されているメニュー画面を表示させます。
  また、タイトルやグループが1つだけのディスクでも、メニュー画面が収録されているときは、**メニューボタン**を押して、メニュー画面を表示させることができます。
  各ディスクのメニュー構成についてはディスクの説明書をご覧ください。
- メニュー画面によっては**数字ボタン(1～10、+10)**を押すだけで見たい映像や項目を選ぶことができます(数字ボタンの使いかたは、63 ページをご覧ください)。

ご注意

- **トップメニューボタン**を押したとき⃠が表示されたときは･･･
  そのディスクには、タイトルやグループ一覧のリストを表示するようなメニュー画面が収録されていません。
- **メニューボタン**を押して⃠が表示されたときは･･･
  そのディスクにメニュー画面自体が収録されていません。
- 停止中は、**メニューボタン**は働きません。

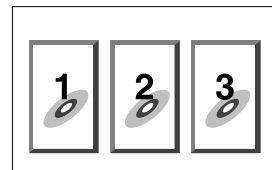
ビデオCDやスーパービデオCDのメニューから選ぶ

PBC(➡ 次ページ)が記録されたビデオCDを再生すると、収録された内容の一覧がメニューとしてテレビ画面に表示されます。このメニュー画面から、見たいところを選ぶことができます。

≪PBC対応のビデオCDやスーパービデオCDが停止中に≫

1 **►(再生)ボタンを押す**

PBCのメニュー画面が表示されます。

例:

2 数字ボタン(1〜10、+10)を使って見たい番号を選ぶ

選んだ番号が再生されます。

数字ボタンの使いかた

- **1 〜 10 を選ぶには**
  その番号の**数字ボタン**を押す。
- **11 以上を選ぶには**
  +10ボタンを先に押してから1〜10のボタンを押す。
  例）番号「5」を選ぶ　：5 を押す。
  　　番号「15」を選ぶ：+10 ➡ 5 と押す。
  　　番号「20」を選ぶ：+10 ➡ 10 と押す。
  　　番号「30」を選ぶ：+10 ➡ +10 ➡ 10 と押す。

メニュー画面に戻したいときは

リターンボタンを押します。

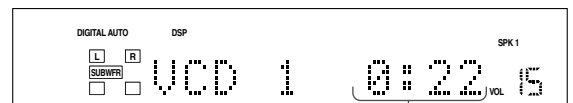
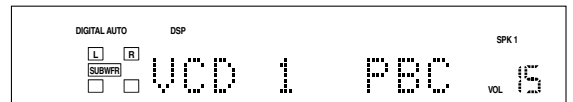
※ **操作方法はディスクにより異なります。**

ディスプレイに[次]または[前]が表示されたときは

- **►►|ボタン**を押して、メニューの次のページへ進みます。
- **|◄◄ボタン**を押して、メニューの前のページへ戻ります。

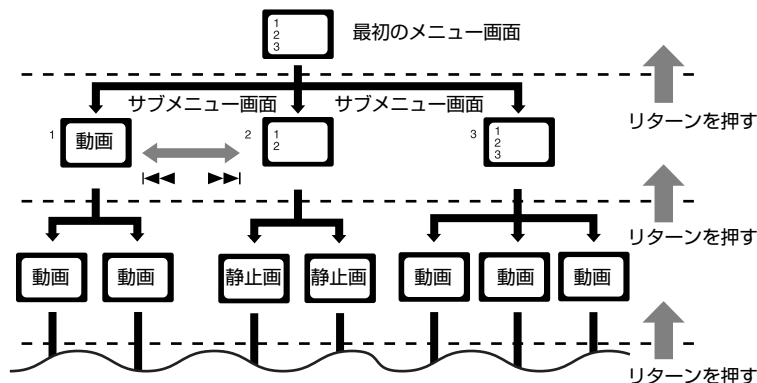
※ **操作方法はディスクにより異なります。**

PBCをオン/オフするには

PBCオフで再生するには 、停止中に、見たいトラック番号を**数字ボタン**を使って指定します。選んだトラックから通常の再生が始まります。
表示窓に再生経過時間が表示されます。

PBCを再びオンにするには、再生中に、**■(停止)ボタン**を1回(リジューム機能が「オン」のときは2回)押してから、**►(再生)ボタン**を押します。
表示窓に「PBC」と表示されます。

プレイバックコントロール(PBC)について

ビデオCDやスーパービデオCDのプレイバックコントロール(PBC)では、いくつかの階層に分けられて収録されたディスクの内容を、画面の指示にしたがって、再生することができます。
PBC対応ディスクを再生すると、通常は最初のメニュー画面が表示されます。そこで画面に表示された項目や番号を選んで、見たいところを再生したり、次の画面に進んだりすることができます。
本機では、PBC対応のディスクでも、PBCを使わずに収録されたトラックを連続して再生することができます（上欄「PBCをオン/オフするには」参照）。

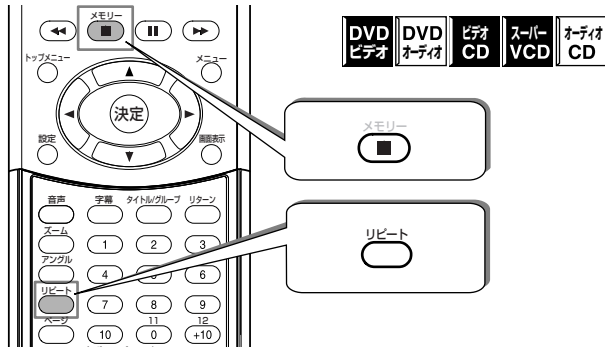
また、PBC対応ディスクは、動画の4倍以上の解像度を持つ高精細な静止画を収録することもできます。

PBCのメニュー再生の基本的な流れ

DVDプレーヤーの便利な機能

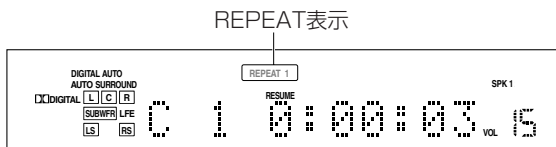
くり返し再生する（リピート）

再生中のチャプターやタイトル(DVDビデオのとき)、再生中のトラックや全トラック（DVDビデオ以外のとき）をくり返して再生することができます。

• メニューバーを使ってリピート再生をすることもできます。メニューバーを使うときは、指定した範囲をくり返し再生をすることもできます（➡ 76 77 ページ）。

DVDビデオ DVDオーディオ ビデオCD スーパーVCD オーディオCD

≪DVDビデオ、DVDオーディオ：再生中に≫
≪ビデオCD、スーパービデオCD：停止中またはPBCオフで再生中に≫
≪オーディオCD　：再生中または停止中に≫

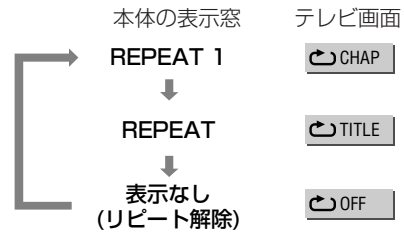
リピートボタンをくり返し押してお好みのリピート再生を選ぶ

ボタンを押すごとに、本体の表示窓とテレビ画面のリピート（REPEAT）表示が切り換わります。

REPEAT表示

• 表示窓とテレビ画面のリピート表示の関係は、再生するディスクによって異なります。詳しくは、右欄の「本体の表示窓とテレビ画面のリピート表示」をご覧ください。

本体の表示窓とテレビ画面のリピート表示

• DVDビデオのとき

本体の表示窓	テレビ画面
REPEAT 1	CHAP
REPEAT	TITLE
表示なし（リピート解除）	OFF

REPEAT 1/CHAP：チャプターのリピート再生
REPEAT/TITLE　：タイトルのリピート再生

• DVDオーディオのとき

本体の表示窓	テレビ画面
REPEAT 1	TRACK
REPEAT	GROUP　ALL
表示なし（リピート解除）	OFF

REPEAT 1/TRACK：トラックのリピート再生
REPEAT/GROUP(ALL)：グループのリピート再生

• オーディオCD、ビデオCDおよびスーパービデオCDのとき

本体の表示窓	テレビ画面
REPEAT 1	TRACK
REPEAT	ALL
表示なし（リピート解除）	OFF

REPEAT 1/TRACK：トラックのリピート再生
REPEAT/ALL　：全トラックのリピート再生

リピート再生をやめるには

■(停止)ボタンを押します。
DVDビデオおよびDVDオーディオのときは、再生を停止すると同時にリピート再生も解除されます。
ビデオCD、スーパービデオCDおよびオーディオCDのときは、再生を停止しますがリピート再生は解除されません。

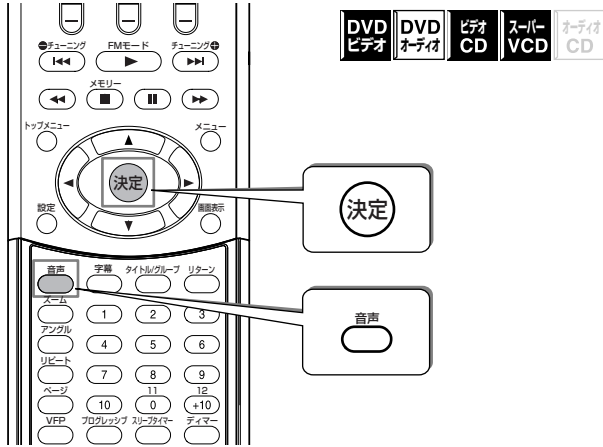
リピート再生を解除するには

リピートボタンをくり返し押して、テレビ画面のリピート表示を「OFF」にします（本体の表示窓のREPEAT表示は消灯します）。

音声言語/音声を選ぶ(音声)

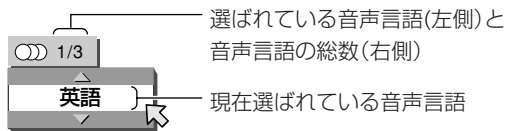
DVDビデオ、DVDオーディオ、ビデオCDおよびスーパービデオCDには、複数の音声言語/音声が収録されているものがあります。それらの中からお好みの音声言語/音声を選ぶことができます。
ビデオCDやスーパービデオCDのときは、音声を切り換えることによって、カラオケの歌あり/なしを選ぶことができます。

複数の音声が収録されているDVDビデオでは、再生の冒頭で画面に が表示されます。

- オンスクリーンガイドが「オフ」のときは(➡ 91 ページ) は表示されません。
- メニューバーを使って、音声を選ぶこともできます(➡ 78 79 ページ)。

≪再生中に≫

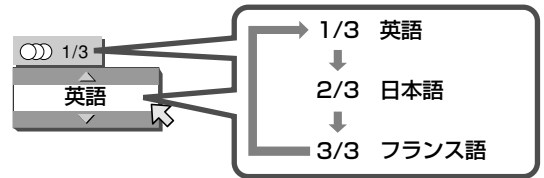
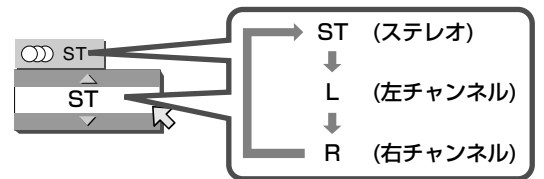
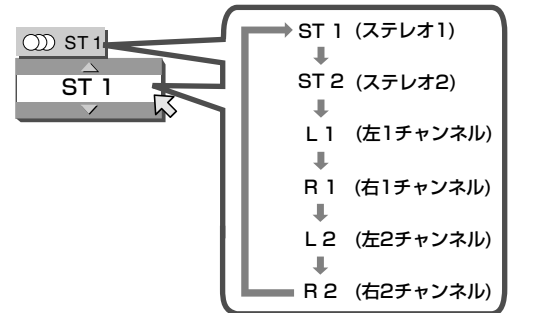
1 音声ボタンを押す

テレビ画面に音声選択ウィンドウが表示されます。

表示例:DVDビデオ、DVDオーディオのとき

表示例:ビデオCD、スーパービデオCDのとき

2 音声ボタンをくり返し押して音声言語/音声を選ぶ

ボタンを押すごとに、音声言語/音声が切り換わります。

表示例:DVDビデオ、DVDオーディオのとき

表示例:ビデオCDのとき

表示例:スーパービデオCDのとき

音声選択ウィンドウを消すには

決定ボタンを押します。
- 数秒間なにも操作しないと、ウィンドウは消えます。

音声言語の表記について

DVDビデオの再生中、音声選択ウィンドウに表示される音声言語のうち、英語、スペイン語、フランス語、中国語、ドイツ語、イタリア語、日本語以外は言語コード(➡ 86 ページ)で表示されます。

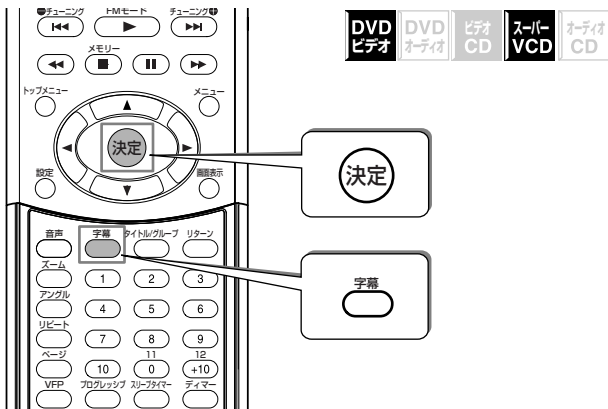
ご注意

- が表示されたときは･･･
  ディスクに複数の音声が収録されていないか、その操作が禁止されています。
- 音声言語/音声の切り換えは、ディスクに収録されていない音声言語/音声については、ご使用になれません。

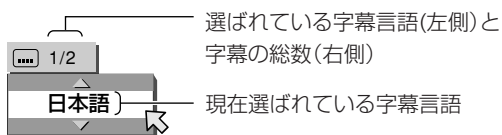
DVDを使いこなす

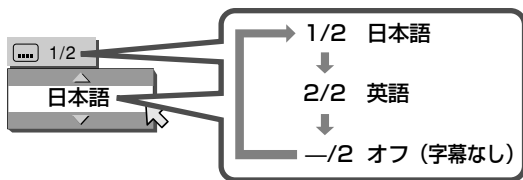
字幕の言語を選ぶ(字幕)

DVDビデオ、DVDオーディオおよびスーパービデオCDには、複数の字幕言語が収録されているものがあります。それらの中からお好みの言語を選びます。
複数の字幕が収録されているディスクでは、再生の冒頭で[....]が画面に表示されます。

- オンスクリーンガイドが「オフ」のときは(➡ 91 ページ) [....] は表示されません。
- メニューバーを使って、字幕を選ぶこともできます(➡ 78 79 ページ)。

≪再生中に≫

1 字幕ボタンを押す

テレビ画面に字幕選択ウィンドウが表示されます。

2 字幕ボタンをくり返し押して字幕言語を選ぶ

ボタンを押すごとに、字幕言語が切り換わります。
表示例:

字幕選択ウィンドウを消すには

決定ボタンを押します。
- 数秒間なにも操作しないと、ウィンドウは消えます。

字幕言語の表記について

DVDビデオやDVDオーディオの字幕選択ウィンドウに表示される字幕言語のうち、英語、スペイン語、フランス語、中国語、ドイツ語、イタリア語、日本語以外は言語コード(➡ 86 ページ)で表示されます。

ご注意

- ⃠が表示されたときは･･･
  ディスクに字幕が収録されていないか、その操作が禁止されています。
- 字幕言語の選択は、ディスクに収録されていない言語については、ご使用になれません。

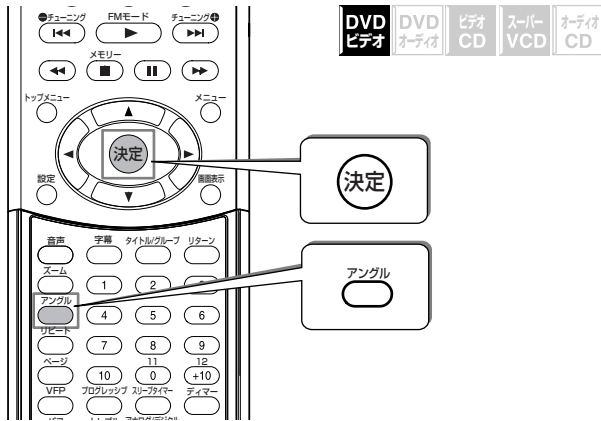
映像のアングルを変えて見る(アングル)

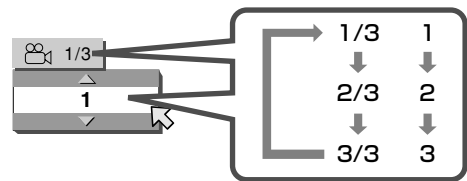
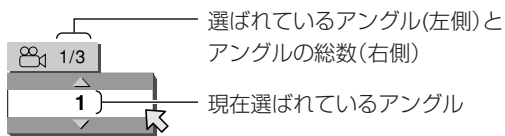
DVDビデオには、複数のカメラを使って異なる角度から撮影した映像(マルチアングル)が収録されたものがあります。このようなディスクを再生するときに、どの角度からの映像を見るか選択することができます。
マルチアングルが収録されたディスクでは、再生の冒頭で画面に が表示されます。

- オンスクリーンガイドが「オフ」のときは(➡ 91 ページ) は表示されません。
- メニューバーを使って、アングルを選ぶこともできます(➡ 78 79 ページ)。

≪再生中に≫

1 アングルボタンを押す

テレビ画面にアングル選択ウィンドウが表示されます。

2 アングルボタンをくり返し押してアングルを選ぶ

ボタンを押すごとに、アングルが切り換わります。

表示例:3つのマルチアングル映像が収録されているとき

アングル選択ウィンドウを消すには

決定ボタンを押します。

- 数秒間なにも操作しないと、ウィンドウは消えます。

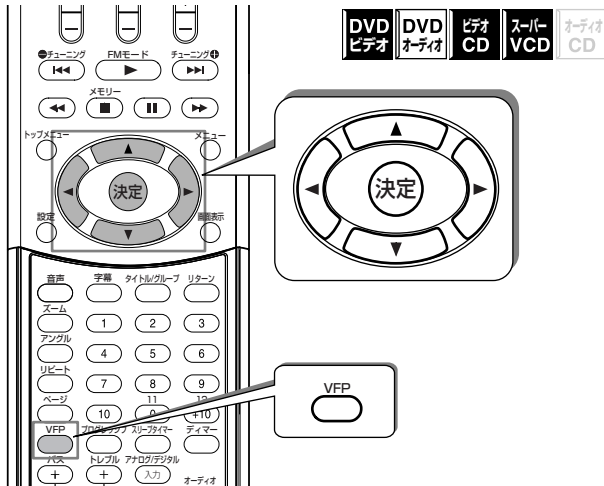
ご注意

- が表示されたときは･･･
  ディスクにマルチアングルが収録されていないか、その操作が禁止されています。

DVDプレーヤーの便利な機能(つづき)

画質を調節する(VFP)

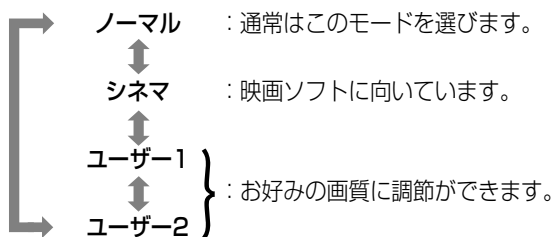
VFP(Video Fine Processor)機能を使うことにより、リスニングルームの照明やお好みに合わせて画質を調節することができます。

- **操作の前に、リモコンのDVDボタンを押してリモコンの操作モードをDVDにしてください。**

≪再生中に≫

1 VFPボタンを押す

テレビ画面にVFP設定ウィンドウが表示されます。

2 カーソル(◄/►)ボタンをくり返し押してVFPモードを選ぶ

カーソル(◄/►)ボタンを押すごとに、次のようにVFPモードが切り換わります。

ユーザー1またはユーザー2を選んだときは

続く手順**3**〜手順**6**で設定項目の調節をすることができます。
設定した項目の変更内容は記憶されます。

3 カーソル(▲/▼)ボタンを押して設定項目を選ぶ

設定項目

ガンマ　：画像が暗くなるときに調節します。
－4〜＋4の範囲で調節できます。

明るさ　：お好みの明るさに調節します。
－16〜＋16の範囲で調節できます。

コントラスト：コントラストを調節します。
－16〜＋16の範囲で調節できます。

色のこさ　：色のこさを調節します。
－16〜＋16の範囲で調節できます。

色合い　：色合いを調節します。
－16〜＋16の範囲で調節できます。

シャープネス：お好みの輪郭に調節します。
0〜＋3の範囲で調節できます。

Yディレイ　：色ズレを調節します。
－2〜＋2の範囲で調節できます。

4 決定ボタンを押す

VFP設定ウィンドウが消えて、項目ごとの調節ウィンドウが表示されます。

表示例:「ガンマ」を選んだとき

5 カーソル(▲/▼)ボタンを押して設定項目の調節をする

カーソル(▲)ボタンを押すと数値が大きくなります。
カーソル(▼)ボタンを押すと数値が小さくなります。

- 数値の調節範囲は、設定項目によって異なります。

6 決定ボタンを押す

再び、VFP設定ウィンドウが表示されます。
他の項目を調節するときは、手順**3**〜手順**6**をくり返します。

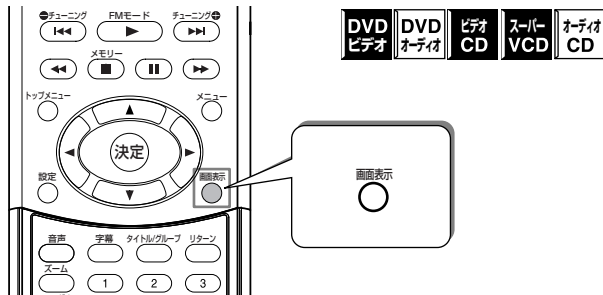
VFP設定表示を消すには

VFPボタンを押します。

- 数秒間なにも操作しないと、VFP設定ウィンドウは消えます。

ステータスバーとメニューバー

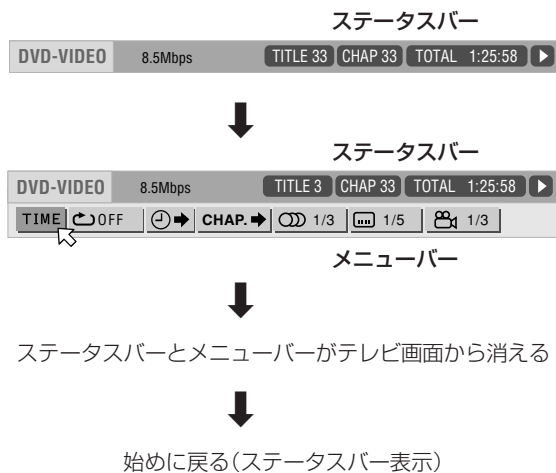
本機では、テレビ画面上に、**ステータスバー**と**メニューバー**を表示させることができます。これらの表示を使って、再生中のディスクの情報を確認したり(ステータスバー)、さまざまな機能を呼び出して使う(メニューバー)ことができます。
• MP3ディスク/JPEGディスクの再生中には、ステータスバー/メニューバーは使えません。

ステータスバーとメニューバーを表示させる(画面表示)

≪再生中または停止中に≫

画面表示ボタンを押す

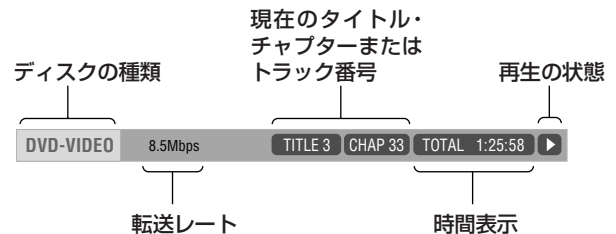
ボタンを押すごとに、次のように表示が切り換わります。
表示例:DVDビデオのとき

ステータスバーとメニューバーがテレビ画面から消える

始めに戻る(ステータスバー表示)

ご注意

• DVDビデオやDVDオーディオのメニューまたはビデオCDのメニュー画面が表示されているとき、メニューバーを表示すると、DVDメニューやビデオCDのメニュー画面での操作がうまくいかないときがあります。このようなときは、メニューバー表示を消してください。

ステータスバーについて

ステータスバーには次の情報が表示されます。

● **ディスクの種類**

DVDビデオのとき	:DVD-VIDEO
DVDオーディオのとき	:DVD-AUDIO
ビデオCDのとき	:VCD
スーパービデオCDのとき	:SVCD
オーディオCDのとき	:CD

● **転送レート(DVDビデオ、DVDオーディオ)**
映像や音声の単位時間当たりの平均情報量を示しています。

● **現在のタイトルまたはグループ、チャプターまたはトラック番号**
DVDビデオのとき : TITLE 33 CHAP 33
現在のタイトル番号とチャプター番号が表示されます。
DVDオーディオのとき : GROUP 1 TRACK 22
現在のグループ番号とトラック番号が表示されます。
ビデオCD・スーパービデオCD・オーディオCDのとき : TRACK 33
現在のトラック番号が表示されます。

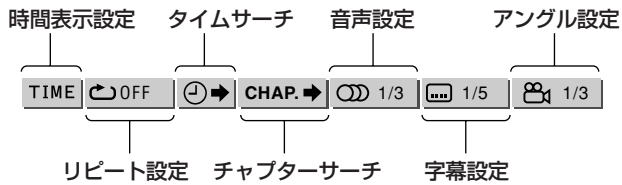
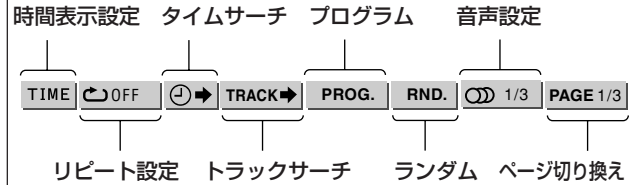
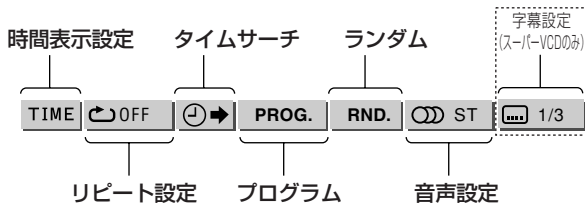
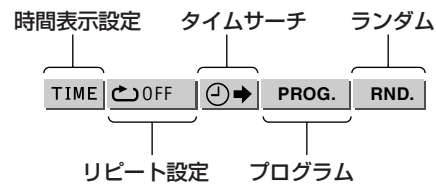
● **時間表示**
次の4つの時間表示ができます。
• 現在再生中のチャプター(DVDビデオのみ)またはトラックの経過時間
• 現在再生中のチャプター(DVDビデオのみ)またはトラックの残り時間
• ディスクの最初からの経過時間
• ディスクの残り時間

詳しくは、「ディスクの時間情報を見る」(➡ 71 ページ)をご覧ください。

● **再生の状態**
DVDプレーヤーの再生の状態を表示します。
再生中: ▶　停止中: ■
一時停止中: ⏸　早送り/早戻し中: ⏪ ⏩
スロー再生中: ◀| |▶

ステータスバーとメニューバーを表示させる(画面表示) (つづき)

メニューバーについて

メニューバーからは次の操作をすることができます。メニューバーの項目はディスクの種類によって異なります。
詳しい使い方は、各項目の説明をご覧ください。

● TIME 時間表示設定 (DVDビデオ / DVDオーディオ / ビデオCD / スーパーVCD / オーディオCD)
ステータスバーの時間表示を切り換えるときに選びます。詳しくは、「ディスクの時間情報を見る」(➡ 71 ページ)をご覧ください。

● OFF リピート設定 (DVDビデオ / DVDオーディオ / ビデオCD / スーパーVCD / オーディオCD)
くり返し再生をするときに選びます。詳しくは、「くり返し再生する」(➡ 76 77 ページ)をご覧ください。

● タイムサーチ (DVDビデオ / DVDオーディオ / ビデオCD / スーパーVCD / オーディオCD)
時間で、再生したい場所を指定するときに選びます。詳しくは、「時間を指定して再生する」(➡ 72 ページ)をご覧ください。

● CHAP. チャプターサーチ (DVDビデオ)
DVDビデオで再生したいチャプターを指定するときに選びます。詳しくは、「チャプターやトラックを指定して再生する」(➡ 73 ページ)をご覧ください。

● TRACK トラックサーチ (DVDオーディオ)
DVDオーディオで再生したいトラックを指定するときに選びます。詳しくは、「チャプターやトラックを指定して再生する」(➡ 73 ページ)をご覧ください。

● 1/3 または ST 音声設定 (DVDビデオ / DVDオーディオ / ビデオCD / スーパーVCD)
複数の音声が入ったディスクの再生中、別の音声に切り換えるときに選びます。詳しくは、「音声言語/音声/字幕/アングルを切り換える」(➡ 78 79 ページ)をご覧ください。

● 1/2 字幕設定 (DVDビデオ / スーパーVCD)
字幕機能を持つディスクの再生中、字幕をなしにしたり、他言語に切り換えるときに選びます。詳しくは、「音声言語/音声/字幕/アングルを切り換える」(➡ 78 79 ページ)をご覧ください。

● 1/3 アングル設定 (DVDビデオ)
複数のアングルを持つDVDビデオの再生中、アングルを切り換えるときに選びます。詳しくは、「音声言語/音声/字幕/アングルを切り換える」(➡ 78 79 ページ)をご覧ください。

● PAGE -/- ページ切り換え (DVDオーディオ)
DVDオーディオのディスクに収録されているB.S.P.(静止画)を、切り換えるときに使います。詳しくは、「B.S.P.(静止画)を見る」(➡ 79 ページ)をご覧ください。

● PROG. プログラム再生 (DVDオーディオ / ビデオCD / スーパーVCD / オーディオCD)
プログラム再生をするときに選びます。
ディスクが停止しているとき使います。詳しくは、「好きな順番で再生する」(➡ 74 ページ)をご覧ください。

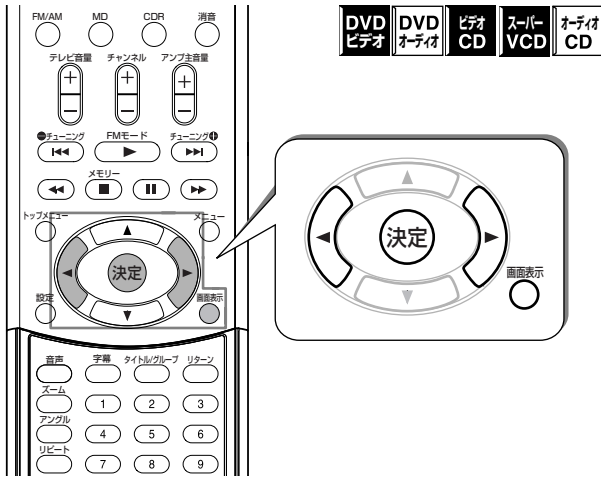
● RND. ランダム再生 (DVDオーディオ / ビデオCD / スーパーVCD / オーディオCD)
ランダム再生をするときに選びます。
ディスクが停止しているとき使います。詳しくは、「無作為な順番で再生する」(➡ 75 ページ)をご覧ください。

メニューバーを使う

メニューバーを使って行う操作を説明します。

- **操作の前に、リモコンのDVDボタンを押してリモコンの操作モードをDVDにしてください。**

ディスクの時間情報を見る

ステータスバーの時間表示を切り換えます。
メニューバーを使って切り換えます。

≪再生中または停止中に≫

1 画面表示ボタンをくり返し押してメニューバーを表示させる

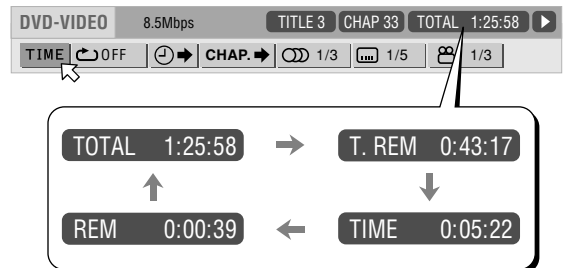
表示例:DVDビデオのとき

2 カーソル(◄/►)ボタンをくり返し押して ↖を TIME まで移動させる

選択している項目の色が変わります。

3 決定ボタンをくり返し押してお好みの時間表示を選ぶ

ボタンを押すごとに、ステータスバーの時間表示は次のように切り換わります。

- 本体の表示窓の時間表示も切り換わります。

DVDビデオのとき

TOTAL：タイトルの再生経過時間
T. REM：タイトルの残り再生時間
TIME　：チャプターの再生経過時間
REM　：チャプターの残り再生時間

- 停止中はすべての時間表示が「– –:– –:– –」となります。

DVDビデオ以外のとき

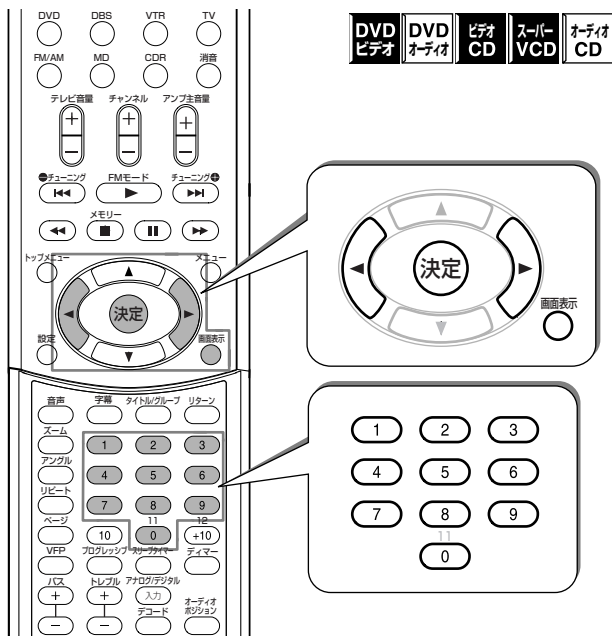
TOTAL：ディスクの頭からの再生経過時間
T. REM：ディスクの残り再生時間
TIME　：トラックの再生経過時間
REM　：トラックの残り再生時間

ステータスバーを消すには

画面表示ボタンをくり返し押します。

メニューバーを使う(つづき)

時間を指定して再生する<タイムサーチ>

タイムサーチ機能を使うと、DVDビデオやDVDオーディオのときは、現在のタイトル(またはグループ)の頭からの経過時間を、それ以外のときは、ディスクの頭からの経過時間を指定することによって、ご希望の位置から再生を始めることができます。
ただし、DVDビデオやDVDオーディオの中には、タイムサーチ機能が使えないディスクもあります。

≪DVDビデオ　:いつでも≫
≪DVDオーディオ、オーディオCD:いつでも≫
≪ビデオCD、スーパービデオCD:停止中またはPBCオフで再生中に≫

1 画面表示ボタンをくり返し押してメニューバーを表示させる

2 カーソル(◄/►)ボタンをくり返し押して を に合わせ、決定ボタンを押す

時間を入力するプルダウンメニューが表示されます。

表示例:DVDビデオを再生しているとき

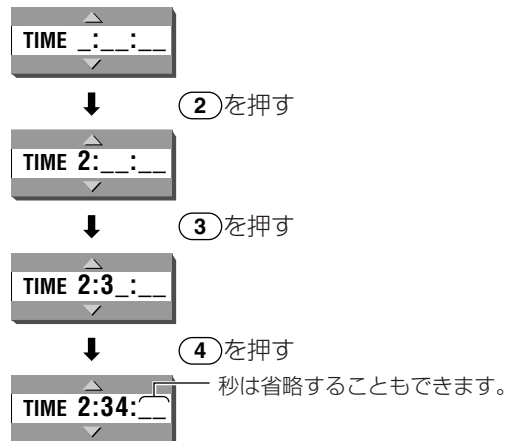
「時・分・秒」が指定できます。

表示例:オーディオCDを再生しているとき

「分・秒」が指定できます。

3 数字ボタン(1~9、0)を使って時間を入力する

指定した時間がプルダウンメニューに表示されます。
DVDビデオやDVDオーディオでは「時・分・秒」で最大9時間59分59秒まで、その他のディスクでは「分・秒」で最大99分59秒まで指定します。

表示例:DVDビデオを2時間34分から再生するとき

- **入力時間を間違ったときは**
  カーソル(◄)ボタン使って数字を消しながら戻り、時間を入力し直してください。

4 決定ボタンを押す

指定した時間から再生が始まります。

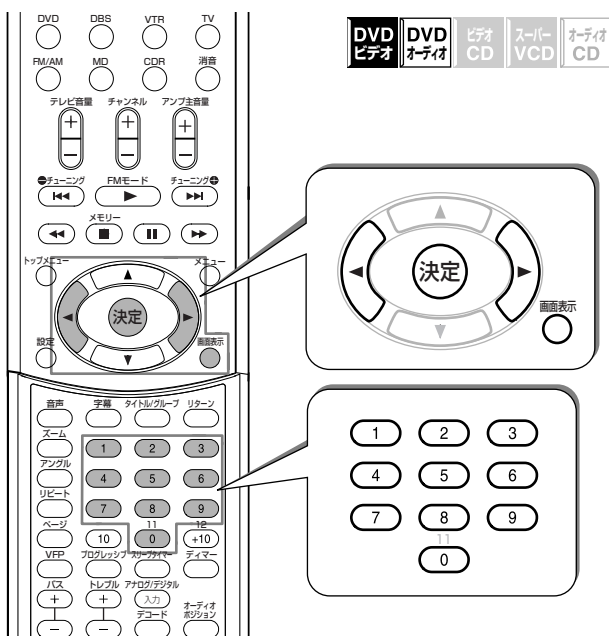
ステータスバーを消すには
画面表示ボタンをくり返し押します。

ご注意

- 手順**4**で が表示されときは･･･
  入力した時間がディスクの収録時間の範囲にないので、タイムサーチは機能しません。また、ディスクによってはこの機能を受け付けないことがあります。
- PBC再生中のビデオCDやスーパービデオCDでは、タイムサーチ機能は働きません。

チャプターやトラックを指定して再生する
<チャプターサーチ、トラックサーチ>

DVDビデオまたはDVDオーディオの再生中に、DVDビデオのチャプターサーチまたはDVDオーディオのトラックサーチの機能を使うと、お好みのチャプターやトラックを指定して再生することができます。

- **操作の前に、リモコンのDVDボタンを押してリモコンの操作モードをDVDにしてください。**

≪再生中に≫

1 画面表示ボタンをくり返し押してメニューバーを表示させる

2 カーソル(◄/►)ボタンをくり返し押して ⇖を CHAP.➡ または TRACK➡ に合わせ、決定ボタンを押す

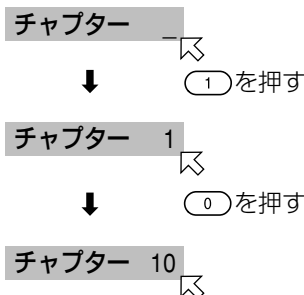
チャプター番号またはトラック番号を入力するプルダウンメニューが表示されます。

表示例:DVDビデオを再生しているとき

表示例:DVDオーディオを再生しているとき

3 数字ボタン(1〜9、0)を使って、ご希望のチャプター番号またはトラック番号を入力する

指定したチャプター番号またはトラック番号がプルダウンメニューに表示されます。

例:チャプター10から再生するとき

- **番号の入力を間違えたときは**
  数字ボタンで番号を入力し直します。

4 決定ボタンを押す

指定したチャプターまたはトラックから再生されます。

ステータスバーを消すには

画面表示ボタンをくり返し押します。

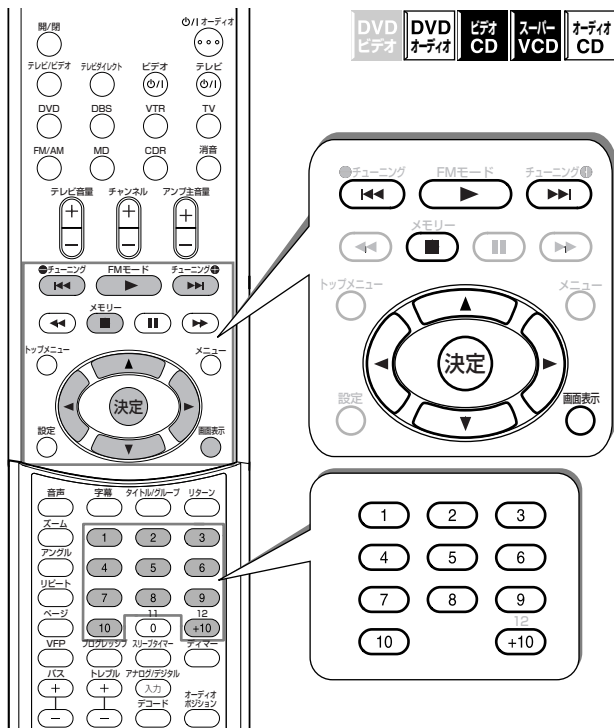
ご注意

- 手順**4**で⃠が表示されたときは…
  入力したチャプター番号やトラック番号が再生中のタイトルにないので、チャプターサーチまたはトラックサーチは機能しません。

メニューバーを使う(つづき)

好きな順番で再生する <プログラム再生>

再生するトラックの順番を、最大99トラックまで自由に決めることができます。同じトラックを2回以上再生することもできます。

DVDビデオ DVDオーディオ ビデオCD スーパーVCD オーディオCD

≪停止中に≫

1 画面表示ボタンをくり返し押してメニューバーを表示させる

2 カーソル(◄/►)ボタンをくり返し押して ⇱ を PROG. に合わせ、決定ボタンを押す

プログラム画面が表示されます。

- 本体の表示窓のPROGRAM(プログラム)表示も点灯します。

3 数字ボタン(1〜10、+10)を使って、再生したい順番にトラック番号を選ぶ

入力例:
トラック番号「5」を選ぶ　：(5)を押す。
トラック番号「15」を選ぶ：(+10) ➡ (5)と押す。
トラック番号「20」を選ぶ：(+10) ➡ (10)と押す。

DVDオーディオのとき

ビデオCD、スーパービデオCDおよびオーディオCDのとき

99トラックまで設定することができます。また、一度選んだトラックをもう一度選ぶこともできます。

- **DVDオーディオ**では、グループ番号も選べます。(ボーナスグループを選んだときは、暗証番号(4ケタ)の入力画面(➡ 58 ページ)が表示されます。暗証番号を入力すると、ボーナスグループのトラックもプログラムすることができます。)
- **プログラムの設定を間違えたときは**
  カーソル(▲/▼)ボタンで ⇱ を修正したいところに合わせ、**■(停止)ボタン**を押します。

4 ►(再生)ボタンを押して再生する

プログラムした順番で再生されます。

プログラム再生を途中でやめるには

■(停止)ボタンを押します。
プログラム画面が表示されます。

プログラム画面を消すには

画面表示ボタンを押します。
プログラム画面は消えますが、プログラムの内容は消去されません。
►(再生)ボタンを押すと、再びプログラム再生が始まります。

プログラムの内容を消去するには

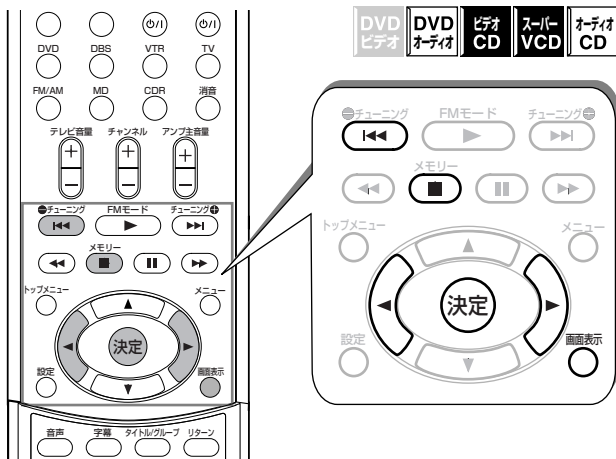
停止中に、プログラム画面を消して**■(停止)ボタン**を押します。すべてのプログラム内容が消去され、本体の表示窓のPROGRAM表示も消えます。

お知らせ

- プログラム再生中、**►►I ボタン**を押すと次にプログラムされているトラックにスキップし、**I◄◄ボタン**を押すと再生中のトラックの頭に戻ります。
- プログラムされたすべてのトラックの再生が終わると停止しますが、プログラムの内容は残ります。
- 次の操作をしてもプログラムの内容が消去されます。
  ーディスクトレイを開ける
  ーソース(音源)を切り換える
  ー電源を「**切**」にする

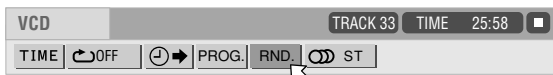
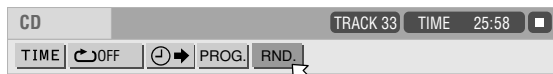
無作為な順番で再生する <ランダム再生>

本機が次に再生するトラックを選び、ランダム(無作為)に再生されます。

• ランダム再生では、同じトラックは2度再生されません。

≪停止中に≫

1 画面表示ボタンをくり返し押してメニューバーを表示させる

2 カーソル(◀/▶)ボタンをくり返し押して を RND. に合わせる

表示例:ビデオCDのとき

表示例:オーディオCDのとき

3 決定ボタンを押す

ランダム再生が始まります。

ランダム再生中は、本体の表示窓のRANDOM(ランダム)表示が点灯します。

すべてのトラックの再生が終了すると、ランダム再生は解除されます。

ランダム再生を途中で解除するには

ランダム再生中に を RND. に合わせて、**決定ボタン**を押すと、ランダム再生が解除され、再生しているところからの通常再生になります。

ランダム再生をやめるには

■(停止)ボタンを押します。
ランダム再生は解除されます。

お知らせ

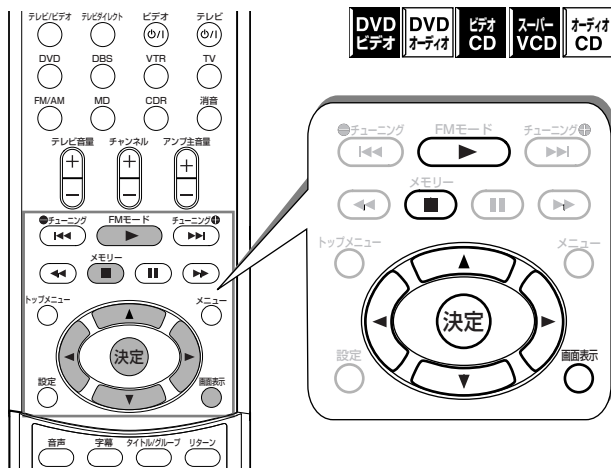
- ランダム再生中に、**⏮ボタン**を押して、再生中のトラックの頭に戻ることができます。(既に再生が終わったトラックへ戻ることはできません。)
- 次の操作をするとランダム再生は解除されます。
  - ーディスクトレイを開ける
  - ーソース(音源)を切り換える
  - ー電源を「**切**」にする

メニューバーを使う(つづき)

くり返し再生する <リピート再生>

DVDビデオのタイトルやチャプター、DVDオーディオのグループやトラック、それ以外のディスクのときのトラックをくり返して再生することができます。また、指定した範囲をくり返し再生することができます(A-Bリピート)。

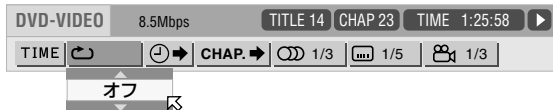
- **リピートボタン**を使って、リピート再生をすることもできます(➡ 64 ページ)。

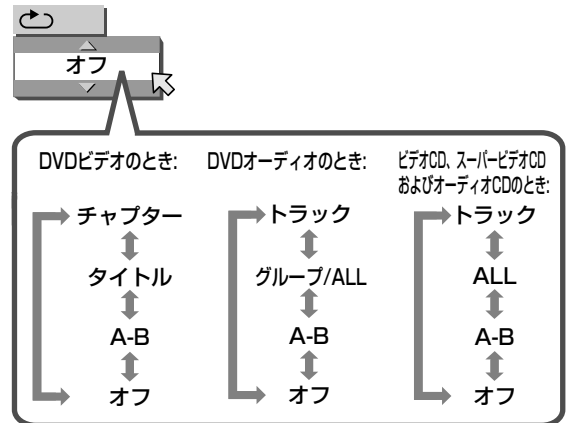
● **タイトル/チャプター/グループ/トラック/全トラックをくり返す**

≪DVDビデオ　:再生中に≫
≪ビデオCD、スーパービデオCD:停止中またはPBCオフで再生中に≫
≪DVDオーディオ、オーディオCD:再生中または停止中に≫

1 **画面表示ボタンをくり返し押してメニューバーを表示させる**

2 **カーソル(◄/►)ボタンをくり返し押して ⇖ を ⮌OFF に合わせ、決定ボタンを押す**

プルダウンメニューが表示されます。

表示例:DVDビデオを再生しているとき

3 **カーソル(▲/▼)ボタンをくり返し押してお好みのリピート再生のモードを選ぶ**

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

DVDビデオのとき
- **チャプター** :チャプターのリピート再生
- **タイトル** :タイトルのリピート再生
- **A-B*** :指定範囲のリピート再生
- **オフ** :リピート再生の解除

DVDオーディオのとき
- **トラック** :トラックのリピート再生
- **グループ** :グループ内の全トラックのリピート再生
- **ALL** :全トラックのリピート再生
- **A-B*** :指定範囲のリピート再生
- **オフ** :リピート再生の解除

ビデオCD、スーパービデオCDおよびオーディオCDのとき
- **トラック** :トラックのリピート再生
- **ALL** :全トラックのリピート再生
- **A-B*** :指定範囲のリピート再生
- **オフ** :リピート再生の解除

＊ プログラム再生、ランダム再生中または停止中は「A-B」が表示されません。

4 **決定ボタンを押す**

リピート再生が始まります。
本体の表示窓のREPEAT(リピート)表示が点灯します。
- 停止中のときは、**►(再生)ボタン**を押して、再生を始めます。

リピート再生をやめるには

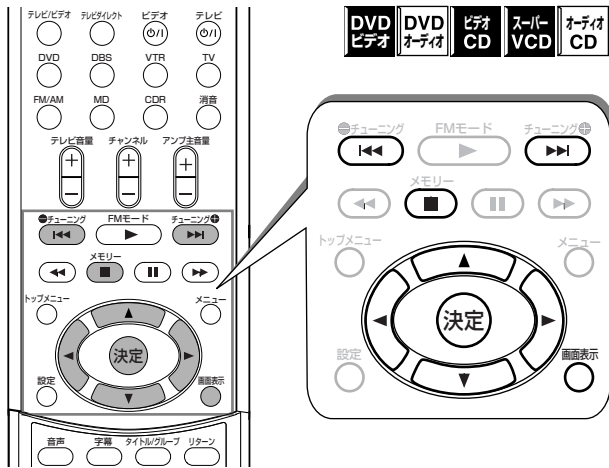
■(停止)ボタンを押します。
DVDビデオ、DVDオーディオのときは、再生を停止すると同時にリピート再生のモードも解除されます。
DVDビデオ、DVDオーディオ以外のときは、再生は停止しますがリピート再生のモードは解除されません。

リピート再生のモードを解除するには

手順**3**で「オフ」を選び、**決定ボタン**を押します。
本体の表示窓のREPEAT(リピート)表示が消灯します。

ステータスバーを消すには

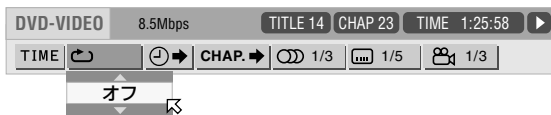
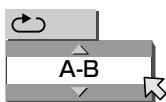
画面表示ボタンをくり返し押します。

● 指定した範囲をくり返し再生する<A-Bリピート>

≪DVDビデオ、DVDオーディオ：再生中に≫
≪ビデオCD、スーパービデオCD：PBCオフで再生中に≫
≪オーディオCD：再生中に≫

1 画面表示ボタンをくり返し押してメニューバーを表示させる

2 カーソル（◄/►）ボタンをくり返し押して を [OFF] に合わせ、決定ボタンを押す

プルダウンメニューが表示されます。

表示例：DVDビデオを再生しているとき

3 カーソル（▲/▼）ボタンをくり返し押して「A-B」を選ぶ

• リピート再生の切り換え項目は、左ページの手順**3**をご覧ください。

4 くり返したい部分の頭で、決定ボタンを押す（Aポイント）

プルダウンメニューが消え、メニューバーに [A-] が表示されます。

5 くり返したい部分の終わりで、決定ボタンを押す（Bポイント）

メニューバーの表示が [A-B] に換わり、AポイントBポイント間のリピート再生が開始されます。

A-Bリピート再生のモードを解除するには

■（停止）ボタンを押すと、再生が停止し、A-Bリピート再生のモードは解除されます。
または、メニューバーの [A-B] に を合わせ、**決定ボタン**を押しても解除されますが、通常の再生は続きます。
⏮ボタンまたは**⏭ボタン**を押しても、A-Bリピート再生のモードは解除されます。

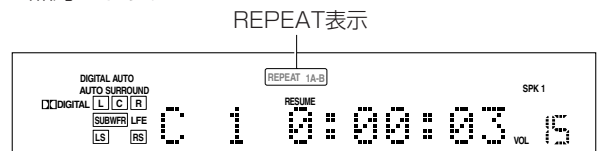
ステータスバーを消すには

画面表示ボタンをくり返し押します。

ご注意

• ⃠が表示されたときは･･･
ディスクによってはA-Bリピート再生ができないものもあります。
• タイトル、またはトラックをまたがるA-Bリピート再生はできません。
• プログラム再生中やランダム再生中、またはリピート再生中は、A-Bリピートはできません。

本体表示窓のリピート表示について

リピート再生中には、本体表示窓のREPEAT（リピート）表示が次のように点灯します。

• **DVDビデオのとき**
REPEAT　　：タイトルのリピート再生
REPEAT 1　：チャプターのリピート再生
REPEAT A-B：A-Bリピート再生

• **DVDオーディオのとき**
REPEAT　　：グループまたは全トラックのリピート再生
REPEAT 1　：トラックのリピート再生
REPEAT A-B：A-Bリピート再生

• **ビデオCD、スーパービデオCDおよびオーディオCDのとき**
REPEAT　　：全トラックのリピート再生
REPEAT 1　：トラックのリピート再生
REPEAT A-B：A-Bリピート再生

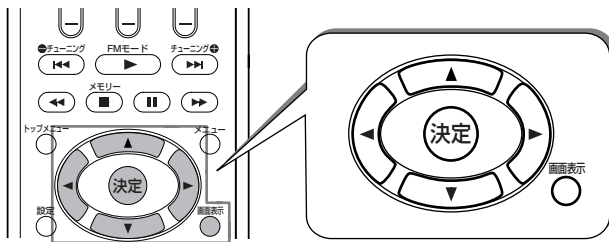
DVDを使いこなす

メニューバーを使う(つづき)

音声言語/音声/字幕/アングルを切り換える

メニューバーから音声言語/音声、字幕、アングルを切り換えます。リモコンの**音声ボタン**(➡ 65 ページ)、**字幕ボタン**(➡ 66 ページ)や**アングルボタン**(➡ 67 ページ)を使って、切り換えることもできます。

字幕:

音声言語/音声:

アングル:

≪再生中に≫

1 画面表示ボタンをくり返し押してメニューバーを表示させる

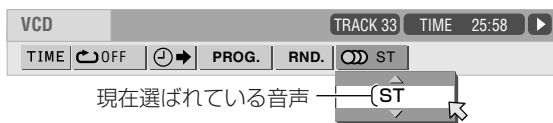
2 カーソル(◄/►)ボタンをくり返し押して を切り換えたい項目に合わせ、決定ボタンを押す

各項目のプルダウンメニューが表示されます。

表示例:DVDビデオで字幕を選ぶとき 1/2

現在選ばれている字幕言語(左側)と収録されている字幕言語総数(右側)

現在選ばれている字幕言語

表示例:ビデオCDで音声を切り換えるとき ST

現在選ばれている音声

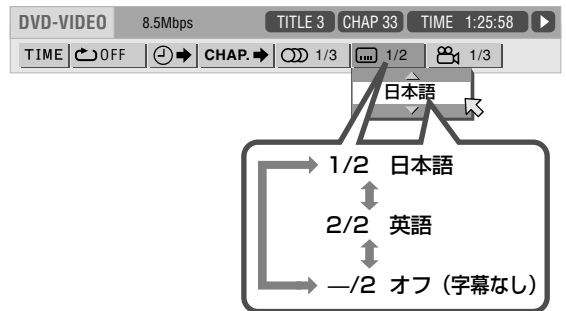
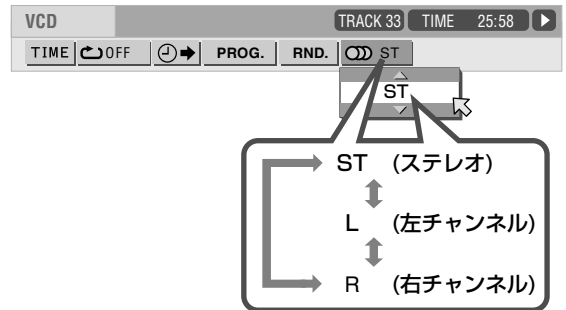
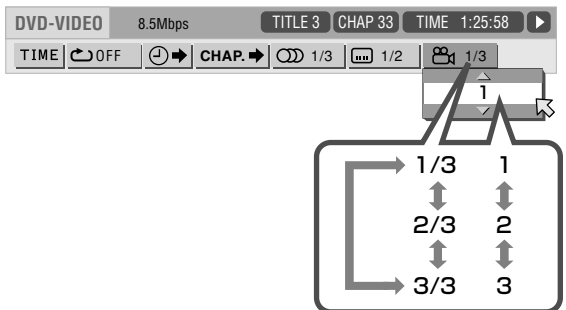
表示例:DVDビデオでアングルを切り換えるとき 1/3

現在選ばれているアングル(左側)と収録されているアングル総数(右側)

現在選ばれているアングル

3 カーソル(▲/▼)ボタンを押して設定を切り換える

カーソル(▲/▼)ボタンを押すごとに設定が切り換わります。

表示例:DVDビデオで字幕言語を選ぶとき 1/2

表示例:ビデオCDで音声を切り換えるとき ST

表示例:DVDビデオでアングルを切り換えるとき 1/3

4 決定ボタンを押す

選んだ設定に切り換わり、プルダウンメニューが消えます。

ステータスバーを消すには

画面表示ボタンを押します。

音声言語と字幕言語の表記について

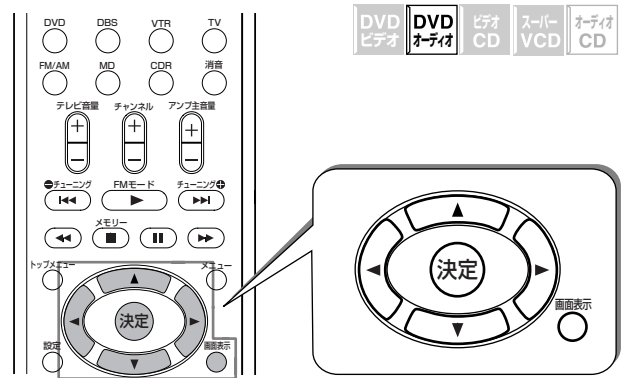
DVDビデオやDVDオーディオのプルダウンメニューに表示される言語のうち、英語、スペイン語、フランス語、中国語、ドイツ語、イタリア語、日本語以外は言語コード(➡ 86 ページ)で表示されます。

ご注意

- 🚫が表示されたときは･･･
  ディスクに該当する項目が収録されていないか、その操作が禁止されています。
- 字幕や音声の切り換えは、ディスクに収録されていない字幕言語や音声言語/音声については、ご使用になれません。

B.S.P.(静止画)を見る(DVDオーディオのみ)

DVDオーディオに収録されているB.S.P.(静止画)を再生します。
ここでは、メニューバーを使っての操作を説明します。
リモコンの**ページボタン**(➡ 61 ページ)を使って、切り換えることもできます。

DVD ビデオ | DVD オーディオ | ビデオ CD | スーパー VCD | オーディオ CD

≪本体の表示窓にB.S.P.表示が点灯しているときに≫

1 再生中に画面表示ボタンをくり返し押してメニューバーを表示させる

2 カーソル(◀/▶)ボタンをくり返し押して ↖ を PAGE -/- に合わせ、決定ボタンを押す

プルダウンメニューが表示されます。

DVD-AUDIO	8.5Mbps	TITLE 14	CHAP 23	TIME 1:25:58	▶

TIME | OFF | TRACK | PROG. | RND. | 1/3 | PAGE 1/3

1

3 カーソル(▲/▼)ボタンをくり返し押してお好みの静止画を選ぶ

ステータスバーを消すには

画面表示ボタンをくり返し押します。

MP3 ディスクを再生する

MP3ディスクについて

MP3とは

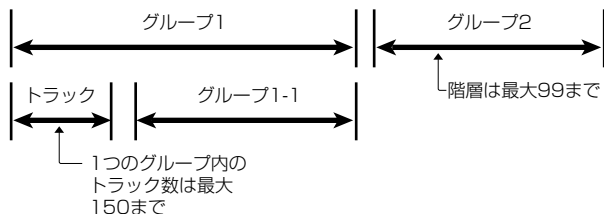
少ないデータ容量で高音質のステレオデータを記録することのできる記録方法です。本機は、CD-R/CD-RWディスクに記録されたMP3ファイルを再生することができます。本取扱説明書ではこれらのディスクを「MP3ディスク」と呼びます。

また、MP3ファイルとJPEGファイルの両方を含むディスクの場合、映像メニューの「MP3/JPEG」で設定されたファイルを再生します。(➡ 88 ページ)

MP3ディスクの構造

MP3ディスクには、それぞれの曲が各「**トラック**(ファイル)」として記録されています。さらに複数の**トラック**は、カテゴリー別、アーティスト別などの「**グループ**(フォルダ)」としてまとめて分類することができます。
このトラック/グループは、パソコンにおけるファイル/フォルダの構造と同様に階層構造をつくることができます。

本機は、ディスク内に最大99グループまで、1グループ内に最大150トラックまでを識別し再生することができます。これらを超えるグループやトラックは再生できません。

- MP3ディスクにMP3ファイル以外のファイルがある場合、それらもファイルとして数えます。

CD-R/CD-RWドライブを使ってMP3ディスクを作るときの注意点

ご自分でMP3ディスクを作成するときは、以下の点にご注意ください。

MP3ファイルについて

- 本機では、次のようなファイルは再生できません。
  - 低ビットレート(64kbps以下)で作成されているもの
  - 「.MP3」「.mP3」「.Mp3」「.mp3」の拡張子のないもの
- ファイル名は、漢字・ひらがな・カナ・全角英数字が使用されていると、正しく表示されないことがあります。
- 本機は、MP3の「ID3v1(ID3バージョン1)タグ」および「ID3v2(ID3バージョン2)タグ」の2バージョンに対応しています。(ID3タグの表示には対応していません。)

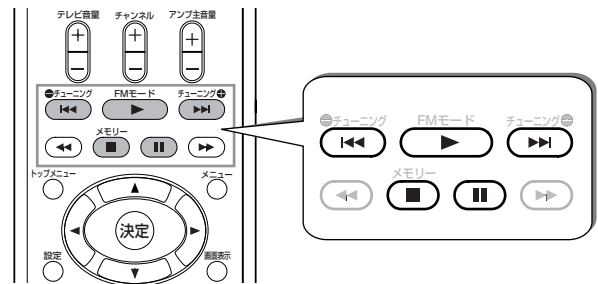
MP3ディスクについて

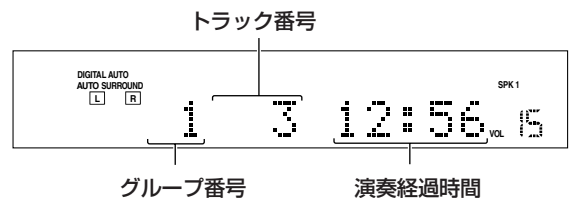
- 本機では、次のようなディスクについては、一部またはすべてを再生できません。
  - ディスクフォーマットが「ISO9660」でないもの
  - 6以上のマルチセッション記録やパケットライト方式で記録されたもの
  - ファイナライズされていないもの

ご注意

- ディスクの記録状態や特性により、再生できないことがあります。
- MP3作成ソフトとCD-R/CD-RW作成ソフトによっては、本機で再生できないこともあります。

基本操作

- **操作の前に、リモコンのDVDボタンを押して、リモコンの操作モードをDVDにしてください。DVDモードになると、本体のビデオ機器ランプのDVD(➡ 12 ページ)が点灯します。**

次のような操作ができます。

▶(再生)ボタン	:再生を始めます
■(停止)ボタン	:再生を停止します
❚❚(一時停止)ボタン	:再生を一時停止します
⏮ボタンまたは**⏭ボタン**	:前後のトラック*を再生します

＊再生中のトラックと異なるグループのトラックは、選択できません。

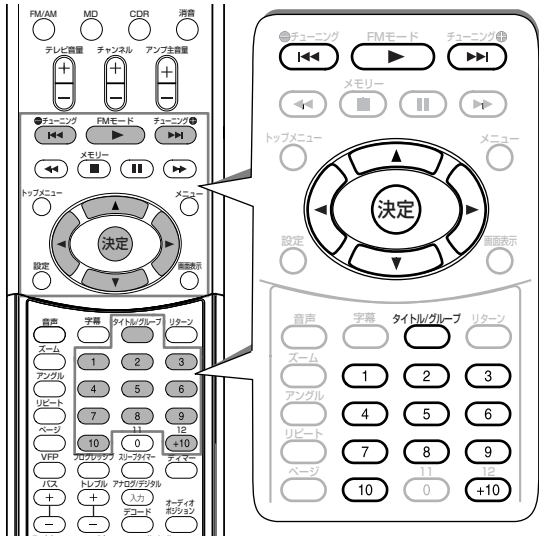
テレビ画面上にはMP3 CONTROL(コントロール)画面が表示されます。

- 表示されるグループやトラックの順番は、作成時と異なることがあります。

ご注意

- ディスクの特性によって、再生までの読み取り時間が長くなることがあります。
- デジタル出力端子からは音声は出力されません。
- 早送り/早戻し再生、リジューム再生、プログラム再生およびランダム再生はできません。
- MP3以外のファイルはテレビ画面に表示されません。
- 現在の演奏経過時間以外の時間情報は表示されません。

グループやトラックを選んで再生する

MP3ディスクをセットして、ディスクが読み込まれると、テレビ画面にMP3 CONTROL画面が表示されます。
この画面からグループやトラックを選んで、再生することができます。

1 カーソル(▲/▼/◄/►)ボタンをくり返し押してグループを選ぶ

選んだグループ内のトラックが表示されます。
- グループは階層に関係なく、すべて表示されます。
- 再生中のときは、選んだグループの最初のトラックが再生されます。
- どのグループにも属さないトラックがあるときも、それらを選ぶことができます。**決定ボタン**を押すと再生が始まります。

2 カーソル(▲/▼/◄/►)ボタンをくり返し押してトラックを選ぶ

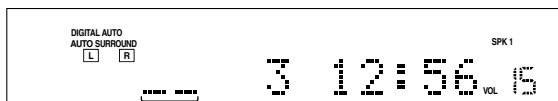
- **|◄◄ボタン**または**►►|ボタン**をくり返し押して、選ぶこともできます。
- 再生中のときは、選んだトラックの再生が直ちに始まります。

3 決定ボタンを押して再生する

- **►(再生)ボタン**を押して再生することもできます。

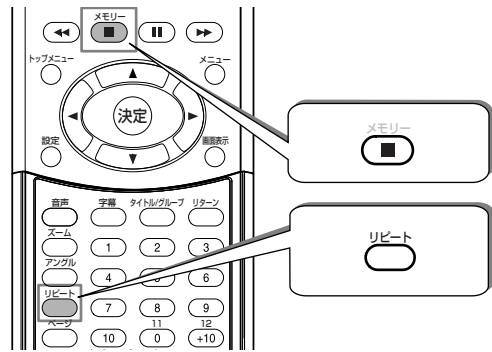
グループ番号を直接入力して選ぶ

タイトル/グループボタンと**数字ボタン(1〜10、+10)**を使って、グループ番号を直接入力して選ぶこともできます。

1. **タイトル/グループボタン**を押す
   本体の表示窓が、グループ番号を入力する表示に切り換わります。

グループ番号入力状態

2. **数字ボタン(1〜10、+10)**を押して、お好みのグループを選ぶ
   グループ番号を選ぶと、選んだグループの最初のトラックから再生が始まります。
   - 数字ボタンの使い方は、右欄をご覧ください。

くり返し再生する(リピート)

トラックや1つのグループまたはディスク全体をくり返し再生することができます。

リピートボタンを押す

ボタンを押すごとに、リピート再生のモードが次のように切り換わります。

REPEAT TRACK	:	トラックのリピート再生
REPEAT GROUP	:	グループのリピート再生
REPEAT ALL	:	全トラックのリピート再生

本体の表示窓のREPEAT表示も点灯します。

リピート再生をやめるには

■(停止)ボタンを押します。
ただし、リピート再生のモードは解除されません。

リピート再生のモードを解除するには

リピートボタンを押してMP3 CONTROL画面のリピート表示を消します(または、表示窓のREPEAT表示を消灯させます)。

数字ボタンの使いかた

- **1〜10を選ぶには**
  その番号の**数字ボタン**を押す。
- **11以上を選ぶには**
  +10ボタンを先に押してから1〜10のボタンを押す。
  例) 番号「5」を選ぶ　: (5) を押す。
  番号「15」を選ぶ : (+10) ➡ (5) と押す。

JPEGディスクを再生する

JPEGディスクについて

JPEGとは

JPEG(Joint Photographic Experts Groupの略称)とはインターネットやデジカメなどに広く利用されている静止画情報圧縮フォーマットのひとつです。

本機は、CD-R/CD-RWディスクに記録されたJPEGファイルを再生することができます。本取扱説明書ではこれらのディスクを「JPEGディスク」と呼んでいます。

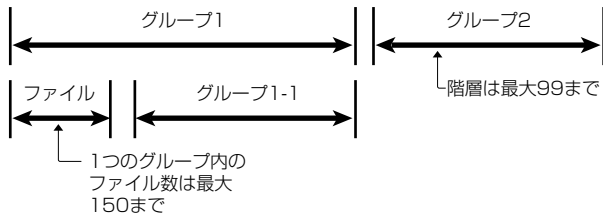
また、MP3ファイルとJPEGファイルの両方を含むディスクの場合、映像メニューの「MP3/JPEG」で設定されたファイルを再生します。(➡ 88 ページ)

JPEGディスクの構造

JPEGディスクには、それぞれの画像が各「**ファイル**」として記録されています。さらに複数の**ファイル**は、カテゴリー別などの「**グループ**(フォルダ)」としてまとめて分類することができます。

このファイル/グループは、パソコンにおけるファイル/フォルダの構造と同様に階層構造をつくることができます。

本機はディスク内に最大99グループまで、1グループ内に最大150ファイルまでを識別し再生することができます。これらを超えるグループやトラックは再生できません。

- JPEGディスクにJPEGファイル以外のファイルがある場合、それらもファイルとして数えます。

CD-R/CD-RWドライブを使ってJPEGディスクを作るときの注意点

ご自分でJPEGディスクを作成するときは、以下の点にご注意ください。

JPEGファイルについて

- 本機では、次のようなファイルは再生できません。
  - ベースライン方式以外のフォーマットで作成されているもの
  - 「.jpg」「.jpeg」「.JPG」「.JPEG」の拡張子のないもの
- ファイル名は、漢字・ひらがな・カナ・全角英数字が使用されていると、正しく表示されないことがあります。
- ファイル読み込み速度上、解像度640×480以内のファイルをお使いになることをおすすめします。

JPEGディスクについて

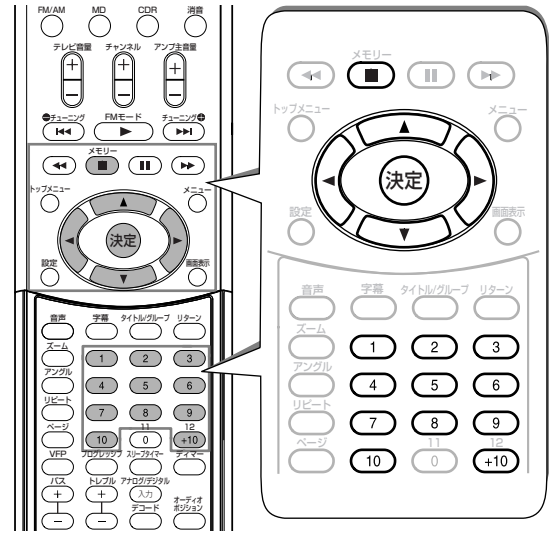
- 本機では、次のようなディスクについては、一部またはすべてを再生できません。
  - ディスクフォーマットが「ISO9660」でないもの
  - 6以上のマルチセッション記録やパケットライト方式で記録されたもの
  - ファイナライズされていないもの

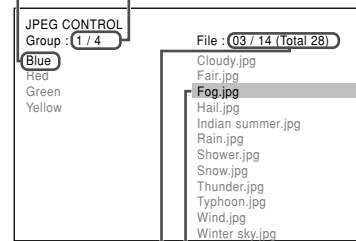
ご注意

- ディスクの記録状態や特性により、再生できないことがあります。

基本操作

JPEGディスクをセットして、ディスクが読み込まれると、テレビ画面にJPEG CONTROL画面が表示されます。

- **操作の前に、リモコンのDVDボタンを押して、リモコンの操作モードをDVDにしてください。DVDモードになると、本体のビデオ機器ランプのDVD(➡ 12 ページ)が点灯します。**

選択中のグループ番号/ディスク内の総グループ数

選択中のグループ名

選択中のファイル名(ハイライト表示)

選択中のファイル番号/グループ内の総ファイル数(ディスク内の総ファイル数)

JPEG CONTROL画面表示中に、次のような操作ができます。

カーソル(◀/▶)ボタン	:グループを選びます。
カーソル(▲/▼)ボタン	:ファイルを選びます。
数字ボタン(1〜10、+10)	:ファイルを選び、再生します。その後は、スライドショー再生(➡ 83 ページ)になります。
決定ボタン	:選んだファイルを再生します。

- 表示されるグループやファイルの順番は、作成時と異なることがあります。

JPEGコントロール画面に戻すには

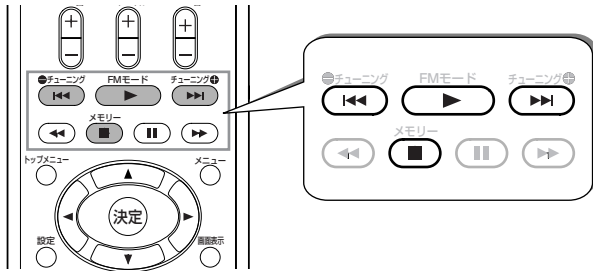
■(停止)ボタンを押します。

ご注意

- ディスクにJPEG以外のファイルが収録されているときは、それらのファイルは表示されません。

ファイルを連続再生する<スライドショー>

画像を3秒間再生したあと、自動的に他のファイル(画像)も3秒間ずつ連続して表示させることができます(スライドショー再生)。

- **操作の前に、リモコンのDVDボタンを押して、リモコンの操作モードをDVDにしてください。DVDモードになると、本体のビデオ機器ランプのDVD(➡ 12 ページ)が点灯します。**

►(再生)ボタンを押す

スライドショー再生が始まります。

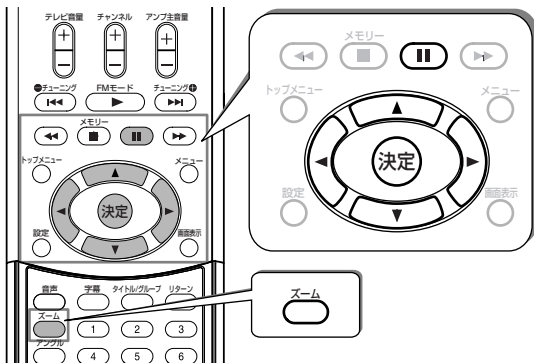
- 画像が選択されているときに**►(再生)ボタン**を押すとそこからスライドショー再生が始まります。
- 次の画像が再生される前に、**I◄◄ボタン**または**►►Iボタン**を押すと、前後の画像を表示させることができます。

スライドショー再生を途中でやめるには

■(停止)ボタンを押します。
JPEG CONTROL画面が表示されます。

画面を拡大する(ズーム)

再生中の画像を拡大してみることができます。

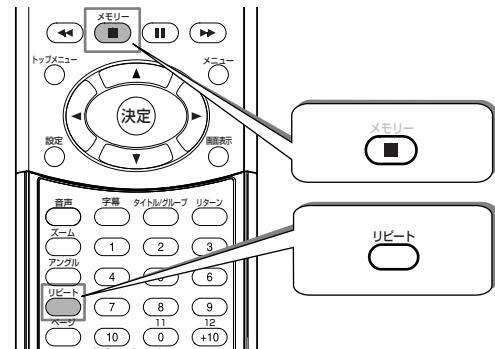
- 詳しい操作方法は 61 ページをご覧ください。
- スライドショー再生中の画像は拡大表示できません。拡大表示したいときは、**II(一時停止)ボタン**を押して、スライドショー再生を一時停止させると、ズームが働くようになります。

画像表示中に、次のような操作ができます。

ズームボタン	：画像を拡大します。くり返し押すと倍率が大きくなります。
カーソル(▲/▼/►/◄)ボタン	：拡大する部分を選びます。
決定ボタン	：ズームを解除します。

ご注意

- 拡大すると、画質が悪化したり、画像がブレることがあります。

くり返し再生する(リピート)

ファイルまたは1つのグループをくり返し再生することができます。

リピートボタンを押す

ボタンを押すごとに、、リピート再生のモードが次のように切り換わります。

REPEAT GROUP ：グループのリピート再生
REPEAT ALL ：全ファイルのリピート再生

表示窓のREPEAT(リピート)表示も点灯します。

リピート再生をやめるには

■(停止)ボタンを押します。
JPEG CONTROL画面が表示されます。ただし、リピート再生のモードは解除されません。

リピート再生のモードを解除するには

リピートボタンを押してJPEG CONTROL画面のリピート表示を消します(または、表示窓のREPEAT表示を消灯させます)。

テレビ画面で設定を変更する

お買い上げ時（本機の工場出荷時）の各種設定を設定メニュー画面で変更することができます。

内蔵DVDプレーヤーの音声言語設定などの設定を変更するときは、操作の前に、リモコンのDVDボタンを押してリモコンの操作モードをDVDにしてください。

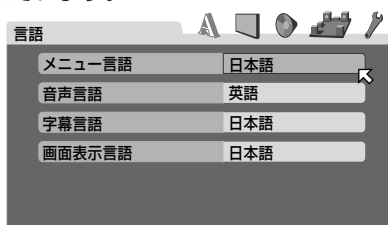
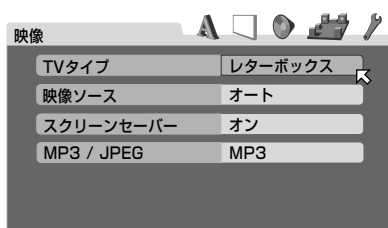
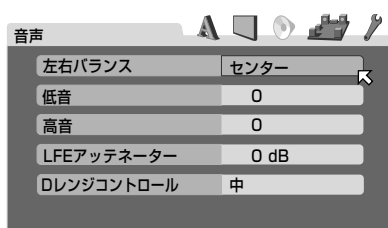
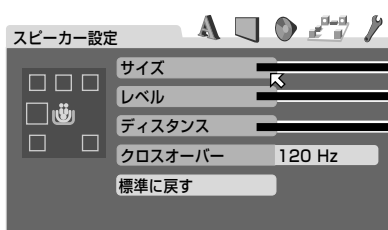
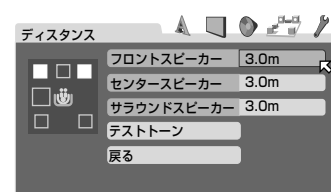
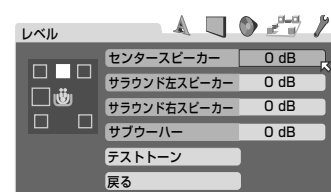
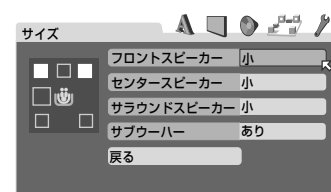
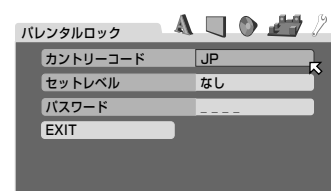
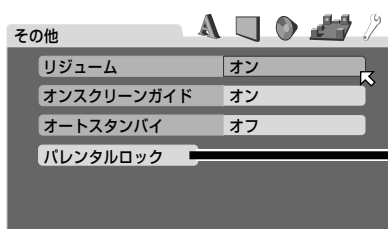
- ソース（音源）がラジオのときは、設定画面は使えません。
- 設定メニュー画面を使うときは、テレビの電源を入れて、正しい映像入力を選んでください。
- 音声、スピーカー設定の中には各ソース（音源）ごとに記憶されるものがあります（➡ 39 ページ）。ソース（音源）ごとに調節するときは、操作の前に、リモコンのソース機器選択ボタンを押してから設定してください。
- MP3ディスク/JPEGディスクが入っているときは、設定メニュー画面を使うことはできません。

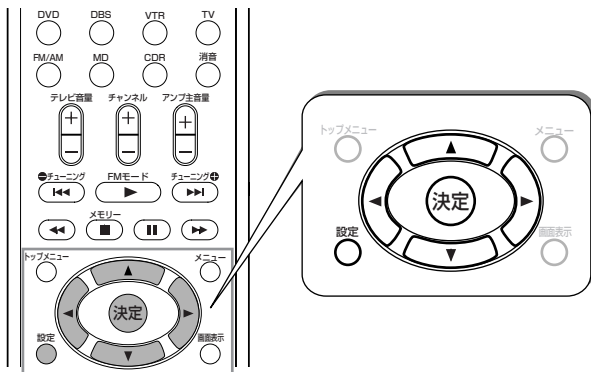
設定メニュー画面の構成について

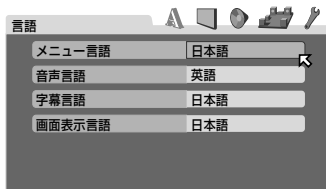
設定メニュー画面は、次のメニューで構成されています。

A ：言語メニュー（➡ 86 ページ）
DVD再生時の各言語設定と設定メニューの言語を設定します。

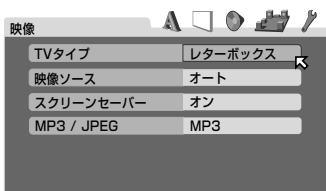
言語

メニュー言語	日本語
音声言語	英語
字幕言語	日本語
画面表示言語	日本語

：映像メニュー（➡ 87 88 ページ）
映像出力の設定などをします。

：音声メニュー（➡ 88 ページ）
音声出力の設定をします。
各ソース（音源）ごとに（ラジオは除く）設定することができます。

：スピーカー設定メニュー（➡ 89 90 ページ）
スピーカーの設定をします。
サイズ、レベル、ディスタンスの3つのサブメニューがあります。

：その他メニュー（➡ 91 ページ）
その他の設定をします。
パレンタルロックのサブメニューがあります。

基本操作

操作の例として「映像メニュー」の「スクリーンセーバー」の設定を変更します。

1 設定ボタンを押す

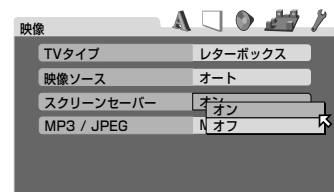
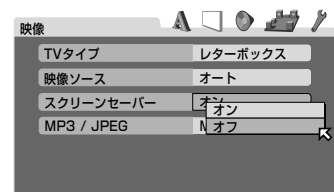
設定メニュー画面の言語メニューが表示されます。
表示例：DVDビデオのとき

- ソース（音源）によっては表示されないメニュー項目もあります。

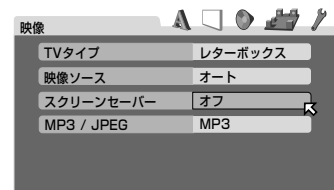
2 カーソル（◄/►）ボタンをくり返し押して映像メニューを表示させる

- ボタンを押すごとにメニュー画面は切り換わります。

3 カーソル（▲/▼）ボタンをくり返し押して↖を「スクリーンセーバー」に合わせる

- メニュー画面によっては、他の項目の設定によって選択できない項目もあります。

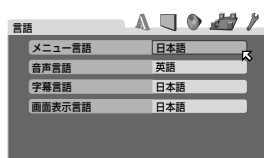
4 決定ボタンを押す

選んだ項目のプルダウンメニューが表示されます。

5 カーソル（▲/▼）ボタンをくり返し押して↖をお好みの設定に合わせる

6 決定ボタンを押す

設定が変更されました。

設定メニューを消すには

設定ボタンを押します。

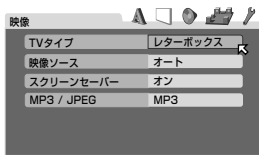
テレビ画面で設定を変更する(つづき)

言語メニュー

メニュー言語、音声言語、字幕言語、画面表示言語など、言語に関する設定を行うメニュー画面です。

設定項目	設定内容　（　　　がお買い上げ時の設定です）	備考
メニュー言語 DVDのメニュー画面に表示される言語を選びます。	英語⬌スペイン語⬌フランス語⬌中国語⬌ドイツ語⬌イタリア語⬌日本語⬌AAからZUまでの言語コード • 言語コードは下記の言語コード一覧表をご覧ください。	選択したメニュー言語がディスクに収録されていないときには、ディスクに標準設定されている言語で表示されます。
音声言語 DVDの音声言語を選びます。	英語⬌スペイン語⬌フランス語⬌中国語⬌ドイツ語⬌イタリア語⬌日本語⬌AAからZUまでの言語コード • 言語コードは下記の言語コード一覧表をご覧ください。	
字幕言語 DVDの字幕言語を選びます。	オフ⬌英語⬌スペイン語⬌フランス語⬌中国語⬌ドイツ語⬌イタリア語⬌日本語⬌AAからZUまでの言語コード • 言語コードは下記の言語コード一覧表をご覧ください。	
画面表示言語 設定メニューなどの画面上に表示される表示言語を選びます。	日本語⬌英語	—

〈言語コード一覧〉

コード	言語	コード	言語	コード	言語	コード	言語
AA	アファル語	GD	スコットランドゲール語	MI	マオリ語	SL	スロベニア語
AB	アブバジア語	GL	ガルシア語	MK	マケドニア語	SM	サモア 語
AF	アフリカーンス語	GN	グアラニ語	ML	マラヤーラム語	SN	ショナ語
AM	アムハラ語	GU	グジャラード語	MN	モンゴル語	SO	ソマリ語
AR	アラビア語	HA	ハウサ語	MO	モルダビア語	SQ	アルバニア語
AS	アッサム語	HI	ヒンディー語	MR	マラータ語	SR	セルビア語
AY	アイマラ語	HR	クロアチア語	MS	マライ（マレー）語	SS	シスワティ語
AZ	アゼルバイジャン語	HU	ハンガリー語	MT	マルタ語	ST	セストゥ語
BA	バシキール語	HY	アルメニア語	MY	ミャンマー語	SU	スンダ語
BE	ベラルーシ語	IA	国際語	NA	ナウル語	SV	スウェーデン語
BG	ブルガリア語	IE	国際語	NE	ネパール語	SW	スワヒリ語
BH	ビハーリー語	IK	イヌピック語	NL	オランダ語	TA	タミール語
BI	ビスラマ語	IN	インドネシア語	NO	ノルウェー語	TE	テルグ語
BN	ベンガル語、バングラ語	IS	アイスランド語	OC	プロバンス語	TG	タジク語
BO	チベット語	IW	ヘブライ語	OM	（アフォン）オロモ語	TH	タイ語
BR	ブルトン語	JI	イディッシュ語	OR	オリヤー語	TI	ティグリニャ語
CA	カタロニア語	JW	ジャワ語	PA	パンジャブ語	TK	トゥルクメン語
CO	コルシカ語	KA	グルジア語	PL	ポーランド語	TL	タガログ語
CS	チェコ語	KK	カザフ語	PS	パシュトー語	TN	セツワナ語
CY	ウェールズ語	KL	グリーンランド語	PT	ポルトガル語	TO	トンガ語
DA	デンマーク語	KM	カンボジア 語	QU	ケチュア語	TR	トルコ語
DZ	ブータン語	KN	カンナダ語	RM	ラエティ - ロマン語	TS	ツォンガ語
EL	ギリシャ語	KO	韓国（朝鮮）語	RN	キルンディ語	TT	タタール語
EO	エスペラント語	KS	カシミール語	RO	ルーマニア語	TW	トウィ語
ET	エストニア語	KU	クルド語	RU	ロシア語	UK	ウクライナ語
EU	バスク語	KY	キルギス語	RW	キニヤルワンダ語	UR	ウルドゥー語
FA	ペルシャ語	LA	ラテン語	SA	サンスクリット語	UZ	ウズベク語
FI	フィンランド語	LN	リンガラ語	SD	シンド語	VI	ベトナム語
FJ	フィジー語	LO	ラオス語	SG	サンド語	VO	ヴラピュク語
FO	フェロー語	LT	リトアニア語	SH	セルボアクロアチア語	WO	ウォロフ語
FY	フリジア語	LV	ラトビア語、レット語	SI	シンハラ語	XH	コーサ語
GA	アイルランド語	MG	マダガスカル語	SK	スロバキア語	YO	ヨルバ語
						ZU	ズール語

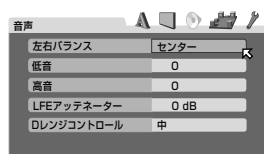
映像メニュー

TVのタイプ、映像ソース、スクリーンセーバー、MP3/JPEGの切り換えなど、映像に関する設定を行うメニュー画面です。

設定項目	設定内容　（　　　　がお買い上げ時の設定です）	備考
TV タイプ お使いのテレビに合わせて画面表示方法を選びます。	**16:9ノーマル⟷16:9オート⟷レターボックス⟷パンスキャン** ・**16:9ノーマル** 画面サイズが16:9に固定されているワイドテレビと接続したときに選びます。（本機が4：3で収録されたDVDビデオを再生するとき、出力信号の画面幅を自動調節します。）	「16:9ノーマル」設定で4:3画面のDVDを再生すると、画面幅を変換しているため画質が変わります。
	・**16:9オート** 普通のワイドテレビと接続したときに選びます。	
	・**レターボックス** 上下に黒い帯がある状態で映ります。左右両端の映像は切り取られません。通常のテレビ（縦横比4：3）に接続したときに選びます。	
	・**パンスキャン** 左右両端が切り取られた状態で映ります。上下に黒い帯は映りません。通常のテレビ（縦横比4：3）に接続したときに選びます。	パンスキャンを選んでいても、ディスクが対応していないときは、レターボックス表示になります。
映像ソース プログレッシブモードの設定を行います。 この設定はスキャンモードがプログレッシブスキャン(PROGRESSIVE)に設定されているときに限り有効です。（➡ 38 ページ）	**ビデオ(ノーマル)⟷ビデオ(アクティブ)⟷フィルム⟷オート** ・**ビデオ(ノーマル)** ディスクに収録された素材をビデオ素材としてプログレッシブ変換します。比較的動きの少ないビデオ素材のディスクの再生に適しています。	ディスクの中には「オート」モードで正しく再生されないものがあります。映像にスジ状のノイズが入ったり、不鮮明なときは設定を変えてみます。
	・**ビデオ(アクティブ)** ディスクに収録された素材をフィルム素材としてプログレッシブ変換します。比較的動きの多いビデオ素材のディスクの再生に適しています。	
	・**フィルム** ディスクに収録された素材をフィルム素材としてプログレッシブ変換します。 フィルム素材、またはプログレッシブスキャン方式で記録されたビデオ素材のディスクの再生に適しています。	
	・**オート** ディスクの再生から素材のタイプ（フィルムまたはビデオ）を判定して、モードを切り換えます。フィルム素材とビデオ素材が混在しているディスクの再生に適しています。通常はこのモードを選びます。	

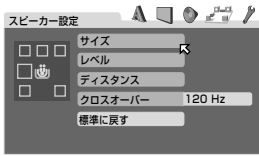
テレビ画面で設定を変更する(つづき)

映像メニュー(つづき)

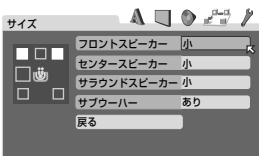
設定項目	設定内容 （　　がお買い上げ時の設定です）	備考
スクリーンセーバー 画面の焼きつきを防止するスクリーンセーバー(➡56ページ)を使うかどうかを選びます。	**オン** ⬌ **オフ** ・**オン** 画面が暗くなります。 ・**オフ** スクリーンセーバーは機能しません	—
MP3/JPEG CD-R/CD-RWディスクにMP3、JPEGの両ファイルが含まれている場合、どちらのファイルを再生可能にするかを選びます。	**MP3** ⬌ **JPEG** ・**MP3** MP3 ファイルを再生します。 ・**JPEG** JPEG ファイルを再生します。	—

音声メニュー

フロントスピーカー出力の左右バランス、低音、高音、LFE(エルエフイー)アッテネーター、Dレンジコントロールなど、音声に関する設定を行うメニュー画面です。

設定項目	設定内容 （　　がお買い上げ時の設定です）	備考
左右バランス 左右のフロントスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に置けないときは、左右のフロントスピーカーの音量バランスを調節します。	**右－21⬌・・・⬌右－1⬌センター** 右スピーカーの出力を下げます。 **センター⬌左－1⬌・・・⬌左－21** 左スピーカーの出力を下げます。	各ソース(音源)ごとに、設定できます。 • 本体のボタンでも設定できます。詳しくは、「フロントスピーカーの左右のバランスを調節する」(➡49ページ)をご覧ください。
低音 低音の調節をします。 **高音** 高音の調節をします。	**－10 ⬌・・・⬌－2 ⬌ 0 ⬌ +2 ⬌・・・⬌ +10** －10から+10まで、2ずつ設定できます。数値が大きくなるほど、効果は大きくなります。	各ソース(音源)ごとに、設定できます。 • リモコンおよび本体のボタンでも設定できます。詳しくは、「音質を調節する」(➡49ページ)をご覧ください。
LFE アッテネーター ドルビーデジタル音声を再生中、低音がひずむとき設定します。	**－10 dB ⬌ 0 dB** 通常は「0 dB」に設定します。 音がひずむときに「－10 dB」に設定します。	この機能はサブウーハーを「あり」に設定し(➡89ページ)LFE音声信号が入力されたときに限り働きます。 • 本体のボタンでも設定できます。詳しくは、「低音域のレベルを設定する」(➡48ページ)をご覧ください。
Dレンジコントロール 最大音声と最小音声の差をダイナミックレンジといい、その差を圧縮することによって、夜間でもサラウンドをお楽しみいただけます。	**大 ⬌ 中 ⬌ オフ** ・**大、中** D レンジコントロール機能が働きます。 「大」では、より効果が出ます。静かにサラウンドを楽しみたいときに最適です。 ・**オフ** D レンジコントロール機能が働きません。	ダイナミックレンジの設定は、本体のボタンでも設定できます。詳しくは、「ダイナミックレンジを設定する」(➡48ページ)をご覧ください。

スピーカー設定メニュー

スピーカーのサイズ、レベル、ディスタンス、クロスオーバーの設定を行うメニュー画面です。

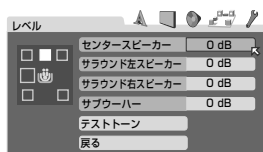
設定項目	設定内容 （ ▭ がお買い上げ時の設定です）	備考
サイズ スピーカーのサイズや使用の有無を設定します。 **レベル** 各スピーカーの出力の調節をします。 **ディスタンス** 各スピーカーのリスニングポジションからの距離を登録します。	サイズ、レベル、ディスタンスのサブメニューを表示します。	レベルについては、各ソース(音源)ごとに、設定できます。
クロスオーバー 小型スピーカーのサイズに応じて、クロスオーバー周波数を設定します。	80 Hz ⬌ 100 Hz ⬌ 120 Hz 設定値を大きくすると、小さな口径(12cm以下)のスピーカーを接続した場合でも、低音要素は損なわれにくくなります。	「サイズ」の設定ですべてのスピーカーを「大」に設定しているときは、この機能は働きません。
標準に戻す これを選択すると、すべての音声設定とスピーカー設定がお買い上げ時の設定に戻ります。	—	—

● **サイズメニュー**

お使いのスピーカーのサイズを本機に登録するメニュー画面です。
スピーカーの接続を終えてから設定します。
お使いのスピーカーに内蔵されているスピーカーユニットの口径が12cm以上なら「大」を選び、12cm以下なら「小」を選びます。

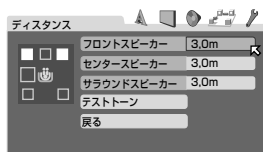
設定項目	設定内容（ ▭ がお買い上げ時の設定です）	備考
フロントスピーカー	大 ⬌ 小	フロントスピーカーは「なし」に設定できません。 サブウーハーを「なし」に設定しているときは、フロントスピーカーは「小」に設定できません。 フロントスピーカーを「小」に設定しているときは、センタースピーカー、サラウンドスピーカーを「大」に設定できません。
センタースピーカー	大 ⬌ 小 ⬌ なし	
サラウンドスピーカー	大 ⬌ 小 ⬌ なし	
サブウーハー	あり ⬌ なし	—
戻る これを選択すると、スピーカー設定メニューに戻ります。	—	—

いろいろな設定をする

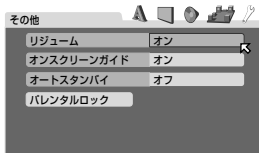
スピーカー設定メニュー(つづき)

● レベルメニュー

センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、サブウーハーの出力レベルの調節を行うメニュー画面です。

設定項目	設定内容（　　がお買い上げ時の設定です）	備考
センタースピーカー **サラウンド左スピーカー** **サラウンド右スピーカー** **サブウーハー**	–10dB ⇔・・・⇔ –1dB ⇔ 0dB ⇔ +1dB ⇔・・・⇔ +10dB –10dBから+10dBまでの範囲を、1dBずつ設定できます。数値が大きくなるほど、出力レベルは大きくなります。	スピーカーを使わない設定のときやサラウンドモードによっては、調節のできないスピーカーがあります。 各ソース(音源)ごとに、設定できます。
テストトーン テストトーンを使うとき選択します。	—	もう一度選択するとテストトーンはとまります。 • サブウーハーにはテストトーンは使えません。
戻る これを選択すると、スピーカー設定メニューに戻ります。	—	—

● ディスタンスメニュー

ドルビーデジタル、DTSデジタルサラウンドおよびMPEG-2 AACサラウンドで効果的な音場を構成するには、リスニングポジションから各スピーカーまでの距離が同じであることが理想的です。本機では、リスニングポジションから各スピーカーまでの実際の距離を登録するだけで、どの距離も同じであるように音場を調節することができます。

設定項目	設定内容（　　がお買い上げ時の設定です）	備考
フロントスピーカー **センタースピーカー** **サラウンドスピーカー**	0.3m ⇔・・・⇔ 2.7m ⇔ 3.0m ⇔ 3.3m ⇔・・・⇔ 9.0m 0.3mから9.0mまでの範囲を、0.3mずつ設定できます。	—
テストトーン テストトーンを使うとき選択します。	—	もう一度選択するとテストトーンはとまります。 • サブウーハーにはテストトーンは使えません。
戻る これを選択すると、スピーカー設定メニューに戻ります。	—	—

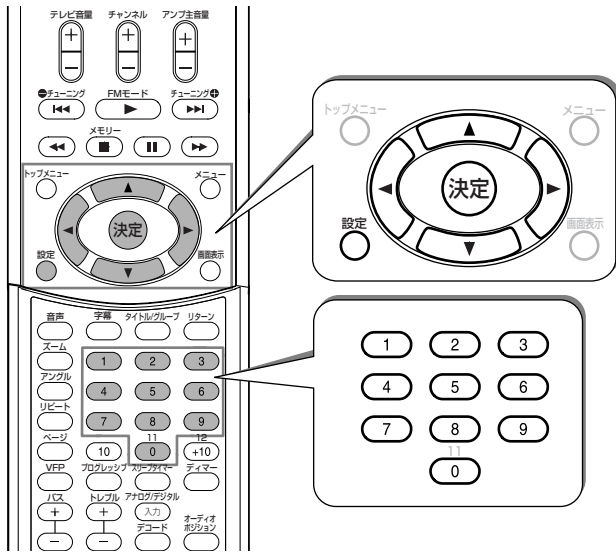
その他メニュー

リジューム、オンスクリーンガイド、オートスタンバイおよびパレンタルロック（視聴制限）の設定を行うメニュー画面です。

設定項目	設定内容　（　　　　がお買い上げ時の設定です）	備考
リジューム リジューム再生（➡ 57 ページ）を使うかどうかを選びます。	**オン ⟷ オフ** ・**オン** リジューム機能が働きます。 ・**オフ** リジューム機能が働きません。	—
オンスクリーンガイド 再生している映像に重ねてディスクの収録状態や本機の動作状態を示すマーク（、、など）や文字を表示するかどうかを選びます。	**オン ⟷ オフ** ・**オン** マークや文字が表示されます。 ・**オフ** マークや文字が表示されません。	—
オートスタンバイ ソース（音源）がDVDのとき、ディスクの再生が一定の間停止し続けた場合、自動的に本機を電源「**切**」にするかどうかを選びます。	60 ⟷ 30 ⟷ オフ ・60 60分後に電源が「**切**」になります。 ・30 30分後に電源が「**切**」になります。 ・**オフ** オートスタンバイ機能は働きません。	—
パレンタルロック 視聴制限（パレンタルロック）を設定します。 この項目を選ぶと、パレンタルロック設定画面が表示されます。	設定方法については 92 93 ページをご覧ください。	—

DVDソフトの視聴制限を設定する<パレンタルロック>

過激なシーンを含むDVD映画ソフトを再生するときなど、ディスクが対応しているときパレンタルロックの設定に応じて、そのようなDVD映画ソフトの視聴を制限することができます。

はじめに設定する

- **操作の前に、リモコンのDVDボタンを押してリモコンの操作モードをDVDにしてください。**

《ディスク停止中、またはディスクが入っていないときに》

1 設定ボタンを押す

設定メニュー画面が表示されます。

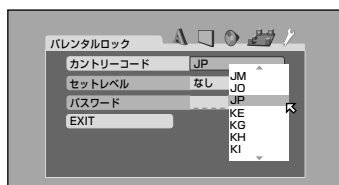
2 カーソル(◄/►)ボタンをくり返し押して を「その他」に合わせる

その他メニュー画面が表示されます。

3 カーソル(▲/▼)ボタンをくり返し押して を「パレンタルロック」に合わせ、決定ボタンを押す

パレンタルロック設定画面が表示されます。

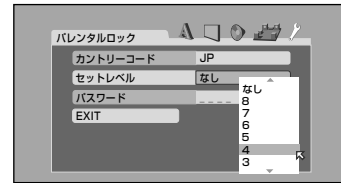
4 が「カントリーコード」を指しているときに決定ボタンを押す

カントリーコードのプルダウンメニューが表示されます。

5 カーソル(▲/▼)ボタンを使ってカントリーコードを選び、決定ボタンを押す

カントリーコードが設定され、 が「セットレベル」に移動します。

- カントリーコードは、「カントリーコード一覧」(➡ 94 ページ)をご覧ください。

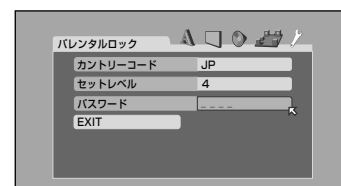
6 が「セットレベル」を指しているときに決定ボタンを押す

セットレベルのプルダウンメニューが表示されます。

7 カーソル(▲/▼)ボタンを使ってレベルを選び、決定ボタンを押す

1～8の中から選びます。レベル値が小さいほど、制限が厳しくなります。
セットレベル「なし」が視聴制限を全くしない設定です。
設定したレベル値以上のDVDは再生できなくなります。

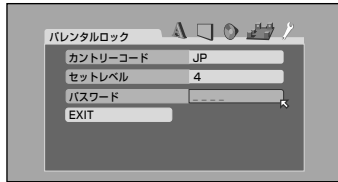
レベルが設定され、 が「パスワード」に移動します。

8 数字ボタン(1～9、0)を使って任意のパスワード(4ケタの数字)を入力する

パスワードを間違えたら、**決定ボタン**を押す前に、もう一度入力し直してください。

9 決定ボタンを押す

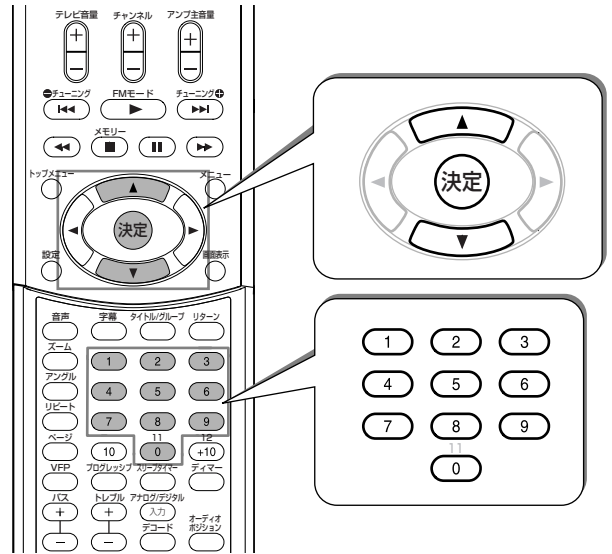
パスワードが設定されます。
 が「EXIT」に移動します。
もう一度**決定ボタン**を押すと、その他メニュー画面に戻ります。

設定を変更するときは

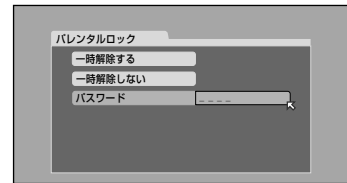
パスワードの設定後に設定の変更をするときは、左ページの手順に準じて進めます。
手順**3**でパレンタルロック設定画面が表示されます。
続けて手順**4**から手順**7**まで進めて、手順**8**で**新しいパスワード**を入力してください。

パスワードについて

- 現在のパスワードを忘れてしまったときは「**8888**」を入力してください。新しいパスワードを設定できるようになります。
- パスワードの入力を3回間違えると、パレンタルロックの設定変更ができなくなります。このとき ☞ は[EXIT]に移動し動かせなくなります。**決定ボタン**を押して、もう一度最初からやり直してください。

パレンタルロックを一時解除する

パレンタルロックを厳しく設定しているときは、再生しようとしても全く見ることができないことがあります。このようなときは、パレンタルロックを一時的に解除することができます。

《DVDビデオで下の画面が表示されたら》

1 カーソル(▲/▼)ボタンを使って ☞ を「一時解除する」に合わせ、決定ボタンを押す

☞ が[パスワード]に移動します。

- 「一時解除しない」を選んだときは、このディスクを再生することはできません。リモコンの**開/閉ボタン**または本体の**▲(開/閉)ボタン**を押してディスクを取り出してください。

2 設定されているパスワードを数字ボタン(1～9、0)を使って入力する

正しいパスワードを入力するとパレンタルロックが一時解除され、ディスクが再生されます。
間違って入力した場合、「違います。やり直してください」と表示されますので、もう一度入力してください。

ご注意

- パスワードの入力を3回間違えると、**カーソル(▲/▼)ボタン**は働かなくなります。**決定ボタン**を押してパレンタルロック画面から抜け、ディスクを取り出してください。

カントリーコード一覧

パレンタルロックの画面で表示されるカントリーコードの一覧です。

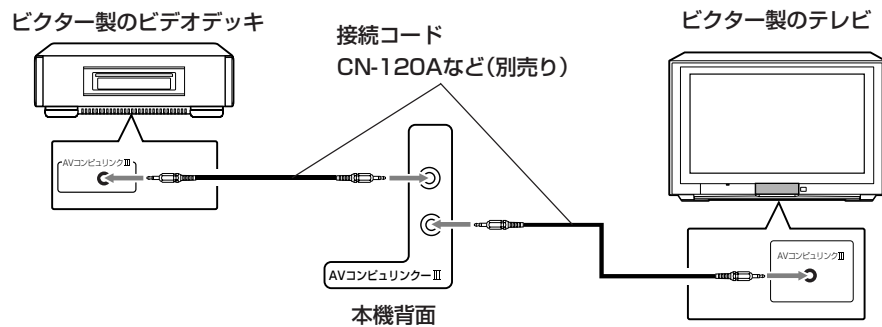
コード	国名
AD	アンドラ
AE	アラブ首長国連邦
AF	アフガニスタン
AG	アンティグア・バーブーダ
AI	アンギラ
AL	アルバニア
AM	アルメニア
AN	オランダ領アンティール
AO	アンゴラ
AQ	南極大陸
AR	アルゼンチン
AS	アメリカ領サモア
AT	オーストリア
AU	オーストラリア
AW	アルバ
AZ	アゼルバイジャン
BA	ボスニア・ヘルツェゴビナ
BB	バルバドス
BD	バングラデシュ
BE	ベルギー
BF	ブルキナファソ
BG	ブルガリア
BH	バーレーン
BI	ブルンジ
BJ	ベナン
BM	バミューダ諸島
BN	ブルネイ王国
BO	ボリビア
BR	ブラジル
BS	バハマ
BT	ブータン
BV	ブーヴェ島
BW	ボツワナ
BY	ベラルーシ
BZ	ベリーズ
CA	カナダ
CC	ココス(キーリング)諸島
CF	中央アフリカ共和国
CG	コンゴ
CH	スイス
CI	コートジボワール
CK	クック諸島
CL	チリ
CM	カメルーン
CN	中国
CO	コロンビア
CR	コスタリカ
CU	キューバ
CV	カーボベルデ
CX	クリスマス島
CY	キプロス
CZ	チェコ共和国
DE	ドイツ
DJ	ジブチ
DK	デンマーク
DM	ドミニカ
DO	ドミニカ共和国
DZ	アルジェリア
EC	エクアドル
EE	エストニア
EG	エジプト
EH	西サハラ
ER	エリトリア
ES	スペイン
ET	エチオピア
FI	フィンランド
FJ	フィジー
FK	フォークランド諸島
FM	ミクロネシア連邦
FO	フェロー諸島
FR	フランス
FX	フランスメトロポリタン
GA	ガボン
GB	イギリス
GD	グレナダ
GE	グルジア
GF	フランス領ギアナ
GH	ガーナ
GI	ジブラルタル
GL	グリーンランド
GM	ガンビア
GN	ギニア
GP	グアドループ島
GQ	赤道ギニア
GR	ギリシャ
GS	南ジョージア・南サンドイッチ諸島
GT	グアテマラ
GU	グアム
GW	ギニアビサウ
GY	ガイアナ
HK	ホンコン(香港)
HM	ハード島・マクドナルド諸島
HN	ホンジュラス
HR	クロアチア
HT	ハイチ
HU	ハンガリー
ID	インドネシア
IE	アイルランド
IL	イスラエル
IN	インド
IO	イギリス領インド洋地域
IQ	イラク
IR	イラン
IS	アイスランド
IT	イタリア
JM	ジャマイカ
JO	ヨルダン
JP	日本
KE	ケニア
KG	キルギスタン
KH	カンボジア
KI	キリバス
KM	コモロ
KN	セントキッツ・ネイビス
KP	北朝鮮
KR	韓国
KW	クウェート
KY	ケイマン諸島
KZ	カザフスタン
LA	ラオス
LB	レバノン
LC	セントルシア
LI	リヒテンシュタイン
LK	スリランカ
LR	リベリア
LS	レソト
LT	リトアニア
LU	ルクセンブルク
LV	ラトビア
LY	リビア
MA	モロッコ
MC	モナコ
MD	モルドバ共和国
MG	マダガスカル
MH	マーシャル諸島
ML	マリ
MM	ミャンマー
MN	モンゴル
MO	マカオ
MP	北マリアナ諸島
MQ	マルチニーク島
MR	モーリタニア
MS	モントセラト
MT	マルタ
MU	モーリシャス
MV	モルディブ
MW	マラウイ
MX	メキシコ
MY	マレーシア
MZ	モザンビーク
NA	ナミビア
NC	ニューカレドニア
NE	ニジェール
NF	ノーフォーク島
NG	ナイジェリア
NI	ニカラグア
NL	オランダ
NO	ノルウェー
NP	ネパール
NR	ナウル
NU	ニウエ
NZ	ニュージーランド
OM	オマーン
PA	パナマ
PE	ペルー
PF	フランス領ポリネシア
PG	パプアニューギニア
PH	フィリピン
PK	パキスタン
PL	ポーランド
PM	サンピエール島・ミクロン島
PN	ピトケアン島
PR	プエルトリコ
PT	ポルトガル
PW	パラオ
PY	パラグアイ
QA	カタール
RE	レユニオン
RO	ルーマニア
RU	ロシア
RW	ルワンダ
SA	サウジアラビア
SB	ソロモン諸島
SC	セイシェル
SD	スーダン
SE	スウェーデン
SG	シンガポール
SH	セントヘレナ島
SI	スロベニア
SJ	スバールバル・ヤンマイエン諸島
SK	スロバキア
SL	シエラレオネ
SM	サンマリノ
SN	セネガル
SO	ソマリア
SR	スリナム
ST	サントメ・プリンシペ
SV	エルサルバドル
SY	シリア
SZ	スワジランド
TC	タークス・カイコス諸島
TD	チャド
TF	フランス領南方諸島
TG	トーゴ
TH	タイ
TJ	タジキスタン
TK	トケラウ諸島
TM	トルクメニスタン
TN	チュニジア
TO	トンガ
TP	東ティモール
TR	トルコ
TT	トリニダード・トバゴ
TV	ツバル
TW	タイワン(台湾)
TZ	タンザニア
UA	ウクライナ
UG	ウガンダ
UM	アメリカ領太平洋諸島
US	アメリカ合衆国
UY	ウルグアイ
UZ	ウズベキスタン
VA	バチカン市国
VC	セントビンセントおよびグレナディーン諸島
VE	ベネズエラ
VG	イギリス領バージン諸島
VI	アメリカ領バージン諸島
VN	ベトナム
VU	バヌアツ
WF	ワリス・フテュナ諸島
WS	サモア
YE	イエメン
YT	マイヨット島
YU	ユーゴスラビア
ZA	南アフリカ
ZM	ザンビア
ZR	ザイール
ZW	ジンバブエ

AVコンピュリンク・リモートコントロールシステム

ビクター製のコンピュリンク対応のAV機器と本機を、AVコンピュリンクⅢ端子を使って接続すると、一体型システムのような簡単操作が実現できます。

・ **接続する前に、必ず電源プラグを家庭用コンセントから抜いておいてください。すべての接続が終わってから電源を入れてください。**

AVコンピュリンクの接続

下図は基本的な接続例です。接続する順番に決まりはなく、すべての機器を橋渡しするように接続します。
機器によっては、コンピュリンク端子が一つしかないことがあります。このようなときは、その機器が一番最後になるように接続します。

ご注意

- AVコンピュリンクでは、DBS端子に接続しているBS/CSチューナーを、操作することはできません。

お知らせ

- ビデオデッキのリモコンコードは「A」に設定してください。
- 操作するビデオ機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

テレビの自動入力切り換え

本機のソース(音源)をDVDにすると、テレビの入力が自動的に切り換わります。

- S映像入力端子に接続しているときは、「**ビデオ1**」に切り換わります。
- 映像入力端子に接続しているときは、「**ビデオ2**」に切り換わります。(ただし、ビクター製テレビではBSデコーダー入力として「**ビデオ2**」が使われているときは「**ビデオ3**」に切り換わります。詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。)
- D映像入力端子またはコンポーネント映像入力端子に接続しているときは、「**ビデオ3**」に切り換わります(テレビ側が対応しているときに限ります)。

自動電源「入」⟷「切」

TV端子やVTR端子に接続されているテレビやビデオデッキの電源が、本機の電源に連動して「**入**」⟷「**切**」します。

本機の電源を入れると:

- 前回選択していたソースが「VTR」のとき、テレビとVTR端子に接続されているビデオデッキの電源も自動的に入ります。
- 前回選択していたソースが「DVD」、「TV」、「DBS」のとき、テレビの電源も自動的に入ります。

本機の電源を切ると:

テレビやビデオデッキの電源も自動的に「**切**」になります。

お知らせ

- ビデオデッキで録画中に、本機の電源を切っても、ビデオデッキの電源は切れず録画が続きます。
- AVコンピュリンクを正しく動作させるためには、本機の映像出力の設定を行う必要があります。本機とテレビとの接続に合わせて、正しく設定してください。
- 「TV」を選んでいるときは、AVコンピュリンクがテレビの入力を自動的に「テレビ」に切り換えるため、テレビ画面でメニューを見ることはできません。
  テレビの入力切換を本機からの出力に変えれば、メニューを見ることができます。
- AVコンピュリンクⅢ対応以前の製品をお使いのときは、最新の機能に対応した動作はできません。

リモコンでビクター製の機器を操作する

本機に付属しているリモコンでビクター製のAV機器を操作することができます。

オーディオ機器を操作する

その前に・・・

- 接続した機器の操作については、機器に付属の取扱説明書も併せてご覧ください。

リモコンで操作する前に・・・

- リモコンは、お使いになる機器のリモコン受光部に向けて操作してください。
- 本体のソース機器選択ボタンで選んだときは、リモコンで操作できないことがあります。必ずリモコンのソース機器選択ボタンを使って選んでください。

本機のチューナー部

FM/AMボタンを押したあとで、次の操作ができます。

チューニング(⊕/⊖)：FM放送/AM放送の選局をします。
メモリー：放送局を記憶させるときに使います。
数字(1〜10、+10)：記憶させた放送局のプリセット番号を直接選びます(プリセット選局)。

(例)・プリセット番号5を選ぶときは、
(5) を押します。
・プリセット番号15を選ぶときは、
(+10) ➡ (5) と押します。
・プリセット番号20を選ぶときは、
(+10) ➡ (10) と押します。

FMモード：FM放送の受信モードを切り換えます。

本機のアンプ部

サラウンドオン/オフ：サラウンドを「**入**」⬌「**切**」します。
サラウンドモード：サラウンドモードを選びます。
サブウーハー (+/−)：サブウーハーの出力レベルを調節します。
センター(+/−)：センタースピーカーの出力レベルを調節します。
サラウンド・左(+/−)：サラウンド左スピーカーの出力レベルを調節します。
サラウンド・右(+/−)：サラウンド右スピーカーの出力レベルを調節します。
エフェクト：エフェクトレベルを調節します。
テストトーン：サラウンド時に、テストトーンを出力します。

MDレコーダー

MDボタンを押したあとで、次の操作ができます。

►(再生)：演奏を始めます。
►►|：次の曲の頭にスキップします。
|◄◄：演奏中の曲(または前の曲)の頭に戻ります。
►►(早送り)：演奏中の曲を早送りします。
◄◄(早戻し)：演奏中の曲を早戻しします。
■(停止)：演奏(または録音)を停止します。
II(一時停止)：演奏(または録音)を一時停止します。再び演奏(または録音)を始めるときは、**►(再生)ボタン**を押します。
数字(1〜10、+10)：曲番号を直接選びます(ダイレクト選曲)。

(例)・曲番号5を選ぶときは、
(5) を押します。
・曲番号15を選ぶときは、
(+10) ➡ (5) と押します。
・曲番号20を選ぶときは、
(+10) ➡ (10) と押します。

CDレコーダー

CDRボタンを押したあとで、次の操作ができます。

►(再生)：演奏を始めます。
►►|：次の曲の頭にスキップします。
|◄◄：演奏中の曲(または前の曲)の頭に戻ります。
►►(早送り)：演奏中の曲を早送りします。
◄◄(早戻し)：演奏中の曲を早戻しします。
■(停止)：演奏(または録音)を停止します。
II(一時停止)：演奏(または録音)を一時停止します。再び演奏(または録音)を始めるときは、**►(再生)ボタン**を押します。
数字(1〜10、+10)：曲番号を直接選びます(ダイレクト選曲)。

(例)・曲番号5を選ぶときは、
(5) を押します。
・曲番号15を選ぶときは、
(+10) ➡ (5) と押します。
・曲番号20を選ぶときは、
(+10) ➡ (10) と押します。

ビデオ機器を操作する

その前に･･･

- 本機と各ビデオ機器を映像/音声コードで接続したあとで、AVコンピュリンク端子(➡ 95 ページ)も接続しておきます。
- 日本ビクター製のビデオデッキには、「A」、「B」2種類のリモコンコードを使えるものがあります。
  本機のリモコンを使って、お手持ちのビクター製ビデオデッキをお使いになるには、VTR入力端子に接続したビデオデッキのリモコンコードを「A」にしておきます。
- 接続した機器の操作については、機器に付属の取扱説明書も併せてご覧ください。

リモコンで操作する前に･･･

- リモコンは、お使いになる機器のリモコン受光部に向けて操作してください。
- 本体のソース機器選択ボタンで選んだときは、リモコンで操作できないことがあります。必ずリモコンのソース機器選択ボタンを使って選んでください。

テレビ

⏻/I テレビ　：テレビの電源を「**入**」⬌「**切**」します。

テレビ音量(+/−)　：テレビの音量を調節します。

テレビ/ビデオ　：テレビの入力を切り換えます。

TVボタンを押したあとで、次の操作ができます。

チャンネル(+/−)　：テレビのチャンネルを変更します。
数字(1〜10、11、12)　：テレビの受信チャンネルを選びます。

デジタルテレビは本機のリモコンでは操作できません。

ビデオデッキ

- ビデオデッキのリモコンコードを「A」に設定してください。

⏻/I ビデオ　：ビデオデッキの電源を「**入**」⬌「**切**」します。

VTRボタンを押したあとで、次の操作ができます。

チャンネル(+/−)　：チャンネルを変更します。
数字(1〜9、0)　：ビデオデッキのチューナーの受信チャンネルを選びます。

►(再生)　：再生を始めます。

◄◄　：テープを巻き戻します。

►►　：テープを早送りします。

■(停止)　：再生(または録画)を停止します。

II(一時停止)　：再生(または録画)を一時停止します。
再び再生(または録画)を始めるときは、**►(再生)**を押します。

リモコンで他メーカーの機器を操作する

本機のリモコンで他メーカーのテレビやビデオデッキを操作することができます。

リモコンで他メーカーのテレビやビデオデッキを操作するときは、それぞれのメーカーに対応したコードを設定する必要があります。お使いの機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

ご注意

- リモコンの乾電池を交換したときは、もう一度メーカーコードの設定をしてください。

テレビのメーカーコードを設定する

1. ⏻/Iテレビボタンを押したまま･･･ TVボタンを押したあと、数字ボタン(1～9、0)を使ってメーカーコード番号(2ケタ)を入力する

例: お使いのテレビが松下製(23)のとき

TV ➡ 2 ➡ 3 と押す

各メーカーのコード番号は下表をご覧ください。

2. ⏻/Iテレビボタンを離す

3. ⏻/Iテレビボタンを押して設定を確認する

テレビの電源が「入」⟷「切」できたら設定は終了です。
もしうまく機能しないときは、同じメーカーの別のコード番号を使って、もう一度設定し直します。

テレビを操作する

⏻/Iテレビ　: テレビの電源を「入」⟷「切」します。
テレビ音量(+/−)　: テレビの音量を調節します。
テレビ/ビデオ　: テレビの入力を切り換えます。

TVボタンを押したあとで、次の操作ができます。

数字(1～10、11、12): テレビの受信チャンネルを選びます。
チャンネル(+/−)　: テレビのチャンネルを変更します。

デジタルテレビは、本機のリモコンでは操作できません。

ビデオデッキのメーカーコードを設定する

1. ⏻/Iビデオボタンを押したまま･･･ VTRボタンを押したあと、数字ボタン(1～9、0)を使ってメーカーコード番号(2ケタ)を入力する

例: お使いのビデオデッキが松下製(24)のとき

VTR ➡ 2 ➡ 4 と押す

各メーカーのコード番号は下表をご覧ください。

2. ⏻/Iビデオボタンを離す

3. ⏻/Iビデオボタンを押して設定を確認する

ビデオデッキの電源が「入」⟷「切」できたら設定は終了です。
もしうまく機能しないときは、同じメーカーの別のコード番号を使って、もう一度設定し直します。

ビデオデッキを操作する

⏻/Iビデオ　: ビデオデッキの電源を「入」⟷「切」します。

VTRボタンを押したあとで、次の操作ができます。

▶(再生)　: 再生を始めます。
■(停止)　: 再生(または録画)を停止します。
❚❚(一時停止)　: 再生(または録画)を一時停止します。再び再生(または録画)を始めるときは、**▶(再生)**ボタンを押してください。
◀◀　: テープを巻き戻します。
▶▶　: テープを早送りします。
チャンネル(+/−)　: チャンネルを変更します。

• メーカーコード番号一覧(テレビ)

機器名	メーカー名	メーカーコード番号
テレビ	日本ビクター	01、02、03
	アイワ	28、29
	NEC	15
	コルティナ	31、32、33、34
	サンヨー	04、05、06
	シャープ	07、08
	ソニー	11、12、13
	東芝	14
	パイオニア	16
	日立	17、18
	フィリップス	30
	富士通	09、10
	フナイ	19、20、21、22
	松下	23、24、25、26
	三菱	27

• メーカーコード番号一覧(ビデオデッキ)

機器名	メーカー名	メーカーコード番号
ビデオデッキ	日本ビクター	01、02、03
	アイワ	30、31、32、33、34
	NEC	16、17、18、19
	コルティナ	36
	サンヨー	04、05、06、07
	シャープ	08、09
	ソニー	11、12、13
	東芝	14、15
	パイオニア	20
	日立	21、22
	フィリップス	35
	富士通	10
	フナイ	23
	松下	24、25、26、27
	三菱	28、29

音声信号/サラウンド対応表

音声信号/サラウンド対応表 （➡ 52 53ページ参照）

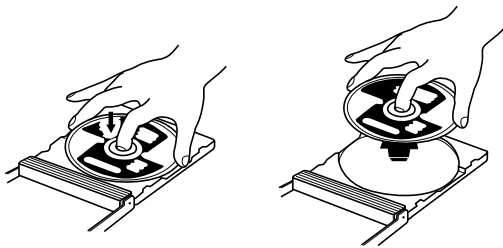
○: 可　×: 不可

サラウンド / 音声信号	STEREO サラウンド「切」	ドルビーデジタル	MPEG-2 AAC	DTS	PLⅡ ムービー	PLⅡ ミュージック	LIVE CLUB	DANCE CLUB	HALL	PAVILION	オールチャンネルステレオ
ドルビーデジタル (マルチチャンネル)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ドルビーデジタル (2 チャンネル)	○	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×
DTS (マルチチャンネル)	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
DTS (2 チャンネル)	○	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×
MPEG-2 AAC (マルチチャンネル)	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×
MPEG-2 AAC (2 チャンネル)	○	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×
リニア PCM	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○
アナログ	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○
MP3	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

ディスクの取り扱いとお手入れ

取り扱い時の注意

ディスクを取り扱うときは、以下のことにご注意ください。正しく取り扱わないと、信号を読み取れなくなったり、ノイズが生じたり、また誤動作の原因となることがあります。

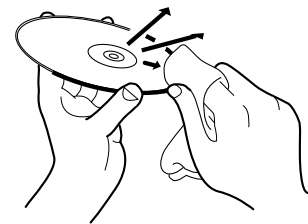
- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながらディスクを持ち上げてください。

- ディスクに傷をつけないでください。
- ディスクの信号面（鏡面）を汚したり、ラベル面に紙やセロハンテープなどを張らないでください。
- ディスクを反らせないでください。

ディスクの保管

使用するディスクは、ほこり、傷、変形などを防ぐため、必ず専用のケースの中に入れて保管し、次のようなところには絶対に置かないでください。

- 直射日光の当たるところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 暖房器のそばや車の中など

ディスクのクリーニング

- ディスクの信号面についたほこりや指紋は、柔らかい乾いた布でディスクの中心から外に向かって軽く拭いてください。ディスクの円周方向には拭かないでください。

- レコードクリーナーやレコードスプレー、シンナーおよびベンジンなどの溶剤を、ディスクのクリーニングには使用しないでください。

お知らせ

- ハートや花などの形をしたシェイプCD（特殊形状のCD）は、絶対に使用しないでください。本体の故障の原因となります。
- ディスク･スタビライザーは使用しないでください。

故障かな?と思う前に

故障かな？と思ったら、修理に出す前に以下の点検をしてください。下記の項目に当てはまらないときは、本機以外の原因も考えられます。接続している機器なども併せてお調べください。なお、下記の項目をチェックしても直らないときは、「保証とアフターサービス」(➡ 102 ページ)をお読みの上、修理を依頼してください。

電源について

症　状	原　因	処　置
電源が入らない。	電源コードがコンセントから抜けている。	電源プラグをしっかりと差し込む。
再生中に電源が「**切**」になる。	オートスタンバイが設定されている。	オートスタンバイを解除する(➡ 91 ページ)。

リモコン操作について

症　状	原　因	処　置
リモコンが働かない。	本機から離れすぎているか本機のリモコン受光部に向いていない。	リモコン受光部に向けて約7m以内で障害物を避けて送信する。
	電池が消耗している。	電池を交換する(➡ 25 ページ)。
	電池の極性(⊕、⊖)が違う。	電池を正しく入れ直す(➡ 25 ページ)。
	リモコン受光部に直射日光が当たっている。	直射日光をさえぎる。
リモコンでテレビやビデオデッキが操作できない(ビクター製以外のとき)。	入力した他メーカーのコード番号が間違っている。	正しいメーカーコード番号を入力し直す(➡ 98 ページ)。

音声について

症　状	原　因	処　置
音が出ない。	スピーカーコードが接続されていない。	正しく接続する(➡ 16 ページ)。
	スピーカーコードがショート(短絡)している。	正しく接続し、本機の電源を入れ直す。
	オーディオコードを正しく接続していない。	正しく接続する(➡ 18 ～ 24 ページ)。
	間違ったソースが選ばれている。	正しいソース(音源)を選ぶ。
	消音機能が働いている。	**消音ボタン**を押して、消音機能を解除する(➡ 34 ページ)。
	間違った入力信号(アナログまたはデジタル)が選ばれている。	正しい入力信号を選ぶ(➡ 36 ページ)。
	ディスクが汚れている。	ディスクをクリーニングする(➡ 99 ページ)。
片方のスピーカーからしか音が出ない。	スピーカーコードを正しく接続していない。	接続を確認する。
	左右のバランスが合っていない。	バランスを正しく調節する(➡ 49 ページ)。
音がひずむ。	録音モードが「ON」になっている。	**REC MODEボタン**を押して、本体表示窓に「RECMODE OFF」と表示させる(➡ 39 ページ)。または、音量を下げる。
	ディスクが汚れている。	ディスクをクリーニングする(➡ 99 ページ)。
	スキャンモードがプログレッシブのときの「映像ソース」の設定が間違っている。	映像ソースを「ビデオ(ノーマル)」または「ビデオ(アクティブ)」に設定する(➡ 87 ページ)。
表示窓に「OVERLOAD」と表示される。	スピーカーの音量を上げ過ぎている。	音量を調節し、本機の電源を入れ直す。
表示窓に「MULTI CH」または「L/R ONLY」と表示される。	接続したスピーカーとサラウンドの設定が合っていない。	サラウンドを設定し直す(➡ 54 ページ)。

映像について

症　状	原　因	処　置
映像が出ない。	ビデオコードを正しく接続していない。	正しく接続する(➡ 18 ～ 24 ページ)。
	間違ったソースが選ばれている。	正しいソース(音源)を選ぶ。
	テレビの入力選択が間違っている。	正しい入力を選ぶ。
画面サイズがおかしい。	「TVタイプ」の設定がお手持ちのテレビと合っていない。	「TVタイプ」を正しく設定する(➡ 87 ページ)。
映像が乱れる。	ディスクが汚れている。	ディスクをクリーニングする(➡ 99 ページ)。
	本機とテレビの間にビデオデッキまたはビデオ内蔵型テレビを接続している。	本機とテレビを直接接続する。
	スキャンモードがプログレッシブのときの「映像ソース」の設定が間違っている。	映像ソースを「ビデオ(ノーマル)」または「ビデオ(アクティブ)」に設定する(➡ 87 ページ)。
	プログレッシブ非対応のテレビを接続しているが、本機のスキャンモードが「プログレッシブスキャン」モードに設定されている。	スキャンモードを「INTERLACE(インターレース)」モードに設定する(➡ 38 ページ)。

DVDプレーヤーについて

症　状	原　因	処　置
表示窓に「0:00」と表示されて、再生が始まらない。	本機で再生できないディスクを再生しようとしている。	ディスクを確認する。(➡ 9 10 ページ)
	暖房を始めた直後や、寒いところから急に暖かいところへ移動したことによって本機の内部に水滴がついている。	電源を入れたままラジオなどを聞き、数時間してからディスクを入れる。
	ディスクが正しくセットされていない。	ディスクを正しくセットする。
再生できない。	**DVDビデオのとき:** 本機とディスクのリージョンコード(再生可能地域番号)が異なっている。	ディスクを取り換える。
	DVDビデオのとき: 視聴制限が設定されている。	パレンタルロックの設定を変更する(➡ 92 93 ページ)。
	オーディオCDのとき: オーディオCDフォーマットではないCD-R/RWなど、本システムで再生できないディスクがディスクトレイに入っている。	ディスクを確認する(➡ 9 10 ページ)。
	MP3やJPEGのとき: MP3ファイルやJPEGファイルのファイル名が正しくない(拡張子がないなど)ファイルがディスクに入っている。	ディスクを確認し、正しいファイル名に直す(➡ 80 82 ページ)。
選んだグループが再生できない(テレビ画面に「KEY_ _ _ _」と表示される)。	**DVDオーディオのとき:** ボーナスグループが選択されている。	暗証番号を入力する(➡ 58 ページ)。
表示窓に「MULTI CH」と表示され、ステレオ音声にならない。	**DVDオーディオのとき:** ＰＰＣＭのマルチチャンネル音声で、ダウンミックスが禁止されているトラックを再生している。	停止し、サラウンドモードを「**切**」にして再生する。表示窓に「LR ONLY」と表示され、ステレオ音声で出力される(➡ 53 ページ)。
表示窓に「LR ONLY」と表示され、マルチチャンネル音声にならない。	**DVDオーディオのとき:** ＰＰＣＭのマルチチャンネル音声で、ダウンミックスが禁止されているトラックを再生している。	停止し、サラウンドモードを「**入**」にして再生する。表示窓に「MULTI CH」と表示され、マルチチャンネル音声で出力される(➡ 53 ページ)。
音声言語/音声が切り換えられない。	**DVDビデオ、DVDオーディオ、ビデオCD、スーパービデオCDのとき:** 再生中のディスクに複数の音声言語/音声が収録されていない。	複数の音声言語/音声が収録されているディスクに換える(➡ 65 78 ページ)。
字幕言語が切り換えられない。	**DVDビデオ、スーパービデオCDのとき:** 再生中のディスクに複数の字幕言語が収録されていない。	複数の字幕言語が収録されているディスクに換える(➡ 66 78 ページ)。
字幕が出ない。	**DVDビデオ、スーパービデオCDのとき:** 再生中のディスクに字幕が収録されていない。	字幕が収録されているディスクに換える(➡ 66 78 ページ)。
	DVDビデオ、スーパービデオCDのとき: A-Bリピート中は字幕は正しく表示されないことがあります。	——
アングルが切り換えられない。	**DVDビデオのとき:** 再生中のディスクに複数のアングルが収録されていない。	複数のアングルが収録されているディスクに換える(➡ 67 78 ページ)。

ラジオ(FM/AM)について

症　状	原　因	処　置
FM/AM放送を受信中に連続的に雑音が入る、または受信できない。	受信している電波が弱すぎる。	FM屋外アンテナを接続するか、お買い上げの販売店に問い合わせる。
	放送局が遠い。	別の放送局を選ぶ。
	アンテナが正しく接続されていない。	正しく接続する。
正しく動作しない	雷や電子ノイズでマイコンが誤作動している。	いったん電源を「切」にして、電源プラグをコンセントから抜いて接続し直す。

保証とアフターサービス

保証書（別添）

保証書は、お買い上げの販売店よりお受け取りください。「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、記載内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げの日から１年間

補修用性能部品の最低保有期間

この機器の補修用性能部品の
最低保有期間は、製造打切り後８年です。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご相談やご不明な点は

修理に関するご相談やご不明な点は、**お買い上げの販売店**にご相談ください。

修理を依頼されるときは　出張修理

100 101 ページの「故障かな？と思う前に」に従ってお調べください。それでもなお異常のあるときは、使用を中止し、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。このとき不具合の発生したディスクも一緒にご用意ください。

保　証　期　間　中　は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

品　　名	プログレッシブ DVD内蔵 AV レシーバー
型　　名	RX-DV31
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご　住　所	付近の目印等も併せてお知らせください
お　名　前	
電話番号	
訪問ご希望日	

便利メモ	お買い上げ店名	☎（　　）　-

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、お客様のご要望により有料で修理させていただきます。

修　理　料　金　の　仕　組　み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、測定機器等設備費、故障診断、修理および部品交換、調整、点検にかかる費用です。

＋

部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

＋

出張料	製品のある場所へ技術者を派遣するための費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

■ この製品の製造時期は本体の背面に表示されております。

お願い

- 本機の故障または不具合等によりディスクの再生などにおいて、利用の機会を逸したため発生した損害等の補償については、ご容赦ください。

ビクターサービス窓口案内（ビクターサービスエンジニアリング株式会社）

ビクター製品のアフターサービスはお買い上げの販売店へご相談ください

ご転居等で保証書記載のお買い上げ販売店にアフターサービスをご依頼になれない場合は、最寄りの「ご相談窓口」にご相談ください。

都府県名	窓口名	TEL	〒	所在地
北海道				
北海道	札幌 S.C.	(011)898-1180	004-0005	札幌市厚別区厚別東5条1-2-29
	旭川 S.C.	(0166)61-3659	070-8012	旭川市神居二条3-2-15
	北見 S.S.	(0157)25-8557	090-0037	北見市山下町4-7-19
	釧路 S.S.	(0155)24-0797	080-0005	釧路市松浦町3番3号
	帯広 S.S.	(0155)24-4493	080-0806	帯広市東六条南12-11
	函館 S.S.	(0138)52-5324	040-0001	函館市五稜郭町4-16函館五稜郭MFビル1F
東北				
青森	青森 S.C.	(017)723-2261	030-0844	青森市桂木4-6-17
	八戸 S.S.	(0178)44-4521	031-0803	八戸市諏訪2-2-36
	弘前 S.S.	(0172)28-0165	036-8084	弘前市高田1-13-1
岩手	盛岡 S.C.	(019)673-0121	020-0835	盛岡市津志田9地割24-1
	水沢 S.S.	(0197)22-2773	023-0815	水沢市天文台通り3-12
秋田	秋田 S.C.	(018)824-3189	010-0953	秋田市山王中園町4-1
	大館 S.S.	(0186)43-0980	017-0874	大館市美園町5-6
	横手 S.S.	(0182)32-8873	013-0064	横手市赤坂字大道向3-6
宮城	仙台 S.C.	(022)287-0151	984-0011	仙台市若林区六丁の目西町7-13
	石巻 S.S.	(0225)94-7711	986-0853	石巻市門脇字四番谷地8-18
山形	山形 S.C.	(023)642-0279	990-2412	山形市松山3-12-18
	酒田 S.S.	(0234)26-7145	998-0842	酒田市亀ヶ崎6-6-1
福島	郡山 S.C.	(024)952-6331	963-0205	郡山市堤1-3
	いわき S.S.	(0246)27-7991	973-8409	いわき市内郷御台境町鶴巻6-1
	会津若松 S.S.	(0242)38-1355	965-0831	会津若松市表町1-44ハイツシンフォニー101
	福島 S.S.	(024)553-9437	960-0103	福島市本内字南原26-1
関東・甲信越				
新潟	新潟 S.C.	(025)242-3431	950-0084	新潟市明石1-2-19
	長岡 S.S.	(0258)24-8391	940-0012	長岡市下下条2-1366-1
	上越 S.S.	(025)545-1734	942-0081	上越市五智1-11
長野	長野 S.C.	(026)221-6583	380-0913	長野市川合新田962-1
	松本 S.S.	(0263)25-9165	390-0828	松本市庄内2-4-21
群馬	前橋 S.C.	(027)255-5921	371-8543	前橋市大渡町1-10-1 日本ビクター（株）前橋工場
栃木	宇都宮 S.C.	(028)638-1639	321-0953	宇都宮市東宿郷3-5-22
茨城	水戸 S.C.	(029)246-1560	310-8526	水戸市元吉田町1030 日本ビクター（株）水戸工場技術ビル１Ｆ
	土浦 S.S.	(029)821-8756	300-0813	土浦市富士崎1-10-1
山梨	甲府 S.S.	(055)237-4016	400-0864	甲府市湯田2-11-5
千葉	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	千葉 S.C.	(043)246-2588	261-0001	千葉市美浜区幸町2-1-1
	柏 S.C.	(0471)75-4322	277-0863	柏市豊四季512-10-67
	浦安 S.S.	(047)353-6189	279-0001	浦安市当代島2-13-27
東京	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	本郷 S.C.	(03)5684-8254	113-0033	文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル1F
	秋葉原 S.S.	(03)3251-2128	101-0021	千代田区外神田1-6-6
	練馬 S.C.	(03)3993-7520	176-0014	練馬区豊玉南1-19-1
	大田 S.C.	(03)3727-9385	145-0062	大田区北千束2-20-6
	八王子 S.C.	(0426)46-6914	192-0045	八王子市大和田町2-9-6
	【業務用機器専門】のご相談窓口			
	CSセンター	(03)3874-5231	110-0003	台東区根岸5-4-3
埼玉	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大宮 S.C.	(048)654-5241	331-0814	さいたま市北区東大成町2-658-1
	熊谷 S.S.	(048)553-5105	361-0057	行田市城西2-7-39ツインハイツ石山B
神奈川	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	横浜 S.C.	(045)651-0403	231-0028	横浜市中区翁町1-3-1
	川崎 S.C.	(044)975-1879	216-0024	川崎市宮前区南平台3-2（第2石原ビル）
	平塚 S.C.	(0463)36-2160	254-0065	平塚市南原2-4-5
	相模原 S.C.	(042)776-2052	229-0004	相模原市古淵3-7-4
	横浜 T.C.	(046)234-4500	243-0401	海老名市東柏ヶ谷6-19-26
東海・北陸				
静岡	静岡 S.C.	(054)282-4141	422-8043	静岡市中田本町62-31中田ビル１Ｆ
	沼津 S.S.	(0559)22-1557	410-0041	沼津市筒井町6-5
愛知	浜松 S.S.	(053)421-3441	435-0041	浜松市北島町785
	名古屋 S.C.	(0568)25-3235	481-0041	西春日井郡西春町九之坪鴨田121-1
	三河 S.C.	(0564)51-5931	444-0833	岡崎市桂曙3-10-12
	豊橋 S.S.	(0532)64-0815	440-0028	豊橋市多米東町1-1-1
岐阜	岐阜 S.S.	(058)274-1947	500-8367	岐阜市宇佐南3-1-28
三重	三重 S.S.	(0593)52-0841	510-0076	四日市市堀木2-15-2
	津 S.S.	(059)229-7780	514-0815	津市大字藤方485-18
富山	富山 S.C.	(076)425-2397	939-8211	富山市二口町四丁目1-3
石川	金沢 S.C.	(076)269-4821	921-8062	金沢市新保本四丁目65-17
福井	福井 S.S.	(0776)53-6916	910-0843	福井市西開発3-211

都府県名	窓口名	TEL	〒	所在地
近畿				
滋賀	滋賀 S.S.	(077)582-5812	524-0033	守山市浮気町268
京都	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	京都 S.C.	(075)644-0247	612-8401	京都市伏見区深草下川原町31-1
京都北部	福知山 S.S.	(0773)22-8664	620-0059	福知山市厚東町145-2
大阪	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	奈良 S.C.	(0744)24-6271	634-0007	橿原市葛本町834-2
	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	堺 S.S.	(0722)54-2881	591-8032	堺市百舌鳥梅町3丁目21-2 伊助ハイツ
	【業務用機器専門】のご相談窓口			
	大阪メンテナンスセンター	(06)6304-6715	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
和歌山	和歌山 S.S.	(073)472-6799	640-8323	和歌山市太田430-8
	田辺 S.S.	(0739)22-9976	646-0031	田辺市湊1581-12
兵庫中東部	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	神戸 S.C.	(078)252-0562	651-0086	神戸市中央区磯上通3-2-16
兵庫西部	姫路 S.S.	(0792)34-3833	670-0975	姫路市中地南町11-1
中国				
岡山	岡山 S.C.	(086)243-1566	700-0927	岡山市西古松西町8-23
広島	広島 S.C.	(082)243-9839	730-0825	広島市中区光南3-9-17
	福山 S.S.	(0849)31-6984	721-0973	福山市南蔵王町3-5-15
山口	山口 S.C.	(083)973-3708	754-0022	吉敷郡小郡町花園町5-28
	徳島 S.S.	(0834)27-1331	745-0042	徳山市野上町2-35
	下関 S.S.	(0832)51-1040	751-0852	下関市熊野町2-14-23
島根	山陰ビクター販売（株） 松江 S.C.	(0852)31-8900	690-0823	松江市学園1-16-39
鳥取	山陰ビクター販売（株） 鳥取 S.S.	(0857)23-2151	680-0911	鳥取市千代水1丁目22-1
四国				
香川	高松 S.C.	(087)866-1200	761-8057	高松市田村町205-1
徳島	徳島 S.C.	(088)622-7387	770-8052	徳島市沖浜2-37
高知	高知 S.C.	(088)882-0546	780-8122	高知市高須新町4-143
愛媛	松山 S.C.	(089)923-0372	791-8015	松山市中央1-4-12
	宇和島 S.S.	(0895)20-1018	798-0087	宇和島市坂下津甲407-40
九州・沖縄				
福岡佐賀	福岡 S.C.	(092)-431-1261	812-0011	福岡市博多区博多駅前4-16-1
	久留米 S.S.	(0942)-39-3495	830-0038	久留米市西町字神浦1-1192
	北九州 S.C.	(093)921-3981	802-0064	北九州市小倉北区片野2-15-12
長崎	長崎 S.C.	(095)862-5522	852-8021	長崎市城山町9-13
	佐世保 S.S.	(0956)33-5568	857-1166	佐世保市木風町1467-2
大分	大分 S.C.	(097)543-1422	870-0882	大分市大道町4-1-2
熊本	熊本 S.C.	(096)353-4536	861-4101	熊本市近見町8-1-10
宮崎	宮崎 S.S.	(0985)24-5401	880-0032	宮崎市霧島町3-59
	延岡 S.S.	(0982)35-7707	882-0857	延岡市惣領町24-3
鹿児島	鹿児島 S.C.	(099)282-8818	890-0034	鹿児島市田上七丁目9-8
沖縄	沖縄 S.C.	(098)898-3631	901-2227	沖縄県宜野湾市宇地泊760

所在地、電話番号が変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。　0403

●略号について　S.C.はサービスセンターの略称です。
S.S.はサービスステーションの略称です。
T.C.はテクニカルセンターの略称です。

主な仕様

• JEITAは、電子情報技術産業協会の規格による測定値です。

• 本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

区分	項目	仕様
	再生可能ディスク	DVDビデオ、DVDオーディオ、DVD-R(ビデオフォーマット)、スーパービデオCD、ビデオCD、オーディオCD、CD-R/RW (CDフォーマット、MP3ファイル、JPEGファイル)
	映像信号方式	JEITA標準、NTSCカラーテレビジョン方式
	水平解像度	500本
	S/N比	63 dB
映像入力端子	映像(コンポジット)	DBS、VTR ： 1.0 V(p-p)/75 Ω、同期負
	S映像	DBS、VTR Y入力 ： 1.0 V(p-p)/75 Ω、同期負 C入力 ： 0.286 V(p-p)/75 Ω
映像出力端子	映像(コンポジット)	VTR、モニター ： 1.0 V(p-p)/75 Ω、同期負
	S映像	VTR、モニター Y出力 ： 1.0 V(p-p)/75 Ω、同期負 C出力 ： 0.286 V(p-p)/75 Ω
	コンポーネント、D1/D2映像	DVD Y出力 ： 1.0 V(p-p)/75 Ω P_B/C_B、P_R/C_R出力 ： 0.7 V(p-p)/75 Ω
実用最大出力	フロント1	100W+100W (6 Ω)
	フロント2	100W+100W (6 Ω)
	センター	100W (6 Ω)
	サラウンド	100W+100W (6 Ω)
音声入力端子	アナログ入力	TV、MD/CDR、DBS、VTR ： 220 mV/47 kΩ
	デジタル入力	同軸デジタル1 ： 0.5 V(p-p)/75 Ω 光　デジタル2 ： −21 dBm ～ −15 dBm (サンプリング周波数　32kHz、44.1kHz、48kHzに対応)
音声出力端子	アナログ出力	モニター、MD/CDR、VTR サブウーハー ヘッドホン(ø3.5)
	デジタル出力	光 ： −21 dBm ～ −15 dBm　(ピーク)
	その他の端子	AVコンピュリンクⅢ (×2)
	S/N比	TV、MD/CDR、DBS、VTR ： 87 dB ('66 IHF)
	周波数特性	TV、MD/CDR、DBS、VTR ： 20 Hz～20 kHz (±1 dB)
FMチューナー	受信周波数	76.0 MHz～108.0 MHz
	アンテナ	75 Ω不平衡型
AMチューナー	受信周波数	531 kHz～1629 kHz
	アンテナ	アンテナ外部端子(ループアンテナ)
その他	スリープタイマー	10、20、30、60、90、120、150分
	電　源	AC 100 V、50 Hz/60 Hz共用
	消費電力	電源「入」時　200 W 電源「切(待機)」時　2 W
	最大外形寸法(幅×高さ×奥行)	435 mm×100 mm×403.5 mm
	質　量	約8.4 kg

用語解説

あ

アスペクト比
表示される映像の縦横比のことです。通常のテレビの横：縦の比は4：3、ワイドテレビおよびHDテレビの横：縦は16：9の比率をもっています。

インターレースモード
従来の映像方式。プログレッシブモードの半分の走査線を交互に表示することによって映像を再現します。

か

カーソル
一般的には数字などの挿入ポイントのことをいいます。

片面ディスク
DVDディスクのうち、信号読み出し面が片面のみのものをいいます。片面1層と片面2層があります。

グループ
DVDオーディオの構成単位です。グループはさらに「トラック」に分割されます。

コンポジット
輝度信号と色信号を周波数多重技術で複合した映像信号と、色の基準となるバースト信号、同期信号を組み合わせた複合映像信号のことです。

コンポーネント
光の3原色からなる映像信号を再現するために必要な情報の一部を、各々別の信号線で伝送するビデオ信号方式のことです。R/G/BやY/C_B/C_Rなどの信号形式があります。

さ

サラウンド
視聴者の周囲にスピーカーを複数配置し、臨場感あふれる立体音場を作りだすシステムをいいます。

サンプリング周波数
アナログ信号からデジタル信号に変換する際の標本化周波数のことです。1秒間に何回の割合で、もとのアナログ信号を標本化し、デジタル信号に変換するかを数値で表したものです。

色差信号
R/G/Bのそれぞれの信号から輝度信号（Y信号）を引いた信号で、色相と色の濃さを表す信号をいいます。

た

ダウンミックス
サラウンド方式(3ch以上)で記録されたマルチチャンネル音声トラックを、ステレオ2ch音声に変換して再生する機能をいいます。一般には、信号チャンネル数よりも、スピーカーの数が少ないときに行なわれるミキシングのことです。

チャプター
タイトル内の各章のことです。

ディスクメニュー
DVDビデオに複数記録されたタイトルの映像や音声、字幕、マルチアングル等を選ぶために用意された画面をいいます。

ドルビーデジタル
家庭用デジタルサラウンド方式として開発されたドルビーデジタル（AC-3）方式のことをいいます。最大フロント2ch、センター1ch、サラウンド2chおよびサブウーハー0.1chで構成される5.1chが特長です。

は

パックドPCM(PPCM)
DVDオーディオで採用されている音声信号です。圧縮時のデータ損失がないのが特長です。

パレンタルロック
映像および音声の内容が視聴者に対して適切なものかどうか（たとえば教育上好ましくないシーン等に対して）を、あらかじめソフトに設定されたパレンタルレベルと、本システムに視聴者が設定した再生可能パレンタルレベルの上限とを照らし合わせ、本システムが自動的に判断し再生する機能です。

ビットストリーム
各種エンコード作業によって作成されたデジタルデータをさします。

ビットレート
1秒間に送りだすデジタルデータのデータ量のことです。本システムではMP3再生時に、録音時のビットレートを表示します。

プレイバックコントロール（PBC）
ビデオCD（バージョン2.0）に記録されている、再生をコントロールするための信号です。PBC対応ビデオCDに記録されているメニュー画面を使って、対話型のソフトや検索機能を持ったソフトなどが楽しめます。

プログレッシブモード
一度にすべての走査線（インターレースモードではその半分）で表示する映像方式。インターレースモードよりも高精細な映像を再現します。

ボーナスグループ
DVDオーディオに収録されている暗証番号の入力によって、再生が可能となるグループの呼称です。

ま

マルチアングル
一つのタイトルの中に、同一時間で進行する複数の場面を収録し、これをユーザーの操作により切り換えて視聴できるようにした機能です。

マルチチャンネル
DVDビデオでは、一本の音声トラックで一つの音場を構成するように定められていますが、このうち3つ以上のチャンネルをもった音声トラックの構成をいいます。

マルチランゲージ
一つのタイトルが複数の言語に対応して制作されていることを一般的にマルチランゲージといいます。

ら

リージョンコード(再生可能地域番号)
DVDビデオの再生可能地域を限定するコードです。DVDビデオとDVDプレーヤーの両方のリージョンコードが一致しないと再生できません。本機のリージョンコードは「2」ですので、ディスクに「2」という番号が含まれているディスクに限り再生することができます。

リニアPCM音声
アナログ音声信号をデジタル信号に変換して扱う方式の一つで、変換に際して圧縮をまったくしない方式のことです。

両面ディスク
DVDディスクのうち、信号読み出し面が両側のものです。反対の面を再生するには、ディスクを裏返す必要があります。

レターボックス
4：3テレビに映画などの横長の画像を欠けることなく映し出すために画面の上下に黒などの帯を付け、画面中央部にこの横長画像を映し出す手法です。画面が文字通り郵便受けに似ていることから名付けられたものです。

用語索引

ア行

カ行

サ行

タ行

ハ行

マ行

ラ行

ワ行

アルファベット

別売りのオプション品

- オーディオコード : CN-510E
  （ピンプラグ×2〜ピンプラグ×2）
  : CN-168G
  （ピンプラグ×4〜ピンプラグ×2）
- ビデオコード : VX-110E
- Sビデオコード : VC-S110E
- コンポーネントビデオコード : VX-D115E
  （ピンプラグ×3〜ピンプラグ×3）
- D映像接続コード : VX-DS110（Dプラグ〜Dプラグ）
- 同軸デジタルコード : CN-D110E
- 光デジタルケーブル : XN-110SA
- パワードサブウーハー : SX-DW303
- TVサイドスタンド : LS-THA10VJ
- DVDレンズクリーナー : CL-DVDL
- アンテナコネクター : VZ-71A

別売りのオプション品は、お買い上げの販売店でお求めください。
（品番は変更されることがあります）

ご相談や修理は

ビクター製品についてのご相談や修理のご依頼は、
お買い上げの販売店にご相談ください。

転居されたり、贈答品などでお困りの場合は、下記の相談窓口にご相談ください。

修理などのアフターサービスに関するご相談 **ビクターサービスエンジニアリング株式会社**	お買い物相談や製品についての全般的なご相談 **お客様ご相談センター**
103ページの「ビクターサービス窓口案内」をご覧ください。	フリーダイヤル 0120−2828−17 携帯電話・PHS・FAXなどからのご利用は 東京 ☎(03) 5684-9311 FAX(03) 5684-9317 〒113-0033 東京都文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル 大阪 ☎(06) 6765-4161 FAX(06) 6765-4891 〒550-0013 大阪市西区新町3-1-31 新町レナウンビル

ビクターインターネットホームページアドレス　http://www.jvc-victor.co.jp/

日本ビクター株式会社
AV＆マルチメディアカンパニー
〒221-8528　神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

0503NHMMDWJEM